

第6期 介護保険事業計画
策定のためのアンケート調査
報告書

平成 26 年 9 月
生 駒 市

目 次

I 調査の概要

1. 調査目的	1
2. 調査期間	1
3. 調査の分類及び対象者等	1
4. 調査方法	1
5. 調査項目	1
6. 報告書の見方	1
7. 二次予防（事業）対象者について	2
8. 対象者について	3

II 市民意識調査の結果

1. 回収状況	4
2. 回答者の概要	5
3. 回答者の状況	7
4. 生活機能等の状況	20
5. 日常生活圏域の状況	52
6. 今後の生活	63
7. 地域との関係	68
8. 健康づくりなどの取り組み	71
9. 施策などについて	76
10. 自由記述	83

III 居宅介護支援事業所等アンケート調査の結果

1. 事業所の概要	87
2. 運営状況	89

IV 介護事業所アンケート調査の結果

1. 事業所の概要	97
2. 運営状況	99
3. 今後の展開	102

参考 調査票

1. 第6期介護保険事業計画策定のための市民意識調査	105
2. 第6期介護保険事業計画策定のための居宅介護支援事業所・ 介護予防支援事業所向けアンケート	120
3. 第6期介護保険事業計画策定のための事業者向けアンケート	127

I 調査の概要

1. 調査目的

地域の課題をより今まで以上に的確に把握し、第6期介護保険事業計画策定の基礎資料とするため、市民意識調査を実施する。また、専門職種による意見を聴取し、計画策定に反映するため、市内の介護サービス事業所に対するアンケート調査を実施する。

2. 調査期間

平成26年5月～6月

3. 調査の分類及び対象者等

分類	対象	対象者数	回収状況
市民意識調査※	一般高齢者（65歳以上）	2,500人	2,134人 (回収率85.4%)
	要介護（支援）認定者（65歳以上）	500人	382人 (回収率76.4%)
事業者調査	居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所	36か所	31か所 (回収率86.1%)
	介護サービス事業所	113か所	97か所 (回収率85.8%)

※住民基本台帳から65歳以上の市民を無作為に抽出

4. 調査方法

郵送による配布・回収

5. 調査項目

市民意識調査は、国が示す「日常生活圏域ニーズ調査」の全項目（問1～8）に、その他の項目として問9「生駒市の高齢者福祉について」と問10「健康づくり・介護予防・認知症について」を加えている。

事業者調査は、他市のアンケート内容を参考に、生駒市の地域特性を考慮し、選択・抜粋している。

6. 報告書の見方

- ① 集計結果は、小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがある。複数回答を求めた設問は、回答者に対する割合を示しているので合計が100%を超える。
- ② 「全体」は、回答者数であり、「回答総数」は複数回答の場合の全回答数を指し、「該当数」は回答者を特定した場合の母数を表している。
- ③ 本文中の質問文及び選択肢などについて、長い文については簡略化して用いている。

7. 二次予防（事業）対象者について

二次予防（事業）対象者とは、要支援・要介護状態となるおそれの高い状態にあると認められる 65 歳以上の者で、国が示している『基本チェックリスト』の回答状況により判定される。『基本チェックリスト』は、高齢者の生活機能を評価し、要介護状態となるリスクを予測することを目的に厚生労働省において開発された 25 項目の設問（問 2～問 8）から構成されており、国の基準に基づき、「運動器の機能」「低栄養」「口腔の機能」「生活全般の機能」の項目のうち、いずれかの低下基準に該当すると、二次予防（事業）対象者となる。具体的には、問 2～問 8 の設問のうち、『基本チェックリスト』に該当する 25 項目について「運動器」「栄養状態」「口腔機能」と「全般的な生活機能」を判定し“元気高齢者”と“二次予防（事業）対象者”を抽出している。

《生活機能低下の判定基準》

- ・ **運動器**……次の 5 項目のうち、「はい」もしくは「いいえ」が 3 項目以上が該当で「**運動器の機能低下**」と判定
 - 問 2 「Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。」（いいえ）
「Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。」（いいえ）
「Q3. 15 分位続けて歩いていますか。」（いいえ）
 - 問 3 「Q1. この 1 年間に転んだことがありますか。」（はい）
「Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。」（はい）
- ・ **栄養**……次の 2 項目で「はい」と「BMI が 18.5 未満」の 2 項目が該当で「**低栄養**」と判定
 - 問 4 「Q1. 6 ヶ月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。」
「Q2. 身長と体重」を記述（BMI を算出、18.5 未満で該当）
- ・ **口腔機能**……次の 3 項目のうち、「はい」が 2 項目以上が該当で「**口腔機能の低下**」と判定
 - 問 4 「Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。」
「Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか。」
「Q5. 口の渇きが気になりますか。」
- ・ **生活全般**……次の 20 項目のうち、「はい」もしくは「いいえ」が 10 項目以上が該当で「**全般的な生活機能低下**」と判定
 - 問 2 「Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。」（いいえ）
「Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。」（いいえ）
「Q3. 15 分位続けて歩いていますか。」（いいえ）
「Q5. 週に 1 回以上外出していますか。」（いいえ）
「Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。」（はい）
 - 問 3 「Q1. この 1 年間に転んだことがありますか。」（はい）
「Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。」（はい）
 - 問 4 「Q1. 6 ヶ月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。」（はい）

	「Q2. 身長と体重」を記述（BMI を算出、18.5 未満）
	「Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。」（はい）
	「Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか。」（はい）
	「Q5. 口の渇きが気になりますか。」（はい）
問 5	「Q1. 周りの人から『いつも同じ事を聞く』などの物忘れがあると言われる ますか。」（はい）
	「Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。」（い いえ）
	「Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。」（はい）
問 6	「Q1. バスや電車で一人で外出していますか。」（いいえ）
	「Q2. 日用品の買物をしていますか。」（いいえ）
	「Q5. 預貯金の出し入れをしていますか。」（いいえ）
問 7	「Q5. 友人の家を訪ねていますか。」（いいえ）
	「Q6. 家族や友人の相談にのっていますか。」（いいえ）

8. 対象者について

本報告書で用いている対象者は、概ね次のような人である。

- ◇**元気高齢者**……65 歳以上の方で、要介護認定を受けておらず、『二次予防対象者』
のリスク評価で非該当となった人
(1,563 人、全体の 62.1% 一般高齢者の 73.2%)
- ◇**二次予防対象者**…「7. 二次予防（事業）対象者」（2 頁）参照。
(571 人、全体の 22.7% 一般高齢者の 26.8%)
- ◇**要支援高齢者**……介護保険の要支援認定（要支援 1・2）を受けている人
(134 人、全体の 5.3% 要介護（要支援）認定者の 35.1%)
- ◇**要介護高齢者**……介護保険の要介護認定（要介護 1～5）を受けている人
(248 人、全体の 9.9% 要介護（要支援）認定者の 64.9%)

Ⅱ 市民意識調査の結果

1. 回収状況

“一般高齢者”の回収数は、2,134 件で 85.4%の回収率となっている。

また、“要支援高齢者（要支援 1・2）”が 134 件で回収率が 90.5%、“要介護高齢者（要介護 1～5）”は 248 件で回収率が 70.5%となっている。

《対象者別 回収状況》

	発送数	回答数 (回収率)	一般高齢者		要支援高齢者		要介護高齢者	
			発送数	回答数 (回収率)	発送数	回答数 (回収率)	発送数	回答数 (回収率)
全 体	3,000	2,516 83.9%	2,500	2,134 85.4%	148	134 90.5%	352	248 70.5%
男 性	1,340	1,143 85.3%	1,182	1,012 85.6%	47	45 95.7%	111	86 77.5%
女 性	1,660	1,373 82.7%	1,318	1,122 85.1%	101	89 88.1%	241	162 67.2%
65～74 歳	1,795	1,532 85.3%	1,731	1,478 85.4%	17	16 94.1%	47	38 80.9%
75～84 歳	846	717 84.8%	634	550 86.8%	76	70 92.1%	136	97 71.3%
85 歳以上	359	267 74.4%	135	106 78.5%	55	48 87.3%	169	113 66.9%
圏域 1	175	143 81.7%	145	122 84.1%	8	7 87.5%	22	14 63.6%
圏域 2	287	248 86.4%	253	220 87.0%	6	5 83.3%	28	23 82.1%
圏域 3	537	459 85.5%	462	397 85.9%	23	23 100.0%	52	39 75.0%
圏域 4	331	272 82.2%	269	224 83.3%	26	22 84.6%	36	26 72.2%
圏域 5	256	219 85.5%	210	183 87.1%	14	11 78.6%	32	25 78.1%
圏域 6	249	207 83.1%	199	175 87.9%	13	12 92.3%	37	20 54.1%
圏域 7	577	469 81.3%	469	386 82.3%	30	29 96.7%	78	54 69.2%
圏域 8	221	186 84.2%	185	158 85.4%	10	9 90.0%	26	19 73.1%
圏域 9	170	146 85.9%	141	124 87.9%	9	8 88.9%	20	14 70.0%
圏域 10	197	167 84.8%	167	145 86.8%	9	8 88.9%	21	14 66.7%

2. 回答者の概要

回答者の属性などを整理すると、概ね次のような状況である。

《性別・年齢》

回答者の性別は、「男性」が 45.4%、「女性」が 54.6%となっている。年齢別にみると、「65～74 歳」が 60.9%、「75～84 歳」が 28.5%、「85 歳以上」が 10.6%となっている。

《世帯構成》

世帯構成は、「夫婦のみ」が 42.5%、「家族などと同居（夫婦のみを除く）」が 39.9%、「一人暮らし」が 12.7%となっている。

家族などとの同居人数は、「2 人」が 54.6%、「3 人」が 22.5%であり、同居している人は、「配偶者」が 79.5%、「息子」が 24.4%、「娘」が 19.8%となっている。

《昼間独居》

『家族などと同居』されている方のうち、昼間独居は、「よくある」が 29.8%、「たまにある」が 46.6%となっている。

《介護・介助の必要性》

普段の生活での介護・介助は、「必要だが、受けていない」が 5.7%、「介護を受けている」が 11.8%となっている。「必要だが、受けていない」人は、“二次予防対象者”が 12.3%、“要支援高齢者”が 25.4%となっている。

《原因疾病》

介護を受けるようになった主な原因は、「高齢による衰弱」が 22.7%、「骨折・転倒」が 18.1%、「認知症」が 17.2%となっている。

《主な介護者》

主な介護者は、「介護サービスのヘルパー」が 22.6%、「配偶者」が 15.8%となっている。主な介護者の年齢は、「65 歳未満」が 40.1%、「65～74 歳」が 19.2%、「75～84 歳」が 17.8%、「85 歳以上」が 8.8%となっている。

《健康状態》

健康状態について、「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせると、“元気高齢者”は 86.5%、“二次予防対象者”は 63.0%、“要支援高齢者”は 43.2%、“要介護高齢者”は 36.7%となっており、要介護度の進行に伴い、健康状態も悪化していると感じる割合が高くなっている。

《現在治療中もしくは後遺症のある病気》

現在治療中もしくは後遺症のある病気は、「高血圧」が 36.8%、「目の病気」が 19.4%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症等）」が 14.6%となっている。

《通院の状況・通院の頻度》

通院は、「通院している」が 77.7%であり、その頻度は、「月 1 回程度」が 49.7%となっている。

《通院介助の必要性》

通院の際の介助は、「必要」が 11.9%であり、“要支援高齢者”が 29.6%、“要介護高齢者”が 65.3%となっている。

《現在の暮らしの状況》

現在の暮らしは、「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『暮らしが苦しい』が、“元気高齢者”が 46.1%、“二次予防対象者”が 62.7%、“要支援高齢者”が 56.0%、“要介護高齢者”は 58.0%となっている。

《住宅の状況》

住宅は、「一戸建て」が 83.2%、「集合住宅」が 13.2%となっており、その所有は「持ち家」が 90.0%となっている。

2 階以上に居室があるのは 34.6%であり、そのうち「エレベーター」が設置されているのは 17.6%となっている。

3. 回答者の状況

1) 性別・年齢

回答者の性別は、「男性」が45.4%、「女性」が54.6%となっている。

日常生活圏域では、圏域2の「男性」が53.2%と最も高く、「女性」は圏域9が59.6%と最も高くなっている。

年齢別にみると、「65～74歳」が60.9%、「75～84歳」が28.5%、「85歳以上」が10.6%となっている。

《日常生活圏域別 回答者の状況（性別・年齢別）》

	全体	男性				女性			
			65～74歳	75～84歳	85歳以上		65～74歳	75～84歳	85歳以上
全 体	2,516	1,143	725	333	85	1,373	807	384	182
	100.0%	45.4%	28.8%	13.2%	3.4%	54.6%	32.1%	15.3%	7.2%
		100.0%	63.4%	29.1%	7.4%	100.0%	58.8%	28.0%	13.3%
圏域 1	143	68	45	14	9	75	43	19	13
	100.0%	47.6%	31.5%	9.8%	6.3%	52.4%	30.1%	13.3%	9.1%
		100.0%	66.2%	20.6%	13.2%	100.0%	57.3%	25.3%	17.3%
圏域 2	248	132	80	44	8	116	72	30	14
	100.0%	53.2%	32.3%	17.7%	3.2%	46.8%	29.0%	12.1%	5.6%
		100.0%	60.6%	33.3%	6.1%	100.0%	62.1%	25.9%	12.1%
圏域 3	459	214	145	62	7	245	165	52	28
	100.0%	46.6%	31.6%	13.5%	1.5%	53.4%	35.9%	11.3%	6.1%
		100.0%	67.8%	29.0%	3.3%	100.0%	67.3%	21.2%	11.4%
圏域 4	272	116	76	34	6	156	83	42	31
	100.0%	42.6%	27.9%	12.5%	2.2%	57.4%	30.5%	15.4%	11.4%
		100.0%	65.5%	29.3%	5.2%	100.0%	53.2%	26.9%	19.9%
圏域 5	219	96	58	30	8	123	68	38	17
	100.0%	43.8%	26.5%	13.7%	3.7%	56.2%	31.1%	17.4%	7.8%
		100.0%	60.4%	31.3%	8.3%	100.0%	55.3%	30.9%	13.8%
圏域 6	207	93	57	27	9	114	65	38	11
	100.0%	44.9%	27.5%	13.0%	4.3%	55.1%	31.4%	18.4%	5.3%
		100.0%	61.3%	29.0%	9.7%	100.0%	57.0%	33.3%	9.6%
圏域 7	469	196	108	65	23	273	153	79	41
	100.0%	41.8%	23.0%	13.9%	4.9%	58.2%	32.6%	16.8%	8.7%
		100.0%	55.1%	33.2%	11.7%	100.0%	56.0%	28.9%	15.0%
圏域 8	186	89	58	25	6	97	58	33	6
	100.0%	47.8%	31.2%	13.4%	3.2%	52.2%	31.2%	17.7%	3.2%
		100.0%	65.2%	28.1%	6.7%	100.0%	59.8%	34.0%	6.2%
圏域 9	146	59	39	15	5	87	46	30	11
	100.0%	40.4%	26.7%	10.3%	3.4%	59.6%	31.5%	20.5%	7.5%
		100.0%	66.1%	25.4%	8.5%	100.0%	52.9%	34.5%	12.6%
圏域 10	167	80	59	17	4	87	54	23	10
	100.0%	47.9%	35.3%	10.2%	2.4%	52.1%	32.3%	13.8%	6.0%
		100.0%	73.8%	21.3%	5.0%	100.0%	62.1%	26.4%	11.5%

2) 世帯構成

世帯構成は、「夫婦のみ」が42.5%、「家族などと同居（夫婦のみを除く）」が39.9%、「一人暮らし」が12.7%となっている。

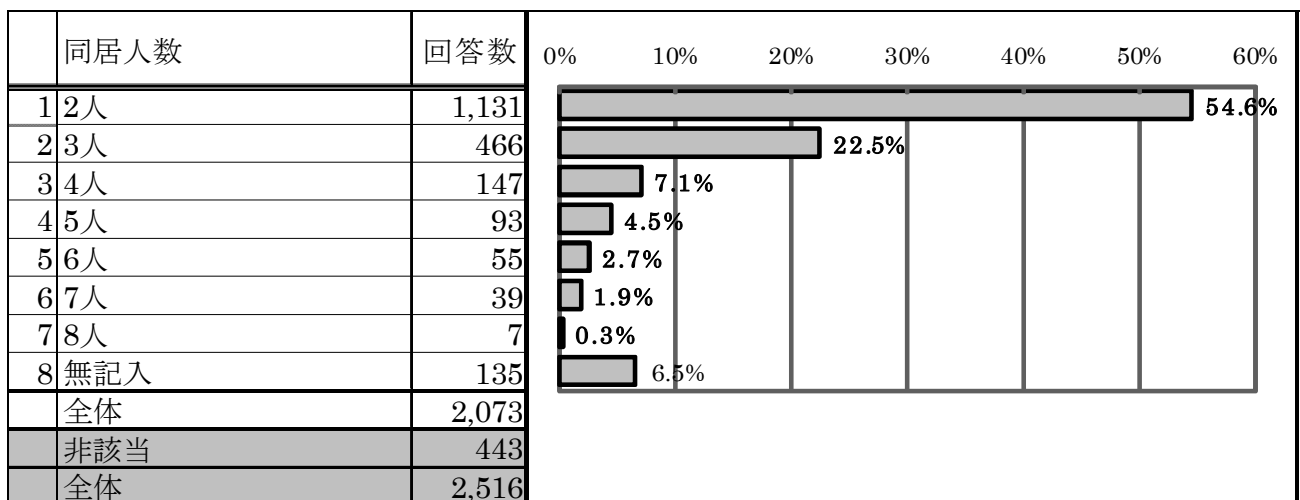
日常生活圏域では、「夫婦のみ」は圏域3が46.8%と最も多く、圏域8が35.5%と最も少なくなっている。「一人暮らし」では圏域7が20.0%と最も多く、圏域1と圏域3は7.0%と最も少なくなっている。

《日常生活圏域別 回答者の状況（世帯構成）》

	全 体	一人暮らし	夫婦のみ	家族などと同居 (夫婦のみ除く)	その他	無記入
全 体	2,516 100.0%	319 12.7%	1,069 42.5%	1,004 39.9%	74 2.9%	50 2.0%
圏域 1	143 100.0%	10 7.0%	53 37.1%	70 49.0%	5 3.5%	5 3.5%
圏域 2	248 100.0%	19 7.7%	111 44.8%	110 44.4%	8 3.2%	0 0.0%
圏域 3	459 100.0%	32 7.0%	215 46.8%	192 41.8%	11 2.4%	9 2.0%
圏域 4	272 100.0%	35 12.9%	117 43.0%	112 41.2%	8 2.9%	0 0.0%
圏域 5	219 100.0%	39 17.8%	93 42.5%	75 34.2%	6 2.7%	6 2.7%
圏域 6	207 100.0%	33 15.9%	93 44.9%	70 33.8%	5 2.4%	6 2.9%
圏域 7	469 100.0%	94 20.0%	185 39.4%	156 33.3%	19 4.1%	15 3.2%
圏域 8	186 100.0%	23 12.4%	66 35.5%	89 47.8%	4 2.2%	4 2.2%
圏域 9	146 100.0%	15 10.3%	61 41.8%	63 43.2%	4 2.7%	3 2.1%
圏域 10	167 100.0%	19 11.4%	75 44.9%	67 40.1%	4 2.4%	2 1.2%

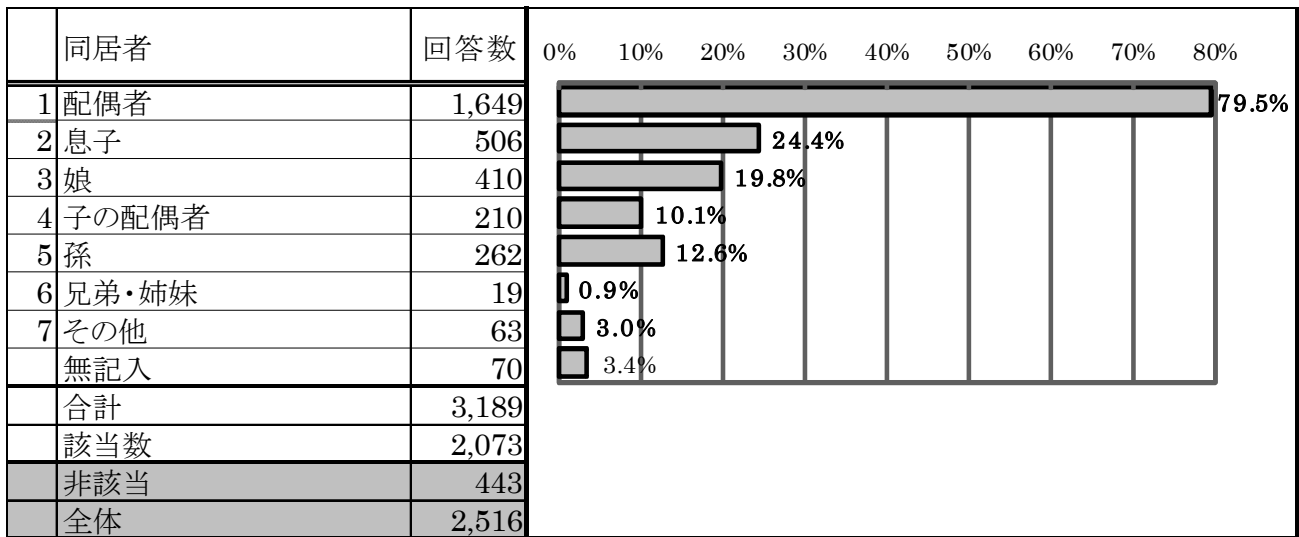
『家族などと同居』の同居人数は、「2人」が54.6%、「3人」が22.5%となっている。

《「家族などと同居」の同居人数》



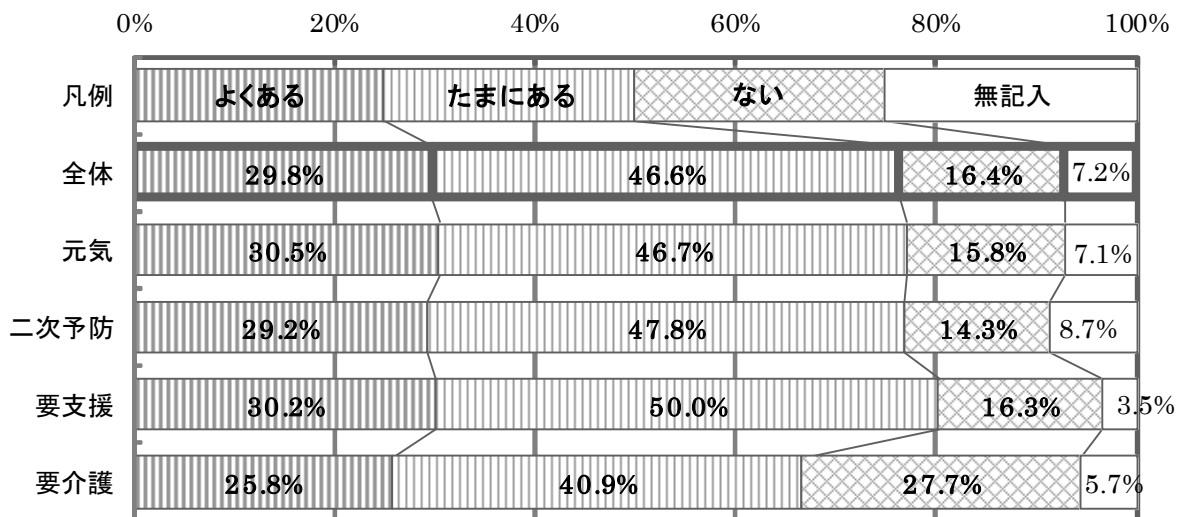
『家族など同居』で同居している人は、「配偶者」が79.5%と最も多く、次いで「息子」が24.4%、「娘」が19.8%となっている。

《「家族など同居」の同居者》



『家族など同居』している人で『日中、ひとりになること（昼間独居）』は、全体で「よくある」が29.8%、「たまにある」が46.6%、「ない」が16.4%となっている。

《身体状況別 「家族など同居」の人の昼間独居の頻度》



3) 身体状況

要支援・要介護認定者を除く一般高齢者のうち、問 2～問 8 の日常生活で必要となる生活機能の項目について国が示している『基本チェックリスト』を基に判定した結果（2 頁参照）、「運動器の機能低下」「低栄養」「口腔機能の低下」「全般的な生活機能の低下」のいずれかに該当する“二次予防（事業）対象者”は 26.8%であり、いずれにも該当しない“元気高齢者”は 73.2%となっている。

また、要介護（支援）高齢者は、“要支援高齢者（要支援 1・2）”は 35.1%、“要介護高齢者（要介護 1～5）”は 64.9%となっている。

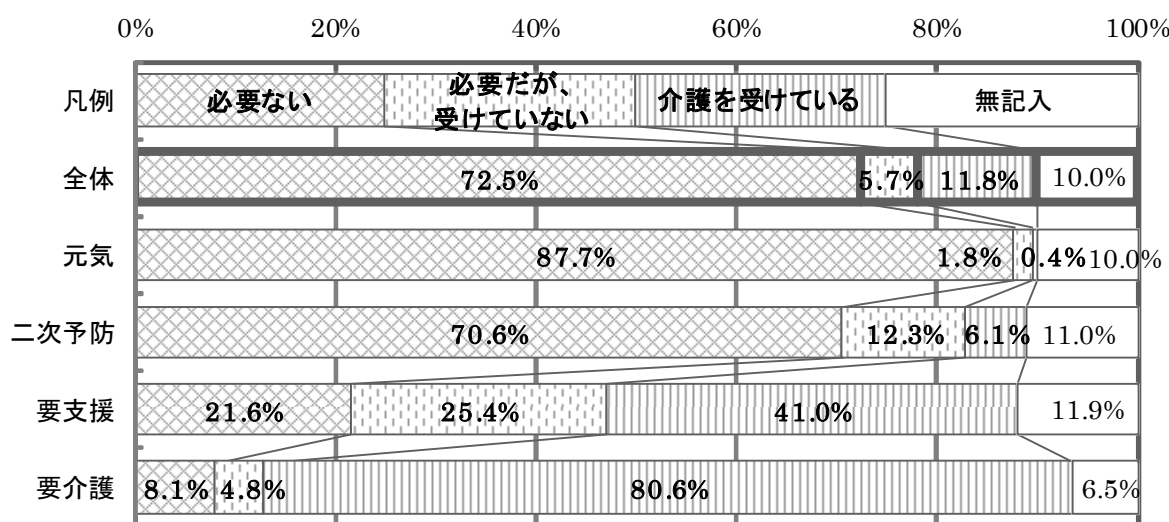
《回答者の身体状況》

	全 体	一般高齢者			要介護（支援）高齢者		
			元気 高齢者	二次予防 対象者		要支援 1・2	要介護 1～5
全 体	2,516	2,134	1,563	571	382	134	248
	—	100.0%	73.2%	26.8%	100.0%	35.1%	64.9%
男性	1,143	1,012	764	248	131	45	86
	—	100.0%	75.5%	24.5%	100.0%	34.4%	65.6%
女性	1,373	1,122	799	323	251	89	162
	—	100.0%	71.2%	28.8%	100.0%	35.5%	64.5%
65～74 歳	1,532	1,478	1,172	306	54	16	38
	—	100.0%	79.3%	20.7%	100.0%	29.6%	70.4%
75～84 歳	717	550	347	203	167	70	97
	—	100.0%	63.1%	36.9%	100.0%	41.9%	58.1%
85 歳以上	267	106	44	62	161	48	113
	—	100.0%	41.5%	58.5%	100.0%	29.8%	70.2%
圏域 1	143	122	86	36	21	7	14
	—	100.0%	70.5%	29.5%	100.0%	33.3%	66.7%
圏域 2	248	220	173	47	28	5	23
	—	100.0%	78.6%	21.4%	100.0%	17.9%	82.1%
圏域 3	459	397	299	98	62	23	39
	—	100.0%	75.3%	24.7%	100.0%	37.1%	62.9%
圏域 4	272	224	168	56	48	22	26
	—	100.0%	75.0%	25.0%	100.0%	45.8%	54.2%
圏域 5	219	183	129	54	36	11	25
	—	100.0%	70.5%	29.5%	100.0%	30.6%	69.4%
圏域 6	207	175	122	53	32	12	20
	—	100.0%	69.7%	30.3%	100.0%	37.5%	62.5%
圏域 7	469	386	280	106	83	29	54
	—	100.0%	72.5%	27.5%	100.0%	34.9%	65.1%
圏域 8	186	158	114	44	28	9	19
	—	100.0%	72.2%	27.8%	100.0%	32.1%	67.9%
圏域 9	146	124	83	41	22	8	14
	—	100.0%	66.9%	33.1%	100.0%	36.4%	63.6%
圏域 10	167	145	109	36	22	8	14
	—	100.0%	75.2%	24.8%	100.0%	36.4%	63.6%

また、『普段の生活での介護・介助の必要性』については、“元気高齢者”が全体に占める割合が高いため、「必要ない」が72.5%、「必要だが、受けていない」が5.7%、「介護を受けている」が11.8%となっている。

必要だが介護や介助を受けていない人は、“二次予防対象者”が12.3%、“要支援高齢者”が25.4%となっている。介護や介助を受けている人は、“要介護高齢者”が80.6%、“要支援高齢者”が41.0%となっている。

《身体状況別 普段の生活での介護・介助の必要性》



『介護を受けている』人の主な原因は、全体では「高齢による衰弱」が22.7%、「骨折・転倒」が18.1%、「認知症」が17.2%となっている。

身体状況別にみると、“要介護高齢者”では「認知症」が30.2%と第1位を占めており、“要支援高齢者”では「高齢による衰弱」が30.3%と第1位を占めている。

“要介護高齢者”に対しては認知症対策の充実、“要支援高齢者”や“二次予防対象者”に対しては廃用性の進行を防ぐ取り組みが必要かと思われる。

《身体状況別 介護・介助が必要になった主な原因（上位5位）》

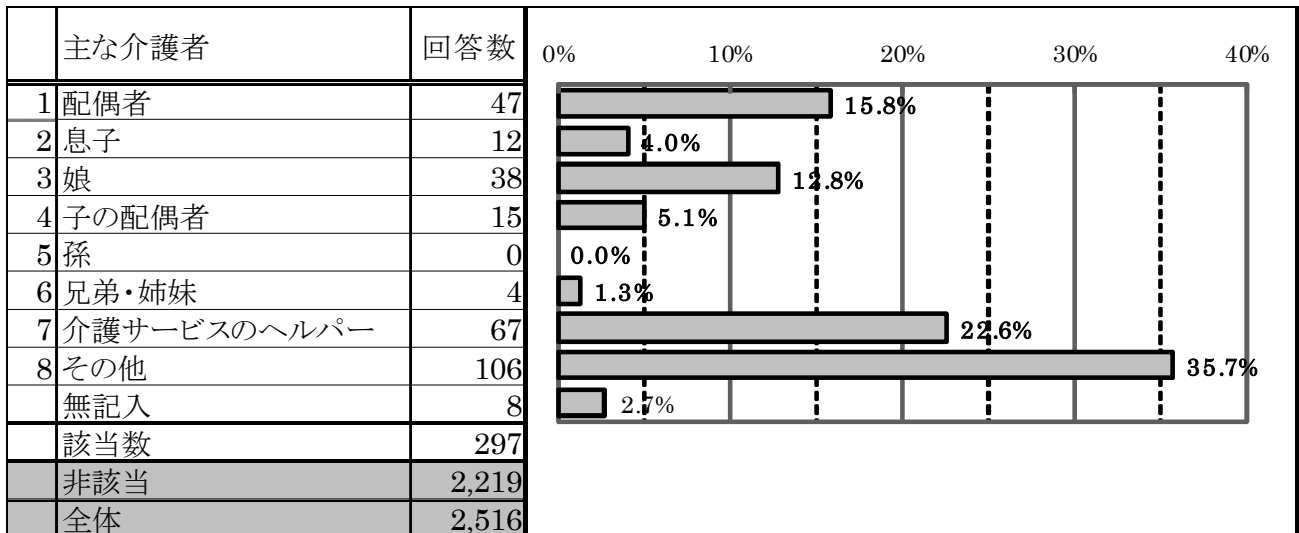
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【該当=441】	高齢による衰弱 22.7%	骨折・転倒 18.1%	認知症 17.2%	心臓病 15.0%	脳卒中／関節の病気 13.6%
元気高齢者 【該当数=35】	脳卒中 14.3%	糖尿病 14.3%	心臓病 11.4%	がん 8.6%	認知症／その他 8.6%
二次予防対象者 【該当数=105】	心臓病 20.0%	関節の病気 17.1%	高齢による衰弱 15.2%	呼吸器の病気 13.3%	視覚・聴覚障害／骨折・転倒 13.3%
要支援高齢者 【該当数=89】	高齢による衰弱 30.3%	骨折・転倒 19.1%	心臓病 16.9%	関節の病気 16.9%	脊髄の損傷 16.9%
要介護高齢者 【該当数=212】	認知症 30.2%	高齢による衰弱 26.4%	骨折・転倒 22.2%	脳卒中 16.5%	心臓病／関節の病気 12.3%

Ⅱ 市民意識調査の結果

『介護を受けている』人の主な介護者は、「その他」が 35.7%、「介護サービスのヘルパー」が 22.6%、「配偶者」が 15.8%となっている。

なお、「その他」は、複数回答の方、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの入所施設・医療機関、デイサービス、訪問看護などがあげられている。

《主な介護者》



《身体状況別 主な介護者（上位 5 位）》

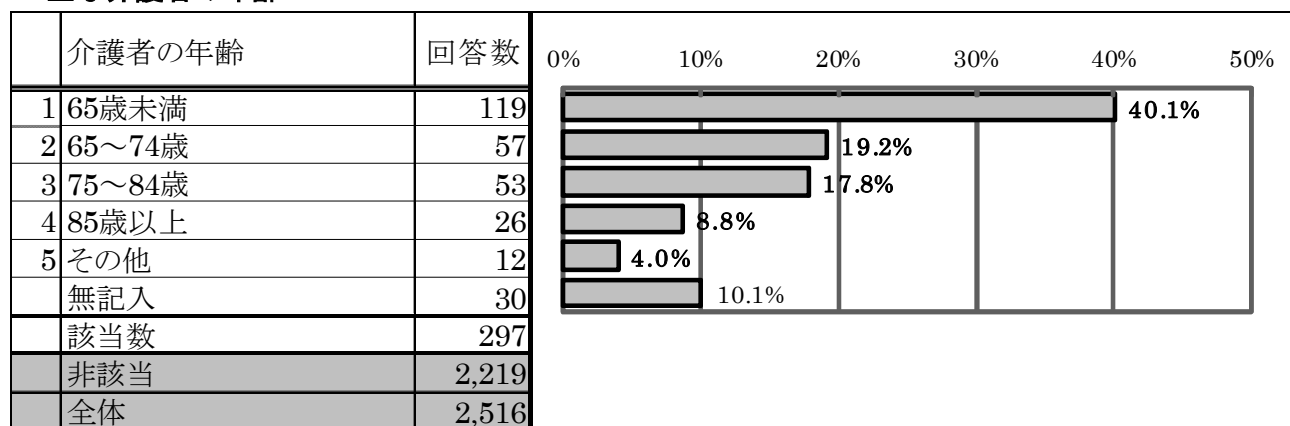
	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【該当=297】	その他 35.7%	介護ヘルパー 22.6%	配偶者 15.8%	娘 12.8%	子の配偶者 5.1%
元気高齢者 【該当数=7】	配偶者 71.4%	娘 14.3%	その他 14.3%		
二次予防対象者 【該当数=35】	配偶者 42.9%	その他 22.9%	娘 8.6%	介護ヘルパー 8.6%	子の配偶者 5.7%
要支援高齢者 【該当数=55】	介護ヘルパー 34.5%	その他 30.9%	配偶者 12.7%	娘 10.9%	息子 5.5%
要介護高齢者 【該当数=198】	その他 40.4%	介護ヘルパー 21.7%	娘 14.1%	配偶者 10.1%	子の配偶者 6.6%

Ⅱ 市民意識調査の結果

『介護を受けている』人の主な介護者の年齢は、「65歳未満」が40.1%、「65～74歳」が19.2%、「75～84歳」が17.8%、「85歳以上」が8.8%となっている。

後期高齢者（75歳以上）が介護者である割合は、26.6%と全体の1/4以上を占めていることから、老老介護を行っている介護者への健康管理についても今後は検討が必要かと思われる。

《主な介護者の年齢》



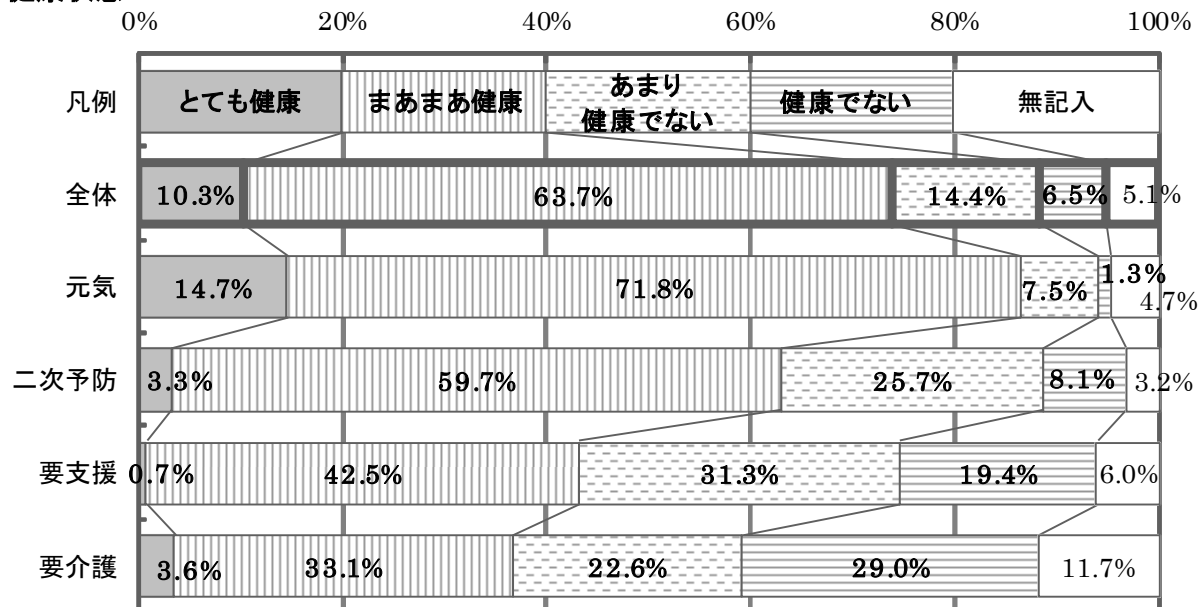
※複数回答については「その他」として集計

4) 健康状態

健康状態について、「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせた『健康である』は、“元気高齢者”は86.5%であり、“二次予防対象者”は63.0%となっている。また、“要支援高齢者”は43.2%、“要介護高齢者”は36.7%となっている。

要介護度が進行するのに伴い、健康状態も悪化していると感じる割合が高くなっている。

《健康状態》



現在治療中もしくは後遺症のある病気は、「高血圧」が36.8%、「目の病気」が19.4%、「筋骨格の病気（骨粗しょう症等）」が14.6%となっている。

身体状況別にみると、身体状況のいずれについても第1位は「高血圧」となっており、“元気高齢者”では、加齢による疾病（目の病気）や生活習慣病が上位にあるが、第2位に「（病気は）ない」が18.0%であり、中高年からの健康づくりや生活習慣病予防の取り組みが重要であると思われる。

“二次予防対象者”や“要支援高齢者”の特徴は、高血圧や筋骨格の病気が上位にあり、“要介護高齢者”では認知症が上位にあり、身体状況の区分に応じた対策が必要と思われる。

《身体状況別 現在治療中もしくは後遺症のある病気（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	高血圧 36.8%	目の病気 19.4%	筋骨格の病気 （骨粗しょう症等） 14.6%	（病気は）ない 13.3%	糖尿病 12.2%
元気高齢者 【該当数=1,563】	高血圧 42.6%	（病気は）ない 18.0%	目の病気 16.5%	高脂血症（脂質異常） 11.5%	糖尿病 11.3%
二次予防対象者 【該当数=571】	高血圧 37.3%	目の病気 24.0%	筋骨格の病気 （骨粗しょう症等） 18.9%	糖尿病 14.5%	胃腸・肝臓・胆のうの病気 14.0%
要支援高齢者 【該当数=134】	高血圧 43.3%	筋骨格の病気 （骨粗しょう症等） 42.5%	目の病気 30.6%	心臓病 17.2%	耳の病気／その他 11.9%
要介護高齢者 【該当数=248】	高血圧 31.9%	認知症（アルツハイマー病等） 27.0%	筋骨格の病気 （骨粗しょう症等） 24.6%	目の病気 20.6%	心臓病 18.1%

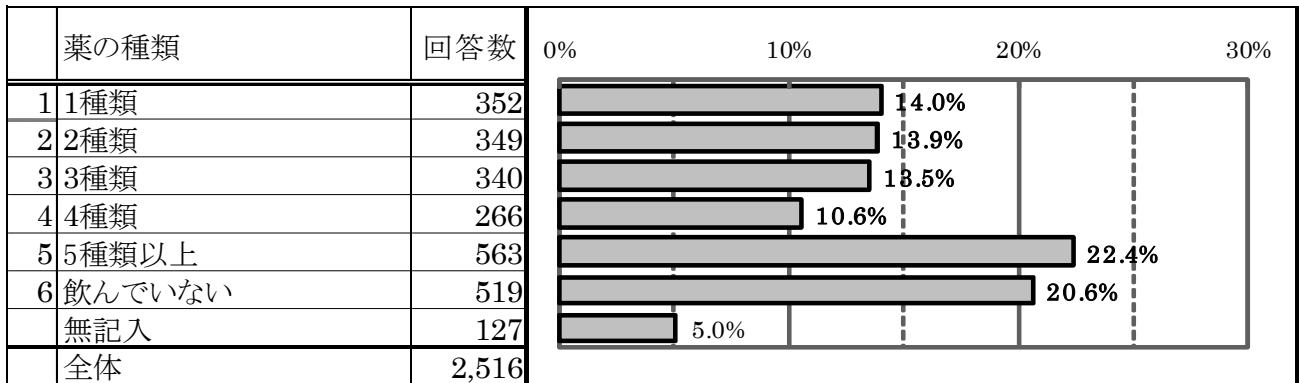
Ⅱ 市民意識調査の結果

現在服用している薬の種類は、「5種類以上」が22.4%、「飲んでいない」が20.6%となっており、2種類以上の多剤服用者が全体で6割を占めている。

また、5種類以上の薬を服用中の高齢者においては、転倒のリスクを考慮する必要がある。

特に、“二次予防対象者”から、要支援・要介護と重度化するにつれ、5種類以上を服用している人の割合が増えることから、転倒への注意が必要である。

《現在飲んでいる薬の種類》



《身体状況別 現在飲んでいる薬の種類》

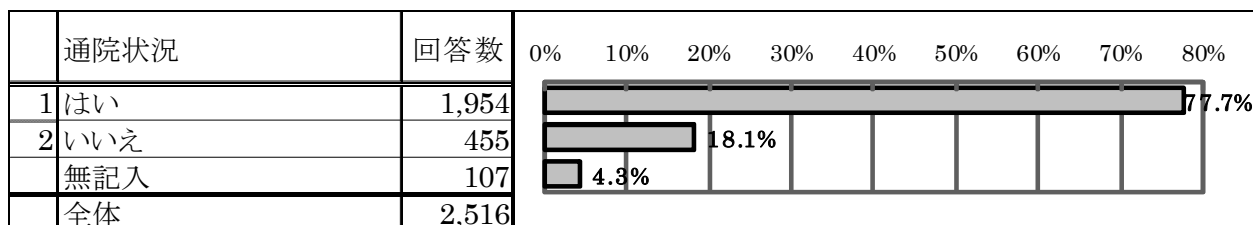
	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類以上	飲んでいない	無記入
全 体 【回答数=2,516】	14.0%	13.9%	13.5%	10.6%	22.4%	20.6%	5.0%
元気高齢者 【該当数=1,563】	17.9%	15.9%	13.1%	9.3%	12.8%	26.4%	4.7%
二次予防対象者 【該当数=571】	9.6%	13.3%	14.2%	13.5%	30.5%	15.4%	3.5%
要支援高齢者 【該当数=134】	5.2%	6.0%	20.9%	10.4%	49.3%	3.7%	4.5%
要介護高齢者 【該当数=248】	4.0%	6.9%	10.9%	12.1%	49.6%	5.6%	10.9%

Ⅱ 市民意識調査の結果

通院の状況は、「はい（通院している）」が 77.7%となっており、その頻度は、「月 1 回程度」が 49.7%となっている。

身体状況別の“要介護高齢者”では、「いいえ（通院していない）」（12.5%）の中に、「往診を利用している人」も含まれているものと考えられる。

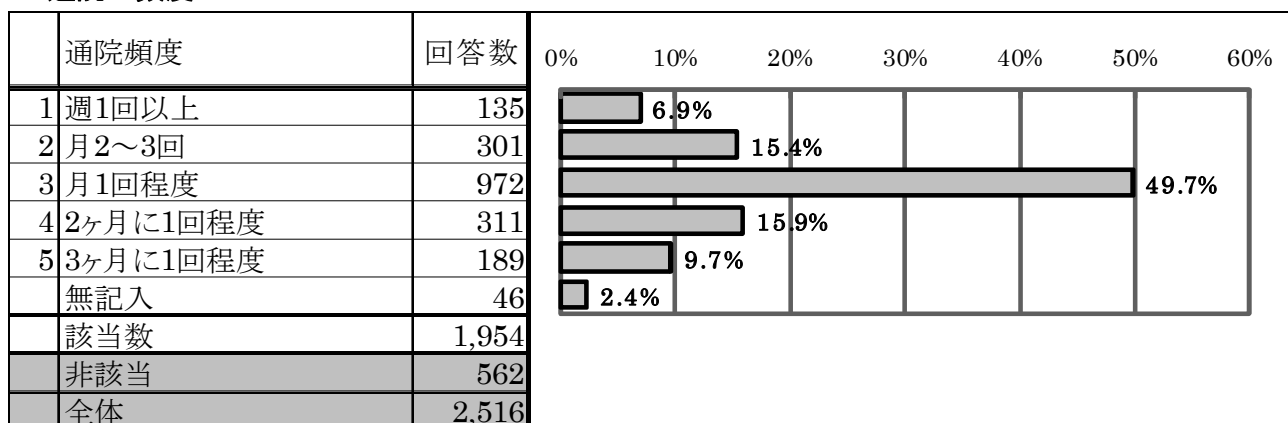
《通院の状況》



《身体状況別・年齢別 通院の状況》

		通院している	通院していない	無記入
全 体	【回答数=2,516】	77.7%	18.1%	4.3%
元気高齢者	【該当数=1,563】	73.9%	22.5%	3.6%
二次予防対象者	【該当数=571】	84.8%	12.1%	3.2%
要支援高齢者	【該当数=134】	93.3%	3.0%	3.7%
要介護高齢者	【該当数=248】	76.6%	12.5%	10.9%
65～74 歳	【該当数=1,532】	74.5%	21.7%	3.4%
75～84 歳	【該当数=717】	83.8%	12.0%	4.2%
85 歳以上	【該当数=267】	79.4%	13.5%	7.1%

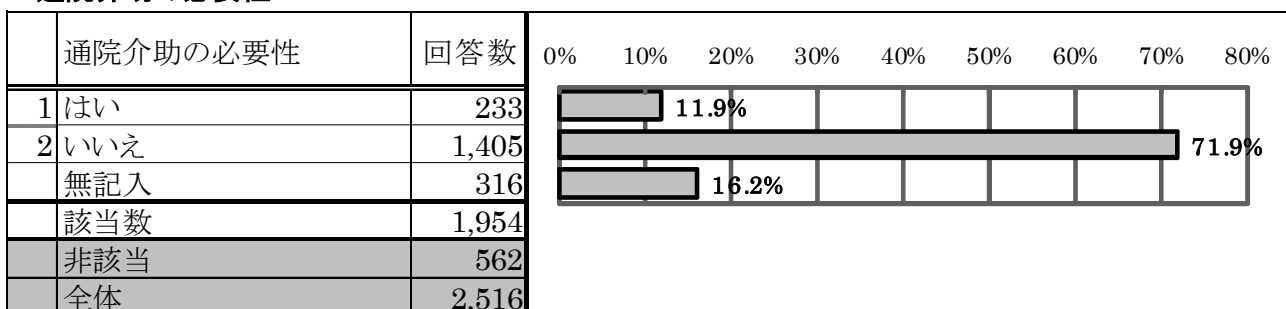
《通院の頻度》



通院に際しての介助の必要性は、全体では「はい（必要）」が 11.9%とやや低い割合となっている。

身体状況別でみると、「はい（必要）」は、“要支援高齢者”が 29.6%、“要介護高齢者”が 65.3%であり、通院の際、介助を必要と回答している人の割合が、身体状況の悪化に伴い急激に高くなる傾向がみられる。

《通院介助の必要性》



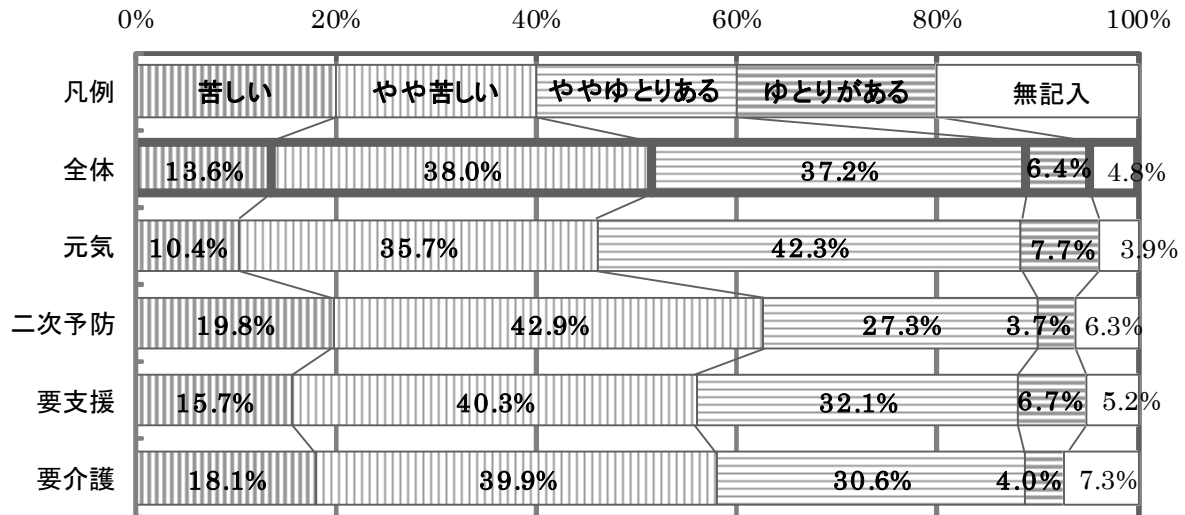
《身体状況別 通院介助の必要性》

	はい（必要）	いいえ（不要）	無記入
全 体 【該当数＝1,954】	11.9%	71.9%	16.2%
元気高齢者 【該当数＝1,155】	1.0%	84.2%	14.8%
二次予防対象者 【該当数＝484】	12.4%	72.1%	15.5%
要支援高齢者 【該当数＝125】	29.6%	43.2%	27.2%
要介護高齢者 【該当数＝190】	65.3%	15.8%	18.9%

5) 現在の暮らしの状況

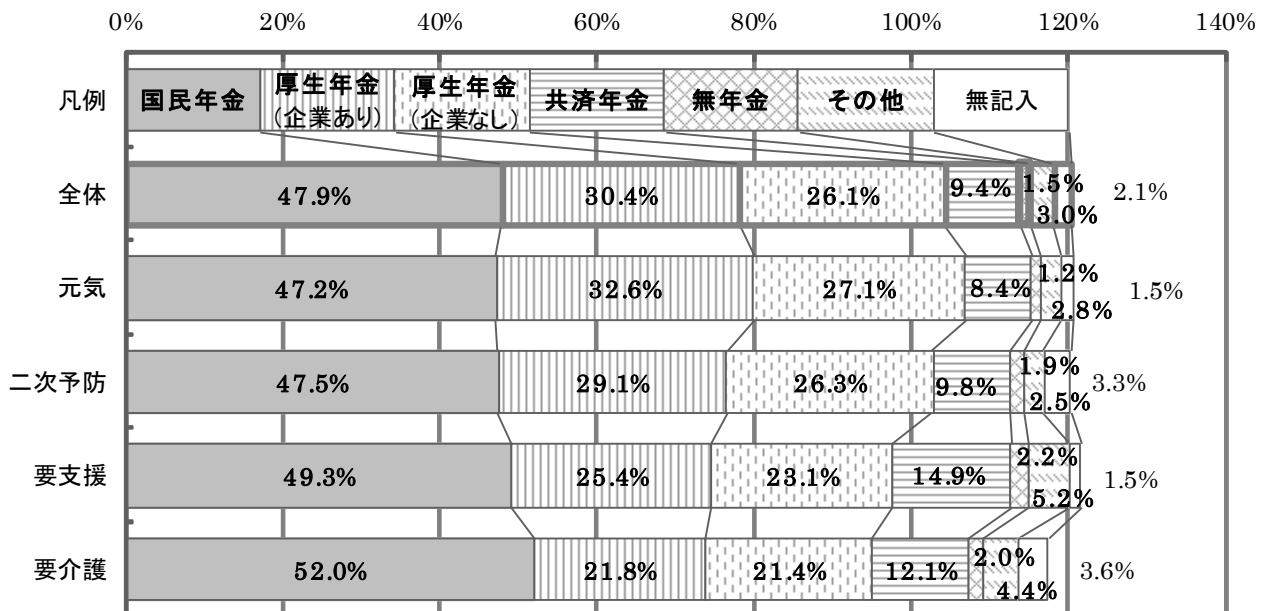
現在の暮らしの状況として、「苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『暮らしが苦しい』は、“元気高齢者”が46.1%、“二次予防対象者”が62.7%、“要支援高齢者”が56.0%、“要介護高齢者”は58.0%となっている。

《現在の暮らしの状況》



年金の種類をみると、「国民年金」が半数近くとなっており、次いで「厚生年金（企業年金あり）」が30.4%、「厚生年金（企業年金なし）」が26.1%となっている。

《年金の種類》

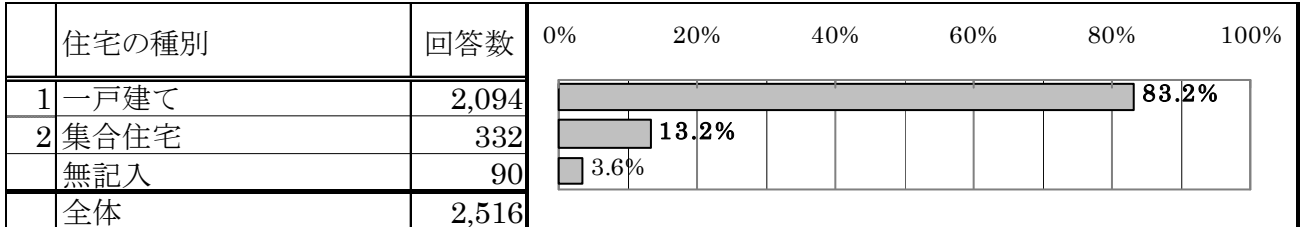


6) 住宅の状況

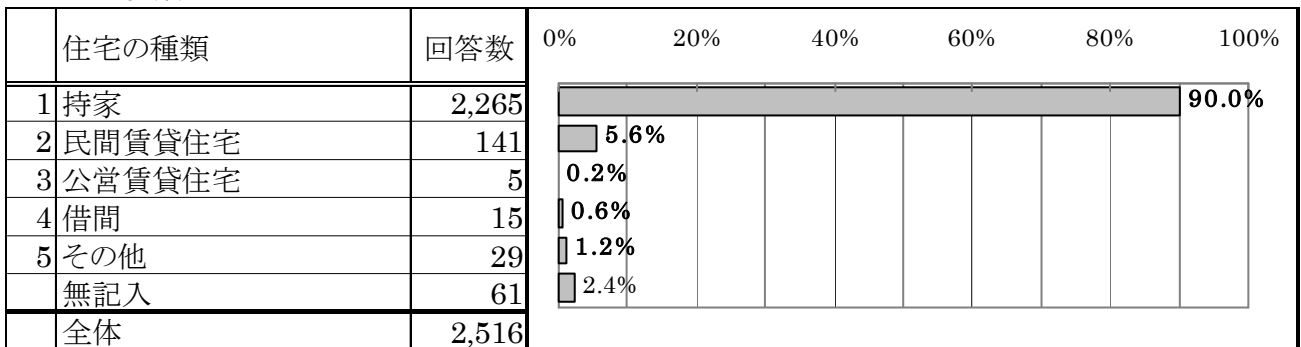
住宅の種別は、「一戸建て」が83.2%、「集合住宅」が13.2%となっている。

住宅の種類は、「持ち家」が90.0%となっている。

《住宅の種別》

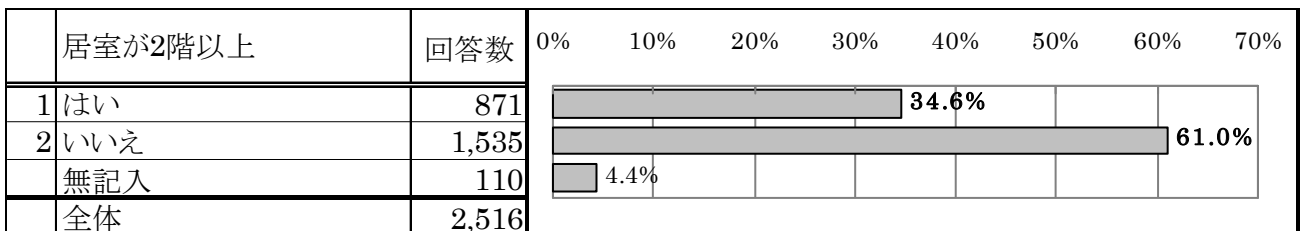


《住宅の種類》

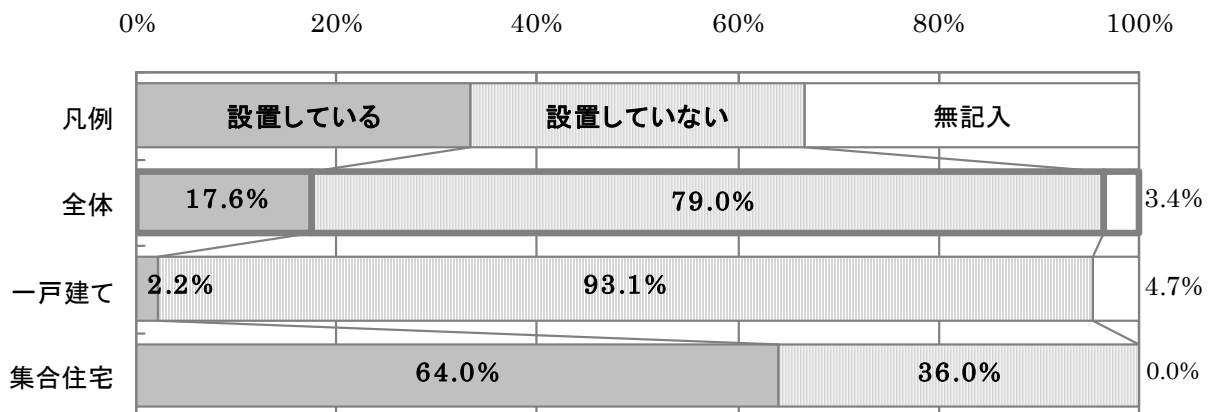


居室が2階以上であるのは、34.6%であり、そのうち「エレベーター」が設置されているのは17.6%となっている。

《住宅の種別》



《住宅の種別 エレベーターの設置状況》



4. 生活機能等の状況

1) 全般的な状況

“二次予防対象者”について、国が示している『基本チェックリスト』（2頁参照）を基にした次の4つの生活機能低下項目である「運動器の機能低下」「低栄養」「口腔機能の機能低下」「全般的な生活機能の低下」別にみると、「口腔機能の機能低下」が65.8%、「運動器の機能低下」が53.9%、「全般的な生活機能の低下」が23.1%となっている。

また、問2と問3、問8の転倒やうつ症状に関する項目を基に、リスクの有無を判定すると、“二次予防対象者”は「うつ症状リスクあり」が42.4%、「転倒リスクあり」が45.9%となっており、うつ症状や転倒リスクが高いことがうかがえる。

一方、“元気高齢者”については、「うつ症状リスクあり」が13.1%、「転倒リスクあり」が9.5%と“二次予防対象者”に比べ低い割合となっている。

《元気高齢者の「うつ症状」「転倒」リスク》

	全 体	うつ症状 リスクあり	転倒 リスクあり
全 体	1,563 100.0%	204 13.1%	148 9.5%
男性	764 100.0%	95 12.4%	79 10.3%
女性	799 100.0%	109 13.6%	69 8.6%
65～74 歳	1,172 100.0%	135 11.5%	88 7.5%
75～84 歳	347 100.0%	62 17.9%	54 15.6%
85 歳以上	44 100.0%	7 15.9%	6 13.3%

《二次予防対象者の「各機能の低下状況」、「うつ症状」「転倒」リスク》

	全 体	運動器 機能低下	栄養状態 低栄養	口腔機能 機能低下	全般的な生活 機能低下	うつ症状 リスクあり	転倒 リスクあり
全 体	571 100.0%	308 53.9%	27 4.7%	376 65.8%	132 23.1%	242 42.4%	262 45.9%
男性	248 100.0%	121 48.8%	11 4.4%	176 71.0%	55 22.2%	106 42.7%	119 48.0%
女性	323 100.0%	187 57.9%	16 5.0%	200 61.9%	77 23.8%	136 42.1%	143 44.3%
65～74 歳	306 100.0%	126 41.2%	17 5.6%	215 70.3%	51 16.7%	102 33.3%	104 33.9%
75～84 歳	203 100.0%	131 64.5%	7 3.4%	132 65.0%	51 25.1%	108 53.2%	121 59.6%
85 歳以上	62 100.0%	51 82.3%	3 4.8%	29 46.8%	30 48.4%	32 51.6%	37 60.7%

“要支援高齢者”では、「うつ症状リスクあり」が65.7%、「転倒リスクあり」が76.9%となっている。

“要介護高齢者”では、「うつ症状リスクあり」が64.5%、「転倒リスクあり」が72.2%となっている。

このように“元気高齢者”から“二次予防対象者”“要支援高齢者”へと身体状況が悪化するにつれ、「うつ症状」や「転倒リスク」が高まる傾向にあることがうかがえる。

《要支援高齢者の「各機能の低下状況」、「うつ症状」「転倒」リスク》

	全 体	運動器 機能低下	栄養状態 低栄養	口腔機能 機能低下	全般的生活 機能低下	うつ症状 リスクあり	転倒 リスクあり
全 体	134 100.0%	99 73.9%	5 3.7%	69 51.5%	60 44.8%	88 65.7%	103 76.9%
男性	45 100.0%	28 62.2%	2 4.4%	24 53.3%	19 42.2%	28 62.2%	35 77.8%
女性	89 100.0%	71 79.8%	3 3.4%	45 50.6%	41 46.1%	60 67.4%	68 76.4%
65～74 歳	16 100.0%	11 68.8%	1 6.3%	8 50.0%	8 44.4%	9 56.3%	9 56.3%
75～84 歳	70 100.0%	49 70.0%	3 4.2%	33 47.1%	25 33.8%	45 64.3%	53 75.7%
85 歳以上	48 100.0%	39 81.3%	1 2.1%	28 58.3%	27 64.3%	34 70.8%	41 85.4%

《要介護高齢者の「各機能の低下状況」、「うつ症状」「転倒」リスク》

	全 体	運動器 機能低下	栄養状態 低栄養	口腔機能 機能低下	全般的生活 機能低下	うつ症状 リスクあり	転倒 リスクあり
全 体	248 100.0%	207 83.5%	14 5.6%	132 53.2%	204 82.9%	160 64.5%	179 72.2%
男性	86 100.0%	69 80.2%	4 4.7%	44 51.2%	66 77.6%	55 64.0%	64 74.4%
女性	162 100.0%	138 85.2%	10 6.2%	88 54.3%	138 85.7%	105 64.8%	115 71.0%
65～74 歳	38 100.0%	30 78.9%	7 18.4%	22 57.9%	31 81.6%	20 52.6%	27 71.1%
75～84 歳	97 100.0%	75 77.3%	5 5.2%	45 46.4%	74 77.9%	68 70.1%	70 72.2%
85 歳以上	113 100.0%	102 90.3%	2 1.8%	65 57.5%	99 87.6%	72 63.7%	82 72.6%

《うつ症状リスクありの判定》

- 問 8 「Q8.（ここ 2 週間）毎日の生活に充実感がない」
「Q9.（ここ 2 週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」
「Q10.（ここ 2 週間）以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」
「Q11.（ここ 2 週間）自分が役に立つ人間だと思えない」
「Q12.（ここ 2 週間）わけもなく疲れたような感じがする」
・上記のうち、2 項目以上が「はい」の場合 「うつ症状リスクあり」

《転倒リスクあり判定》

- 問 3 「Q1. この 1 年間に転んだことがありますか」(はい=5 点)
「Q3. 背中が丸くなってきましたか」(はい=2 点)
「Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか」(はい=2 点)
「Q5. 杖を使っていますか」(はい=2 点)
問 8 「Q3. 現在、医師の処方した薬を何種類か飲んでいますか」(5 種類以上=2 点)

・上記の計算で、6 点以上の場合「転倒リスクあり」

2) 認知症レベル（認知機能障害程度「CPS」について）

認知機能の障害程度の指標として有用とされる認知機能障害程度（CPS）に準じた評価リスク該当者を算出した。

算出にあたっては、問5『物忘れについて』のQ4～Q6及び問6『日常生活』のQ6の計4問の質問を次のような流れにより、判定した。

≪認知機能障害程度のレベル判定の流れ≫

①ステップ1

問5 「Q5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。」

『1. 困難なくできる』

『2. いくらか困難であるが、できる』

『3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要』

『4. ほとんど判断できない』 → ④ステップ4へ

} → ②ステップ2へ

②ステップ2

問5 「Q4. 5分前のことが思い出せますか。」

『2. いいえ』

問5 「Q5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。」

『2. いくらか困難であるが、できる』

『3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要』

問5 「Q6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか。」

『2. いくらか困難であるが、伝えられる』

『3. あまり伝えられない』

『4. ほとんど伝えられない』

・上記のうち、該当なしの場合 ⇒ 0レベル（障害なし）

・1項目のみ該当の場合 ⇒ 1レベル（境界的）

・2項目以上該当の場合 → ③ステップ3へ

③ステップ3

問5 「Q5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。」

『3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要』

問5 「Q6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか。」

『3. あまり伝えられない』

『4. ほとんど伝えられない』

・上記のうち、該当なしの場合 ⇒ 2レベル（軽度の障害）

・1項目のみ該当の場合 ⇒ 3レベル（中等度の障害）

・2項目該当の場合 ⇒ 4レベル（やや重度の障害）

④ステップ4

問6 「Q6. 食事は自分で食べられますか。」

『1. できる』

『2. 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる』

・上記の場合 ⇒ 5レベル（重度の障害）

『3. できない』

・上記の場合 ⇒ 6レベル（最重度の障害）

Ⅱ 市民意識調査の結果

認知機能の障害程度の判定項目に従い判定した結果、“元気高齢者”は、「0 レベル（認知症の障害なし）」が 84.3%であり、認知障害と認知症の境界に位置する「1 レベル（境界的）」が 9.8%となっている。

また、“二次予防対象者”は、「0 レベル（障害なし）」が 68.8%であり、認知障害と認知症の境界に位置する「1 レベル（境界的）」が 16.8%、「2 レベル（軽度）」が 7.7%となっている。

“要支援高齢者”では、「0 レベル（障害なし）」が 53.0%であり、認知障害と認知症の境界に位置する「1 レベル（境界的）」が 18.7%、「2 レベル（軽度）」が 17.9%となっている。

“要介護高齢者”では、「0 レベル（障害なし）」が 21.0%であり、認知障害と認知症の境界に位置する「1 レベル（境界的）」が 12.5%、「2 レベル（軽度）」が 16.1%、「3 レベル（中等度）」が 14.9%、「4 レベル（やや重度）」が 5.2%と、認知症の重度化が見受けられる。

このことから、身体が悪化するほど、認知レベルが悪化することがうかがえる。

《元気高齢者の「認知症レベル」》

	全体	0 レベル (障害なし)	1 レベル (境界的)	2 レベル (軽度)	3 レベル (中等度)	4 レベル (やや重度)	5 レベル (重度)	6 レベル (最重度)	無記入 (判定不能)
全体	1,563 100.0%	1,317 84.3%	153 9.8%	21 1.3%	3 0.2%	0 0.0%	2 0.1%	0 0.0%	67 4.3%
男性	764 100.0%	624 81.7%	83 10.9%	15 2.0%	2 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	40 5.2%
女性	799 100.0%	693 86.7%	70 8.8%	6 0.8%	1 0.1%	0 0.0%	2 0.3%	0 0.0%	27 3.4%
65～74 歳	1,172 100.0%	1,012 86.3%	108 9.2%	13 0.9%	3 0.3%	0 0.0%	2 0.2%	0 0.0%	36 3.1%
75～84 歳	347 100.0%	276 79.5%	39 11.2%	8 2.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	24 6.9%
85 歳以上	44 100.0%	29 65.9%	6 13.6%	2 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 15.9%

《二次予防対象者の「認知症レベル」》

	全体	0 レベル (障害なし)	1 レベル (境界的)	2 レベル (軽度)	3 レベル (中等度)	4 レベル (やや重度)	5 レベル (重度)	6 レベル (最重度)	無記入 (判定不能)
全体	571 100.0%	393 68.8%	96 16.8%	44 7.7%	16 2.8%	1 0.2%	2 0.4%	0 0.0%	19 3.3%
男性	248 100.0%	157 63.3%	44 17.7%	26 10.5%	10 4.0%	0 0.0%	1 0.4%	0 0.0%	10 4.0%
女性	323 100.0%	236 73.1%	52 16.1%	18 5.6%	6 1.9%	1 0.3%	1 0.3%	0 0.0%	9 2.8%
65～74 歳	306 100.0%	232 75.8%	42 13.7%	16 5.2%	9 2.9%	0 0.0%	2 0.7%	0 0.0%	5 1.6%
75～84 歳	203 100.0%	125 61.6%	40 19.7%	20 9.9%	5 2.5%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	12 5.9%
85 歳以上	62 100.0%	36 58.1%	14 22.6%	8 12.9%	2 3.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.2%

《要支援高齢者の「認知症レベル」》

	全体	0レベル (障害なし)	1レベル (境界的)	2レベル (軽度)	3レベル (中等度)	4レベル (やや重度)	5レベル (重度)	6レベル (最重度)	無記入 (判定不能)
全体	134 100.0%	71 53.0%	25 18.7%	24 17.9%	3 2.2%	1 0.7%	0 0.0%	0 0.0%	10 7.5%
男性	45 100.0%	22 48.9%	8 17.8%	11 24.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 8.9%
女性	89 100.0%	49 55.1%	17 19.1%	13 14.6%	3 3.4%	1 1.1%	0 0.0%	0 0.0%	6 6.7%
65～74 歳	16 100.0%	10 62.5%	3 18.8%	0 0.0%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%
75～84 歳	70 100.0%	41 58.6%	10 14.3%	12 17.1%	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 8.6%
85 歳以上	48 100.0%	20 41.7%	12 25.0%	12 25.0%	0 0.0%	1 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.3%

《要介護高齢者の「認知症レベル」》

	全体	0レベル (障害なし)	1レベル (境界的)	2レベル (軽度)	3レベル (中等度)	4レベル (やや重度)	5レベル (重度)	6レベル (最重度)	無記入 (判定不能)
全体	248 100.0%	52 21.0%	31 12.5%	40 16.1%	37 14.9%	13 5.2%	33 13.3%	12 4.8%	30 12.1%
男性	86 100.0%	14 16.3%	12 14.0%	13 15.1%	15 17.4%	3 3.5%	11 12.8%	4 4.7%	14 16.3%
女性	162 100.0%	38 23.5%	19 11.7%	27 16.7%	22 13.6%	10 6.2%	22 13.6%	8 4.9%	16 9.9%
65～74 歳	39 100.0%	10 25.6%	5 12.8%	4 10.3%	10 25.6%	1 2.6%	6 15.4%	1 2.6%	2 5.1%
75～84 歳	96 100.0%	26 27.1%	17 17.7%	15 15.6%	6 6.3%	4 4.2%	11 11.5%	7 7.3%	10 10.4%
85 歳以上	113 100.0%	16 14.2%	9 8.0%	21 18.6%	21 18.6%	8 7.1%	16 14.2%	4 3.5%	18 15.9%

3) 運動器の機能

運動器の機能に関する設問は、5問あり、「はい」もしくは「いいえ」が3問以上で「運動器の機能低下」と判定される。

“元気高齢者”は、「問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)」が22.8%と最も多くなっており、次いで「問2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(いいえ)」が17.7%となっている。

“二次予防対象者”は、「問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)」が69.9%、「問2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(いいえ)」が62.0%とともに6割を超えている。

“要支援高齢者”は、「問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)」が85.1%、「問2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(いいえ)」が82.8%とともに8割を超えている。

“要介護高齢者”は、「問2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(いいえ)」が87.1%、「問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)」が80.6%、「問2 Q2. 椅子に座った状態から何も捕まらずに立ち上がっていますか。(いいえ)」が79.0%となっている。

『運動器の機能』については、「階段を手すりや壁をつたわずに昇ること」「転倒に対する不安」について、“元気高齢者”と“二次予防対象者”“要支援高齢者”“要介護高齢者”で差が大きくなっていることがうかがえる。特に、“要支援高齢者”は「転倒に対する不安」が85.1%であることから、転倒予防に向けた取り組みなどが必要かと思われる。

＜身体状況別 運動器の機能に関する判定項目 個別結果＞

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。 (運動器機能 判定項目)	はい	59.6%	80.3%	36.4%	14.2%	7.3%
	いいえ	38.1%	17.7%	62.0%	82.8%	87.1%
	無記入	2.3%	2.0%	1.6%	3.0%	5.6%
問2 Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。 (運動器機能 判定項目)	はい	75.2%	95.7%	56.6%	24.6%	16.5%
	いいえ	22.7%	2.6%	41.9%	71.6%	79.0%
	無記入	2.1%	1.7%	1.6%	3.7%	4.4%
問2 Q3. 15分位続けて歩いていますか。 (運動器機能 判定項目)	はい	80.2%	94.2%	73.7%	50.7%	23.0%
	いいえ	17.6%	4.2%	24.3%	44.0%	72.2%
	無記入	2.2%	1.6%	1.9%	5.2%	4.8%
問3 Q1. この1年間に転んだことがありますか。 (運動器機能 判定項目)	はい	21.9%	10.0%	37.1%	44.8%	50.0%
	いいえ	76.6%	89.1%	62.3%	53.0%	43.1%
	無記入	1.5%	0.9%	0.5%	2.2%	6.9%
問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。 (運動器機能 判定項目)	はい	42.5%	22.8%	69.9%	85.1%	80.6%
	いいえ	54.8%	74.7%	28.0%	14.9%	12.9%
	無記入	2.6%	2.4%	2.1%	0.0%	6.5%

4) 栄養に関する状況

栄養に関する設問は、2問あり、「はい」もしくは「BMIが18.5未満」の2問で「低栄養」と判定される。

“元気高齢者”は、「問4 Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(はい)」 「問4 Q2. BMIが18.5未満」とともに、1割を下回っている。

“二次予防対象者”は、「問4 Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(はい)」が21.4%となっている。

“要支援高齢者”は、「問4 Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(はい)」が20.9%となっている。

“要介護高齢者”は、「問4 Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(はい)」が24.2%と4人に1人程度となっている。

また、低栄養状態が疑われる「BMI=18.5未満」についても、“要介護高齢者”の18.5%が該当しており、“要介護高齢者”の栄養に関する課題が見受けられる。

関連項目の「問4 Q9. 1日の食事回数は何回ですか。」 「問4 Q10. 食事を抜くことがありますか。」については、“元気高齢者”は9割以上が『朝昼晩の3食』『食事を抜くことがほとんどない』となっている。“二次予防対象者”では『朝昼晩の3食』が9割以上となっているが、『食事を抜くことがほとんどない』が8割強と“元気高齢者”よりも低くなっている。

“要支援高齢者”は『朝昼晩の3食』と『食事を抜くことがほとんどない』が8割以上となっており、身体状況の悪化に伴い栄養の課題も考慮していくことが必要かと思われる。

《身体状況別 栄養に関する判定項目等 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問4 Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。 (栄養 判定項目)	はい	13.4%	8.1%	21.4%	20.9%	24.2%
	いいえ	78.7%	85.6%	71.5%	65.7%	58.9%
	無記入	7.9%	6.3%	7.2%	13.4%	16.9%
問4 Q2. (身長・体重を記入→BMI※を算出) (栄養 判定項目)	18.5未満	9.5%	6.7%	12.3%	14.9%	18.5%
	18.5以上	83.8%	88.2%	83.9%	75.4%	60.9%
	無記入	6.6%	5.2%	3.9%	9.7%	20.6%
問4 Q9. 1日の食事の回数は何回ですか。 (栄養 関連項目)	朝昼晩の3食	90.1%	91.4%	90.2%	81.3%	86.3%
	朝晩の2食	3.3%	2.3%	4.2%	8.2%	4.8%
	朝昼の2食	0.4%	0.3%	0.7%	1.5%	0.4%
	昼晩の2食	2.5%	2.4%	2.6%	3.7%	2.4%
	1食	0.2%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
	その他	0.4%	0.1%	0.5%	1.5%	1.2%
	無記入	3.1%	3.4%	1.6%	3.7%	4.8%
問4 Q10. 食事を抜くことがありますか。 (栄養 関連項目)	毎日ある	1.1%	0.5%	1.4%	1.5%	4.0%
	週に何度か	3.1%	1.9%	5.3%	6.0%	3.6%
	月に何度か	4.8%	3.6%	6.5%	7.5%	6.5%
	ほとんどない	87.3%	90.4%	83.7%	81.3%	79.0%
	無記入	4.8%	3.5%	3.2%	3.7%	6.9%

※BMI (ボディマス指数) = 体重 / (身長 × 身長)

5) 口腔機能

口腔機能に関する設問は、3問あり、「はい」が2問以上で「機能低下」と判定される。

“元気高齢者”は、「問4 Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか。(はい)」が11.0%であり、他の設問に関しても1割程度となっている。

“二次予防対象者”は、「問4 Q5. 口の渇きが気になりますか。(はい)」が60.8%となっており、他の設問についても半数を超えている。

“要支援高齢者”は、「問4 Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(はい)」が55.2%となっている。

“要介護高齢者”は、「問4 Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(はい)」が61.3%と6割を超えており、「問4 Q5. 口の渇きが気になりますか。(はい)」が43.1%と“二次予防対象者”“要支援高齢者”に比べて低くなっている。

関連項目の「問4 Q8. 入れ歯を使用していますか。」については、『はい』が“要支援高齢者”が7割、“要介護高齢者”が6割、“二次予防対象者”が半数を超えている。

また、「問4 Q6. 歯磨きを毎日していますか。」は全体として9割近くとなっており、「問4 Q7. 定期的に歯科受診をしていますか。」は、全体として半数を下回っている。

特に、「問4 Q8. 噛み合わせは良いですか」に関して、“要介護高齢者”は「いいえ」が34.8%と全体の3割強を占めているが、「問4 Q7. 定期的に歯科受診をしていますか」に関して「はい」が35.5%と低くなっている。『義歯』の不具合により、固い物が食べられなくなるなど、栄養課題を引き起こす可能性が高いため、定期的な歯科受診の必要性を啓発していくことも必要かと思われる。

《身体状況別 口腔機能の判定項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問4 Q3. 半年前に比べて 固いものが食べにくく なりましたか。 (口腔機能 判定項目)	はい	28.1%	9.8%	57.3%	55.2%	61.3%
	いいえ	68.9%	87.3%	42.0%	41.8%	29.4%
	無記入	3.1%	2.9%	0.7%	3.0%	9.3%
問4 Q4. お茶や汁物等で むせることがありますか。 (口腔機能 判定項目)	はい	26.4%	11.0%	53.9%	45.5%	50.0%
	いいえ	70.5%	86.1%	45.5%	50.0%	40.3%
	無記入	3.1%	2.9%	0.5%	4.5%	9.7%
問4 Q5. 口の渇きが気にな りますか。 (口腔機能 判定項目)	はい	27.3%	10.2%	60.8%	54.5%	43.1%
	いいえ	68.9%	86.6%	37.3%	41.8%	45.2%
	無記入	3.8%	3.3%	1.9%	3.7%	11.7%

《身体状況別 口腔機能の関連項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 4 Q6. 歯磨き（人にや ってもら場合も含む） を毎日していますか。 （口腔機能 関連項目）	はい	89.8%	91.3%	92.6%	84.3%	77.0%
	いいえ	7.4%	5.8%	6.3%	11.9%	16.9%
	無記入	2.8%	2.9%	1.1%	3.7%	6.0%
問 4 Q7. 定期的に歯科受 診（健診を含む）をして いますか。 （口腔機能 関連項目）	はい	49.7%	53.7%	47.1%	40.3%	35.5%
	いいえ	46.7%	42.8%	50.8%	53.7%	57.7%
	無記入	3.6%	3.5%	2.1%	6.0%	6.9%
問 4 Q8. 入れ歯を使用し ていますか。 （口腔機能 関連項目）	はい	47.4%	39.0%	57.4%	71.6%	63.7%
	いいえ	49.8%	57.8%	41.2%	26.9%	31.9%
	無記入	2.8%	3.2%	1.4%	1.5%	4.4%
（入れ歯の人のみ） 問 4 Q8-1. 噛み合わせ は良いですか。 （口腔機能 関連項目）	はい	77.7%	88.5%	71.0%	62.5%	58.9%
	いいえ	18.9%	9.0%	25.3%	33.3%	34.8%
	無記入	3.4%	2.5%	3.7%	4.2%	6.3%
（入れ歯の人のみ） 問 4 Q8-2. 毎日入れ歯 の手入れをしていますか。 （口腔機能 関連項目）	はい	88.4%	89.5%	92.1%	84.4%	79.1%
	いいえ	7.7%	6.1%	5.5%	9.4%	17.7%
	無記入	3.9%	4.4%	2.4%	6.3%	3.2%

6) うつ症状リスクに関する状況

うつ症状に関する設問は、5問あり、「はい」が2問以上で「うつ症状リスクあり」と判定される。(全体の評価は20～22頁に掲載)

“元気高齢者”は、「問8 Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(はい)」が14.0%、「問8 Q12. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。(はい)」が13.1%となっている。

“二次予防対象者”は、「問8 Q12. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。(はい)」が43.4%、「問8 Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(はい)」が43.1%となっている。

“要支援高齢者”は「問8 Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(はい)」が67.9%となっている。

“要介護高齢者”は、「問8 Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。(はい)」が59.7%となっている。

“元気高齢者”では、うつ症状の項目に該当する者は少ないが、“二次予防対象者”“要支援高齢者”“要介護高齢者”と身体状況が悪化するにつれ、該当者の割合が増している。特に何らかの支援を必要とする“要介護高齢者”においては、約半数に近い人が『うつ症状あり』に該当されていることから、高齢期に多い「うつ病」発症予防への取り組みも必要であると思われる。

《身体状況別 うつ症状リスク判定項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問8 Q8. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない。 (うつ症状 判定項目)	はい	18.8%	10.2%	25.4%	38.8%	46.4%
	いいえ	74.8%	84.7%	69.0%	53.0%	37.5%
	無記入	6.4%	5.1%	5.6%	8.2%	16.1%
問8 Q9. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった (うつ症状 判定項目)	はい	15.7%	5.8%	22.8%	39.6%	49.2%
	いいえ	78.2%	89.6%	71.5%	56.0%	33.9%
	無記入	6.1%	4.6%	5.8%	4.5%	16.9%
問8 Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。 (うつ症状 判定項目)	はい	28.0%	14.0%	43.1%	67.9%	59.7%
	いいえ	66.3%	81.8%	51.7%	26.1%	24.6%
	無記入	5.7%	4.2%	5.3%	6.0%	15.7%
問8 Q11. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない。 (うつ症状 判定項目)	はい	17.2%	8.8%	22.9%	37.3%	46.0%
	いいえ	76.6%	86.6%	72.0%	56.0%	35.1%
	無記入	6.2%	4.5%	5.1%	6.7%	19.0%
問8 Q12. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。 (うつ症状 判定項目)	はい	25.6%	13.1%	43.4%	53.0%	49.2%
	いいえ	68.8%	82.7%	52.0%	41.8%	33.9%
	無記入	5.6%	4.2%	4.6%	5.2%	16.9%

7) 転倒リスクに関する状況

転倒リスクに関しては、5問あり、「はい」などを点数（2点もしくは5点）化し、6点以上で「転倒リスクあり」と判定している。（全体の評価は20～22頁に掲載）

“元気高齢者”は、「問3 Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。（はい）」が45.1%となっている。また、“二次予防対象者”“要支援高齢者”“要介護高齢者”は、「問3 Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。（はい）」が8割を超えている。

なかでも、“要支援高齢者”では、92.5%が「歩く速度が遅くなった」と回答している

関連項目の「問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。（はい）」と「問3 Q1. この1年間に転んだことがありますか。（はい）」をみると、“元気高齢者”は、「転んだことがある」人よりも「転倒に対する不安が大きい」人が13ポイント近く多くなっている。また、“二次予防対象者”“要支援高齢者”“要介護高齢者”ともに、「転んだことがある」人よりも「転倒に対する不安が大きい」人が1.6～1.9倍程度多くなっている。

いずれにしても、転倒に対する不安は、下肢筋力の低下とともに高くなるため、身体状況の悪化に伴い、不安は高くなるものと考えられる。

《身体状況別 転倒リスクに関する判定項目等 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問3 Q1. この1年間に転んだことがありますか。	はい ⑤	21.9%	10.0%	37.1%	44.8%	50.0%
	いいえ	76.6%	89.1%	62.3%	53.0%	43.1%
(転倒リスク 評価項目)	無記入	1.5%	0.9%	0.5%	2.2%	6.9%
問3 Q3. 背中が丸くなってきましたか。	はい ②	32.6%	21.4%	41.5%	68.7%	63.7%
	いいえ	65.3%	77.0%	57.3%	29.9%	29.0%
(転倒リスク 評価項目)	無記入	2.1%	1.6%	1.2%	1.5%	7.3%
問3 Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。	はい ②	59.6%	45.1%	82.5%	92.5%	80.6%
	いいえ	38.2%	54.0%	16.5%	6.7%	5.2%
(転倒リスク 評価項目)	無記入	2.2%	0.9%	1.1%	0.7%	14.1%
問3 Q5. 杖を使っていますか。	はい ②	14.6%	2.8%	19.8%	66.4%	49.6%
	いいえ	83.1%	96.1%	78.5%	31.3%	39.9%
(転倒リスク 評価項目)	無記入	2.3%	1.2%	1.8%	2.2%	10.5%
問8 Q3 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。	1種類	14.0%	17.9%	9.6%	5.2%	4.0%
	2種類	13.9%	15.9%	13.3%	6.0%	6.9%
	3種類	13.5%	13.1%	14.2%	20.9%	10.9%
	4種類	10.6%	9.3%	13.5%	10.4%	12.1%
	5種類以上②	22.4%	12.8%	30.5%	49.3%	49.6%
	飲んでいない	20.6%	26.4%	15.4%	3.7%	5.6%
(転倒リスク 評価項目)	無記入	5.0%	4.7%	3.5%	4.5%	10.9%
問3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。	はい	42.5%	22.8%	69.9%	85.1%	80.6%
	いいえ	54.8%	74.7%	28.0%	14.9%	12.9%
(転倒リスク 関連項目)	無記入	2.6%	2.4%	2.1%	0.0%	6.5%

※②⑤の数字は、リスクの点数。

8) 認知機能（物忘れ）に関する状況

認知機能（物忘れ）に関しては、4 問あり、「認知機能障害程度（CPS）」（23 頁参照）に準じて 0 レベルから 6 レベルの 7 段階の障害程度を判定している。

“要介護高齢者”では、「問 5 Q4 5 分前のことが思い出せますか。（いいえ）」が 37.1%、「問 5 Q5 その日の活動を自分で判断できますか（できる）」は、33.1%といずれも約 3 割である。これらのことから、“要介護高齢者”では認知機能の低下により、記憶障害や意志判断能力の低下がみられる割合が他の身体状況に比べ、非常に高くなることがうかがえる。

高齢者虐待における被虐待者の多くが、“要介護高齢者”で認知症を患っていることが多いため、認知症に関するケアや介護者家族への支援も重要な取り組みと考えられる。

《身体状況別 認知機能（物忘れ）に関する判定項目 個別結果》

設問		全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 5 Q4. 5 分前のことが思い出せますか。 (認知機能障害程度 評価項目)	はい	86.5%	90.5%	89.5%	88.8%	53.2%
	いいえ	10.3%	6.7%	9.3%	6.0%	37.1%
	無記入	3.2%	2.8%	1.2%	5.2%	9.7%
問 5 Q5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。 (認知機能障害程度 評価項目)	困難なくできる	85.5%	94.8%	86.3%	71.6%	33.1%
	困難である ができる	7.6%	2.2%	11.4%	23.1%	24.2%
	他人からの合 図などが必要	2.2%	0.1%	1.2%	1.5%	18.1%
	ほとんど判 断できない	2.0%	0.1%	0.4%	0.0%	19.0%
	無記入	2.2%	2.8%	0.7%	3.7%	5.6%
問 5 Q6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか。 (認知機能障害程度 評価項目)	伝えられる	81.2%	92.0%	77.2%	59.7%	33.5%
	困難である が伝えられる	11.2%	4.4%	16.3%	29.9%	32.7%
	あまり伝え られない	2.4%	0.3%	3.3%	3.0%	13.7%
	ほとんど伝 えられない	1.4%	0.0%	0.7%	1.5%	11.7%
	無記入	2.4%	3.3%	2.5%	6.0%	8.5%
問 6 Q6. 食事は自分で食べられますか。 (認知機能障害程度 評価項目)	できる	94.6%	97.9%	98.4%	94.8%	65.3%
	一部介助が あればできる	2.7%	0.0%	1.1%	3.0%	23.4%
	できない	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	6.0%
	無記入	0.6%	2.1%	0.4%	2.2%	5.2%

認知機能（物忘れ）の関連項目として、「問 5 Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。（はい）」をみると、“元気高齢者”が 14.2%、“二次予防対象者”が 32.0%、“要支援高齢者”が 32.1%となっている。また、“要介護高齢者”は、「問 5 Q1. 周りの人から『いつも同じ事を聞く』などの物忘れがあると言われますか。（はい）」が 52.0%と半数を超えている。

《身体状況別 認知機能（物忘れ）に関する関連項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 5 Q1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。 (認知機能障害程度 関連項目)	はい	19.0%	9.8%	28.0%	26.1%	52.0%
	いいえ	77.2%	87.1%	69.9%	67.9%	36.7%
	無記入	3.8%	3.1%	2.1%	6.0%	11.3%
問 5 Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。 (認知機能障害程度 関連項目)	はい	82.4%	89.7%	83.7%	80.6%	34.3%
	いいえ	14.7%	7.4%	15.6%	15.7%	58.5%
	無記入	2.9%	2.9%	0.7%	3.7%	7.3%
問 5 Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。 (認知機能障害程度 関連項目)	はい	23.6%	14.2%	32.0%	32.1%	58.9%
	いいえ	73.4%	83.1%	66.7%	64.2%	33.1%
	無記入	2.9%	2.7%	1.2%	3.7%	8.1%

9) 閉じこもりに関する状況

閉じこもり傾向に関する設問は、2問あり、「問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。」の項目で、「いいえ」と回答することで「閉じこもり傾向」と判定される。

“元気高齢者”は、「問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。(いいえ)」が2.2%とわずであり、「問2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(はい)」が13.2%となっている。

“二次予防対象者”は、「問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。(いいえ)」が9.1%であり、「問2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(はい)」が42.4%と4割を超えている。

“要支援高齢者”は、「問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。(いいえ)」が19.4%であり、「問2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(はい)」が68.7%と7割近くとなっている。

“要介護高齢者”は、「問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。(いいえ)」が35.1%であり、「問2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(はい)」が57.3%と半数を超えている。

《身体状況別 閉じこもり傾向の判定項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問2 Q5. 週に1回以上外出していますか。 (閉じこもり 判定項目)	はい	90.1%	96.5%	89.8%	76.1%	58.1%
	いいえ	7.9%	2.2%	9.1%	19.4%	35.1%
	無記入	1.9%	1.3%	1.1%	4.5%	6.9%
問2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 (閉じこもり 判定項目)	はい	27.1%	13.2%	42.4%	68.7%	57.3%
	いいえ	70.7%	85.3%	56.4%	27.6%	34.7%
	無記入	2.2%	1.5%	1.2%	3.7%	8.1%

関連項目の「問2 Q4 5m以上歩けますか (いいえ)」は、“要支援高齢者”が10.4%、“要介護高齢者”が39.5%と、歩行能力の低下により、閉じこもらざるを得ない状況がうかがえる。また、「問2 Q7 外出を控えていますか (はい)」は、“要支援高齢者”が29.9%、“要介護高齢者”が58.2%と、歩行能力の低下等により外出を控えざるを得ない状況がうかがえる。従って重度化予防のために筋力低下が進行しないような取り組みが必要と思われる。

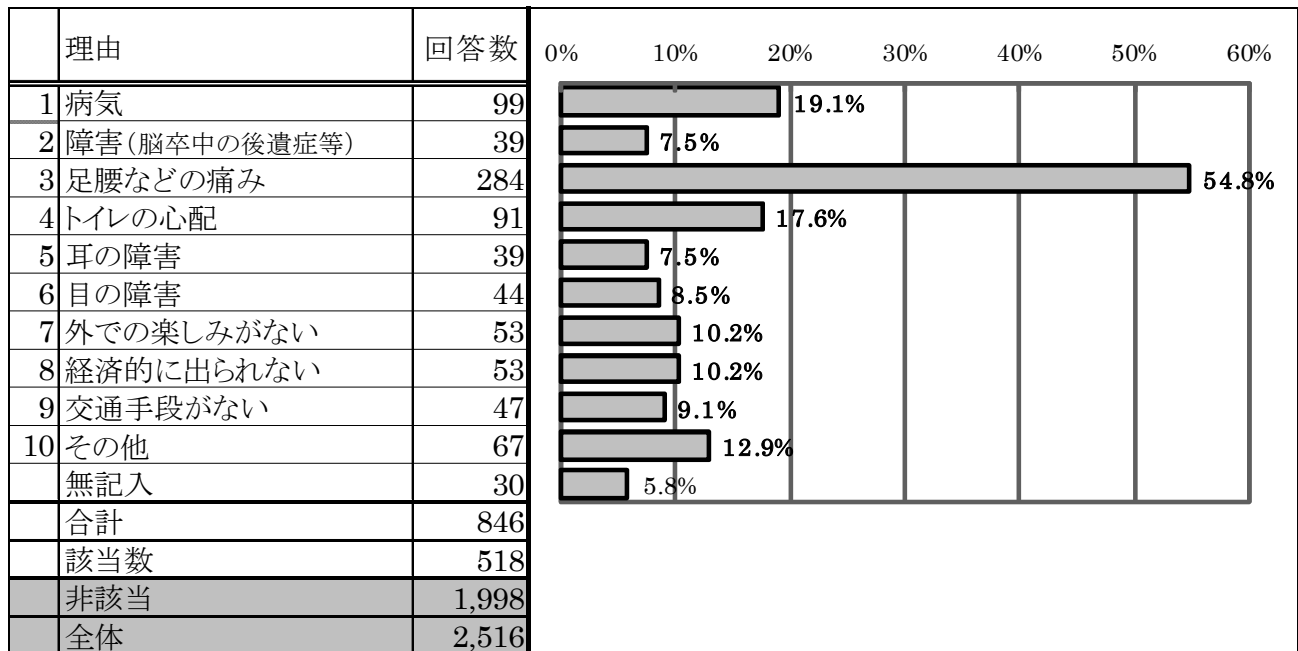
《身体状況別 閉じこもり傾向の関連項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問2 Q4. 5m以上歩けますか。 (閉じこもり 関連項目)	はい	92.7%	98.2%	96.0%	84.3%	54.8%
	いいえ	5.2%	0.1%	3.2%	10.4%	39.5%
	無記入	2.1%	1.7%	0.9%	5.2%	5.6%
問2 Q7. 外出を控えていますか。 (閉じこもり 関連項目)	はい	27.1%	20.6%	7.2%	29.9%	58.2%
	いいえ	70.7%	76.8%	91.0%	68.3%	37.3%
	無記入	2.2%	2.6%	1.8%	1.8%	4.5%

Ⅱ 市民意識調査の結果

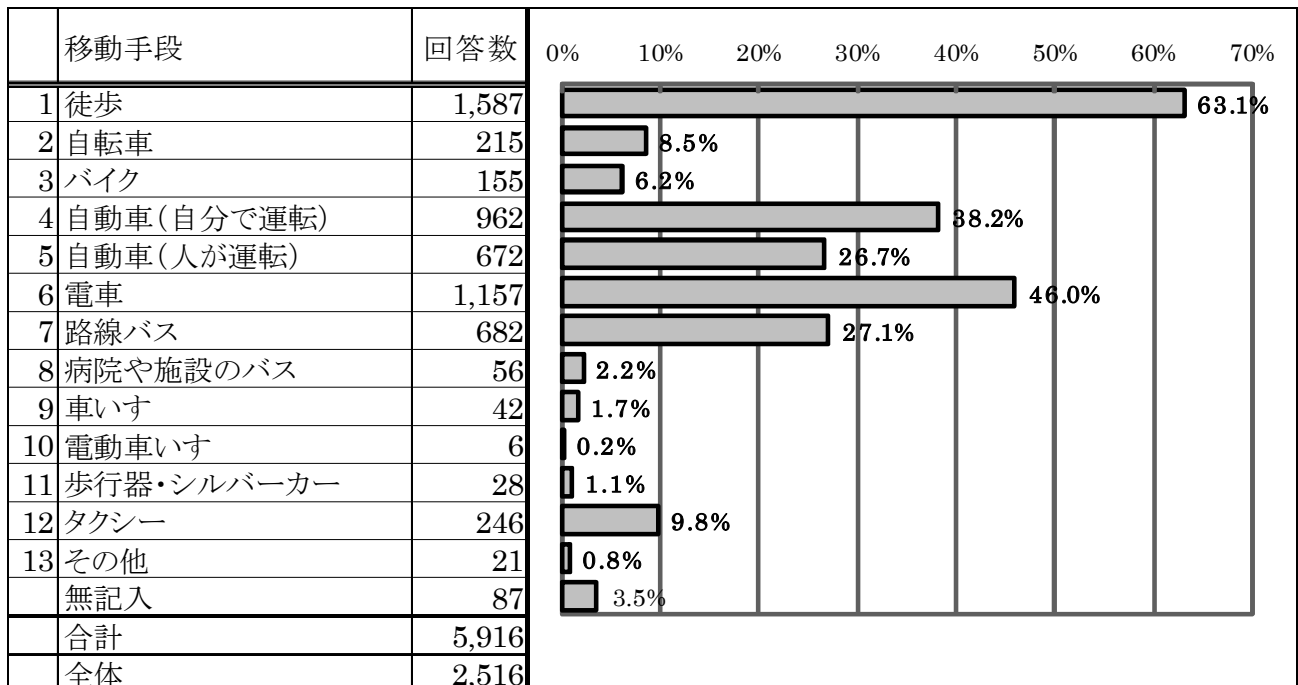
外出を控えている主な理由は、「足腰の痛み」が 54.8%と高く、次いで何らかの「病気」が 19.1%と、筋骨格やその他の病気により家から出づらくなっていることがうかがえる。

《外出を控えている理由》



※その他の主な内容：施設や病院に入所・入院中、配偶者などの介護のため、歩行が困難 など

《外出する際の移動手段》



※その他の主な内容：介護タクシー、コミュニティバス「たけまる号」 など

買い物での外出は、「週 1 日以上」が“元気高齢者”が 86.9%、“二次予防対象者”が 77.8%、“要支援高齢者”が 58.2%となっており、“要介護高齢者”は、「週 1 日未満」が 39.1%となっている。

散歩での外出は、「週 1 日以上」が“元気高齢者”が 69.5%、“二次予防対象者”が 53.4%、“要支援高齢者”が 42.5%となっており、“要介護高齢者”は、「週 1 日未満」が 41.1%となっている。

『どなたかと食事をする機会』は、“元気高齢者”“二次予防対象者”“要支援高齢者”“要介護高齢者”ともに、「毎日ある」がそれぞれ 70.2%、62.9%、45.5%、64.9%となっている。また、食事をともにする人は、“元気高齢者”“二次予防対象者”“要支援高齢者”は「家族」がそれぞれ 90.5%、87.8%、77.2%となっている。また、“要介護高齢者”は「家族」が 70.6%、次いで「デイサービス仲間」が 36.3%となっている。

《身体状況別 閉じこもり傾向に関連する買い物・食事の項目 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 2 Q8-1. 買い物 で外出する頻度は どのくらいですか。	週 1 日以上※	76.8%	86.9%	77.8%	58.2%	21.0%
	週 1 日未満	10.1%	4.7%	9.3%	23.1%	39.1%
(閉じこもり 関連項目)	無記入	13.1%	8.4%	13.0%	18.7%	39.9%
問 2 Q8-2. 散歩で 外出する頻度はど のくらいですか。	週 1 日以上※	59.5%	69.5%	53.4%	42.5%	19.8%
	週 1 日未満	15.8%	10.2%	17.3%	26.9%	41.1%
(閉じこもり 関連項目)	無記入	24.7%	20.2%	29.2%	30.6%	39.1%
問 4 Q11. 自分一人 でなく、どなたかと 食事をともにする 機会がありますか。	毎日ある	66.7%	70.2%	62.9%	45.5%	64.9%
	週に何度か	8.5%	8.0%	9.3%	11.2%	8.5%
	月に何度か	11.3%	11.6%	11.6%	15.7%	6.5%
	年に何度か	5.2%	3.9%	8.2%	12.7%	2.4%
	ほとんどない	4.6%	2.8%	6.0%	11.2%	8.9%
(閉じこもり 関連項目)	無記入	11.3%	3.5%	2.1%	3.7%	8.9%
問 4 Q11-1. 食 事をともにする 人はどなたです か。【複数回答】	家族	87.5%	90.5%	87.8%	77.2%	70.6%
	友人等	25.0%	29.4%	20.6%	22.8%	6.4%
	デイサービス仲間	3.9%	0.1%	0.4%	11.4%	36.3%
	その他	6.8%	5.8%	5.3%	13.2%	13.7%
(閉じこもり 関連項目)	無記入	3.9%	0.8%	2.1%	2.6%	2.0%

※週 1 日以上：「ほぼ毎日」「週 4～5 日」「週 2～3 日」「週 1 日」の計

10) 日常生活に関する状況

① 全般的な生活機能

全般的な生活機能に関しては、20 問あり、「はい」もしくは「いいえ」などが 10 項目以上該当する場合「全般的な生活機能低下」と判定される。

20 問のうち、特徴的な設問として、「問 2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(いいえ)」は、“二次予防対象者”が 62.0%、“要支援高齢者”は 82.8%、“要介護高齢者”は 87.1%となっている。

「問 3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。(はい)」は、“二次予防対象者”が 69.9%、“要支援高齢者”が 85.1%、“要介護高齢者”が 80.6%となっている。

「問 7 Q5. 友人の家を訪ねていますか。(いいえ)」は、“二次予防対象者”が 53.1%、“要支援高齢者”が 67.2%、“要介護高齢者”が 86.3%となっている。

また、“二次予防対象者”は「問 4 Q5. 口の渇きが気になりますか。(はい)」が 60.8%となっている。

＜身体状況別 全般的な生活機能に関する判定項目 個別結果（その 1）＞

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 2 Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。 (生活機能 判定項目)	はい	59.6%	80.3%	36.4%	14.2%	7.3%
	いいえ	38.1%	17.7%	62.0%	82.8%	87.1%
	無記入	2.3%	2.0%	1.6%	3.0%	5.6%
問 2 Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。 (生活機能 判定項目)	はい	59.6%	75.2%	95.7%	56.6%	24.6%
	いいえ	38.1%	22.7%	2.6%	41.9%	71.6%
	無記入	2.3%	2.1%	1.7%	1.6%	3.7%
問 2 Q3. 15 分位続けて歩いていますか。 (生活機能 判定項目)	はい	59.6%	80.2%	94.2%	73.7%	50.7%
	いいえ	38.1%	17.6%	4.2%	24.3%	44.0%
	無記入	2.3%	2.2%	1.6%	1.9%	5.2%
問 2 Q5. 週に 1 回以上外出していますか。 (生活機能 判定項目)	はい	90.1%	96.5%	89.8%	76.1%	58.1%
	いいえ	7.9%	2.2%	9.1%	19.4%	35.1%
	無記入	1.9%	1.3%	1.1%	4.5%	6.9%
問 2 Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。 (生活機能 判定項目)	はい	27.1%	13.2%	42.4%	68.7%	57.3%
	いいえ	70.7%	85.3%	56.4%	27.6%	34.7%
	無記入	2.2%	1.5%	1.2%	3.7%	8.1%
問 3 Q1. この 1 年間に転んだことがありますか。 (生活機能 判定項目)	はい	21.9%	10.0%	37.1%	44.8%	50.0%
	いいえ	76.6%	89.1%	62.3%	53.0%	43.1%
	無記入	1.5%	0.9%	0.5%	2.2%	6.9%
問 3 Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。 (生活機能 判定項目)	はい	42.5%	22.8%	69.9%	85.1%	80.6%
	いいえ	54.8%	74.7%	28.0%	14.9%	12.9%
	無記入	2.6%	2.4%	2.1%	0.0%	6.5%

《身体状況別 全般的な生活機能に関する判定項目 個別結果（その2）》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 4 Q1. 6 ヶ月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか。	はい	13.4%	8.1%	21.4%	20.9%	24.2%
	いいえ	78.7%	85.6%	71.5%	65.7%	58.9%
	(生活機能 判定項目) 無記入	7.9%	6.3%	7.2%	13.4%	16.9%
問 4 Q2. (身長・体重を記入→BMI＝を算出)	18.5 未満	9.5%	6.7%	12.3%	14.9%	18.5%
	18.5 以上	83.8%	88.2%	83.9%	75.4%	60.9%
	(生活機能 判定項目) 無記入	6.6%	5.2%	3.9%	9.7%	20.6%
問 4 Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	はい	28.1%	9.8%	57.3%	55.2%	61.3%
	いいえ	68.9%	87.3%	42.0%	41.8%	29.4%
	(生活機能 判定項目) 無記入	3.1%	2.9%	0.7%	3.0%	9.3%
問 4 Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか。	はい	26.4%	11.0%	53.9%	45.5%	50.0%
	いいえ	70.5%	86.1%	45.5%	50.0%	40.3%
	(生活機能 判定項目) 無記入	3.1%	2.9%	0.5%	4.5%	9.7%
問 4 Q5. 口の渇きが気になりますか。	はい	27.3%	10.2%	60.8%	54.5%	43.1%
	いいえ	68.9%	86.6%	37.3%	41.8%	45.2%
	(生活機能 判定項目) 無記入	3.8%	3.3%	1.9%	3.7%	11.7%
問 5 Q1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか。	はい	19.0%	9.8%	28.0%	26.1%	52.0%
	いいえ	77.2%	87.1%	69.9%	67.9%	36.7%
	(生活機能 判定項目) 無記入	3.8%	3.1%	2.1%	6.0%	11.3%
問 5 Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	はい	82.4%	89.7%	83.7%	80.6%	34.3%
	いいえ	14.7%	7.4%	15.6%	15.7%	58.5%
	(生活機能 判定項目) 無記入	2.9%	2.9%	0.7%	3.7%	7.3%
問 5 Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。	はい	23.6%	14.2%	32.0%	32.1%	58.9%
	いいえ	73.4%	83.1%	66.7%	64.2%	33.1%
	(生活機能 判定項目) 無記入	2.9%	2.7%	1.2%	3.7%	8.1%
問 6 Q1. バスや電車で一人で外出していますか。	している	81.2%	94.6%	80.4%	59.7%	10.1%
	できるだけしていない	5.7%	2.8%	10.9%	9.7%	10.1%
	できない	10.5%	0.3%	7.0%	26.1%	74.6%
	(生活機能 判定項目) 無記入	10.5%	2.3%	1.8%	4.5%	5.2%

《身体状況別 全般的な生活機能に関する判定項目 個別結果（その3）》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問6 Q2. 日用品の買物をしていますか。	している	77.9%	89.6%	77.9%	63.4%	12.1%
	できるけどしていない	10.2%	7.5%	15.6%	15.7%	11.3%
	できない	9.1%	0.3%	4.9%	15.7%	71.0%
	(生活機能 判定項目) 無記入	10.5%	2.3%	1.8%	4.5%	5.2%
問6 Q5. 預貯金の出し入れをしていますか。預貯金の出し入れをしていますか。	している	76.9%	86.9%	77.4%	65.7%	18.1%
	できるけどしていない	12.0%	10.0%	15.1%	18.7%	14.1%
	できない	8.6%	0.8%	6.1%	11.9%	61.7%
	(生活機能 判定項目) 無記入	8.6%	2.2%	1.4%	3.7%	6.0%
問7 Q5. 友人の家を訪ねていますか。	はい	53.7%	66.1%	44.8%	30.6%	8.1%
	いいえ	44.3%	32.4%	53.1%	67.2%	86.3%
	(生活機能 判定項目) 無記入	2.1%	1.5%	2.1%	2.2%	5.6%
問7 Q6. 家族や友人の相談にのっていますか。	はい	76.0%	88.0%	71.8%	51.5%	23.0%
	いいえ	21.5%	9.9%	26.1%	44.8%	71.4%
	(生活機能 判定項目) 無記入	2.5%	2.1%	2.1%	3.7%	5.6%

② 日常生活

『寝ること』や『座ること』『洗面・歯磨き』『排せつ』『入浴』『着替え』については、“元気高齢者”と“二次予防対象者”は「(介助を) 受けない」もしくは「できる」が 9 割を超えており、“要支援高齢者”もすべて 8 割を超えている。一方、“要介護高齢者”は、『寝ること』(「問 6 Q7. 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。(受けない)」)が、6 割弱となっている。

《身体状況別 日常生活に関する項目 個別結果(その 1)》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 6 Q7. 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。	受けない	93.6%	97.7%	98.2%	92.5%	57.7%
	一部介助が あればできる	2.5%	0.0%	0.9%	3.0%	21.4%
	全面的な介 助が必要	1.6%	0.0%	0.5%	0.0%	15.3%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.6%	2.3%	0.4%	4.5%	5.6%
問 6 Q8. 座っている ことができますか。	できる	92.8%	97.2%	93.7%	81.3%	69.8%
	支えが必要	2.8%	0.0%	3.0%	10.4%	15.7%
	できない	1.9%	0.5%	2.5%	3.0%	8.9%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.9%	2.3%	0.9%	5.2%	5.6%
問 6 Q9. 自分で洗面 や歯磨きができます か。	できる	94.0%	97.8%	98.9%	91.8%	59.7%
	一部介助が あればできる	2.1%	0.0%	0.4%	3.0%	19.4%
	できない	1.7%	0.0%	0.4%	0.7%	16.1%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.7%	2.2%	0.4%	4.5%	4.8%
問 6 Q10. 自分でト イレができますか。	できる	94.4%	98.0%	98.9%	95.5%	60.5%
	一部介助が あればできる	2.3%	0.0%	0.4%	1.5%	22.2%
	できない	1.4%	0.0%	0.4%	0.0%	12.9%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.4%	2.0%	0.4%	3.0%	4.4%
問 6 Q11. 自分で入 浴ができますか。	できる	92.8%	97.2%	93.7%	81.3%	69.8%
	一部介助が あればできる	2.8%	0.0%	3.0%	10.4%	15.7%
	できない	1.9%	0.5%	2.5%	3.0%	8.9%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.9%	2.3%	0.9%	5.2%	5.6%
問 6 Q14. 自分で着 替えができますか。	できる	92.8%	97.8%	97.9%	89.6%	50.8%
	介助があ ればできる	3.3%	0.0%	1.2%	5.2%	28.2%
	できない	1.8%	0.0%	0.5%	0.7%	16.5%
	(日常生活 関連項目) 無記入	1.8%	2.2%	0.4%	4.5%	4.4%

『歩行』や『階段の昇降』『便失禁』『尿失禁』『支払い』については、“元気高齢者”は、すべて「できる」「ない」「している」が8割を超えている。

“二次予防対象者”は、『尿失禁』（「問6 Q16. 尿もれや失禁がありますか。（ない）」）が64.3%、『支払い』（「問6 Q4. 請求書の支払いをしていますか。（している）」）が77.8%であり、その他は8割を超えている。

“要支援高齢者”は、『尿失禁』（「問6 Q16. 尿もれや失禁がありますか。（ない）」）が42.5%となっている。

“要介護高齢者”は、『支払い』（「問6 Q4. 請求書の支払いをしていますか。（している）」）が20.2%、『階段の昇降』（「問6 Q13. 階段を昇り降りできますか。（できる）」）が28.6%、『歩行』（「問6 Q12. 50m以上歩けますか。（できる）」）が31.0%となっている。

なお、「問6 Q16 尿もれや失禁がありますか（ときどきある）」が、“元気高齢者”で15.2%、“二次予防対象者”で33.3%、“要支援高齢者”で47.8%と、比較的元気な人にも発生していることから、尿失禁予防への取り組みも今後検討が必要かと思われる。

＜身体状況別 日常生活に関する項目 個別結果（その2）＞

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問6 Q12. 50m以上歩けますか。	できる	88.7%	97.8%	93.3%	69.4%	31.0%
	一部介助があればできる	3.2%	0.0%	2.5%	14.2%	19.0%
	できない	5.8%	0.1%	3.0%	12.7%	44.8%
	(日常生活 関連項目) 無記入	5.8%	2.1%	1.2%	3.7%	5.2%
問6 Q13. 階段を昇り降りできますか。	できる	87.5%	97.6%	91.8%	60.4%	28.6%
	介助があればできる	4.8%	0.1%	4.2%	27.6%	23.8%
	できない	5.3%	0.1%	3.2%	6.7%	42.3%
	(日常生活 関連項目) 無記入	5.3%	2.2%	0.9%	5.2%	5.2%
問6 Q15. 大便の失敗がありますか。	ない	89.0%	97.5%	89.3%	74.6%	42.3%
	ときどきある	7.1%	1.2%	9.3%	23.1%	30.6%
	よくある	2.0%	0.0%	0.5%	0.7%	18.5%
	(日常生活 関連項目) 無記入	2.0%	1.3%	0.9%	1.5%	8.5%
問6 Q16. 尿もれや失禁がありますか。	ない	72.3%	84.3%	64.3%	42.5%	31.5%
	ときどきある	23.3%	15.2%	33.3%	47.8%	37.9%
	よくある	3.9%	0.1%	2.5%	9.0%	27.8%
	(日常生活 関連項目) 無記入	3.9%	0.4%	0.0%	0.7%	2.8%
問6 Q4. 請求書の支払いをしていますか。	している	76.0%	85.0%	77.8%	66.4%	20.2%
	できるけどしていない	13.6%	11.9%	15.8%	22.4%	14.9%
	できない	7.4%	0.5%	5.1%	6.7%	56.9%
	(日常生活 関連項目) 無記入	7.4%	2.6%	1.4%	4.5%	8.1%

③ 食事等

『食事』（「問 6 Q6. 食事は自分で食べられますか。（できる）」）については、“元気高齢者”“二次予防対象者”“要支援高齢者”ともに、9 割を超えており、“要介護高齢者”は、65.3%となっている。

『食事の用意』（「問 6 Q3. 自分で食事の用意をしていますか。（している）」）については、“元気高齢者”“二次予防対象者”はともに 6 割を超えており、“要支援高齢者”は 59.0%、“要介護高齢者”は 15.3%となっている。

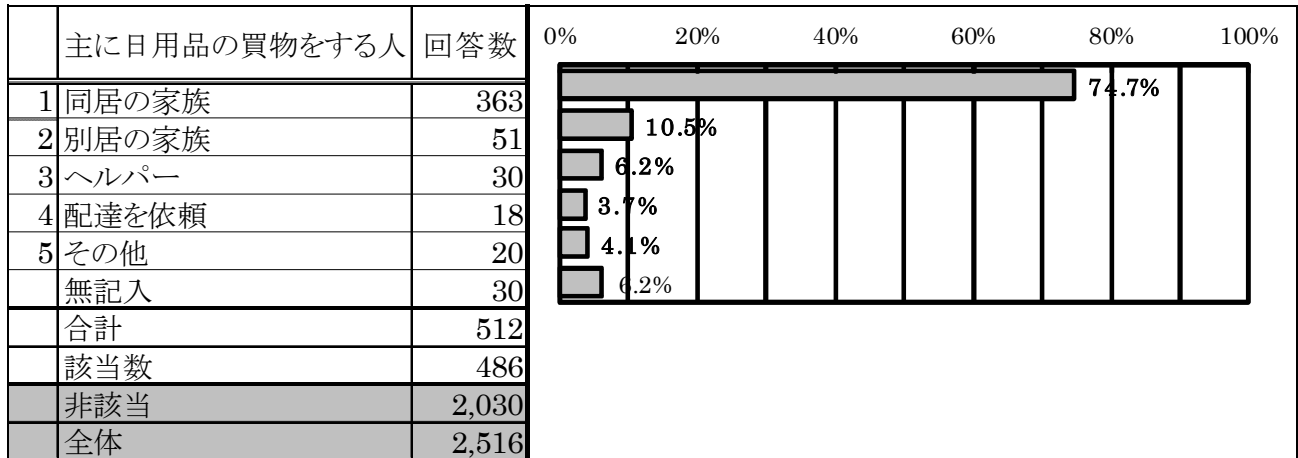
『家事全般』（「問 6 Q17. 家事全般ができていますか。（できている）」）については、“元気高齢者”は 90.8%、“二次予防対象者”は 73.7%、“要支援高齢者”は 45.5%、“要介護高齢者”は 11.7%となっている。

なお、『日用品の買い物を主に行う人』は、全体では「同居の家族」が 74.7%であり、『主に食事の用意をする人』は全体では「同居の家族」が 79.1%となっている。食事の用意や家事全般に参加できる人は生活機能が高い、もしくは生活機能が維持できているものと思われる。

《身体状況別 食事等に関する項目 個別結果》

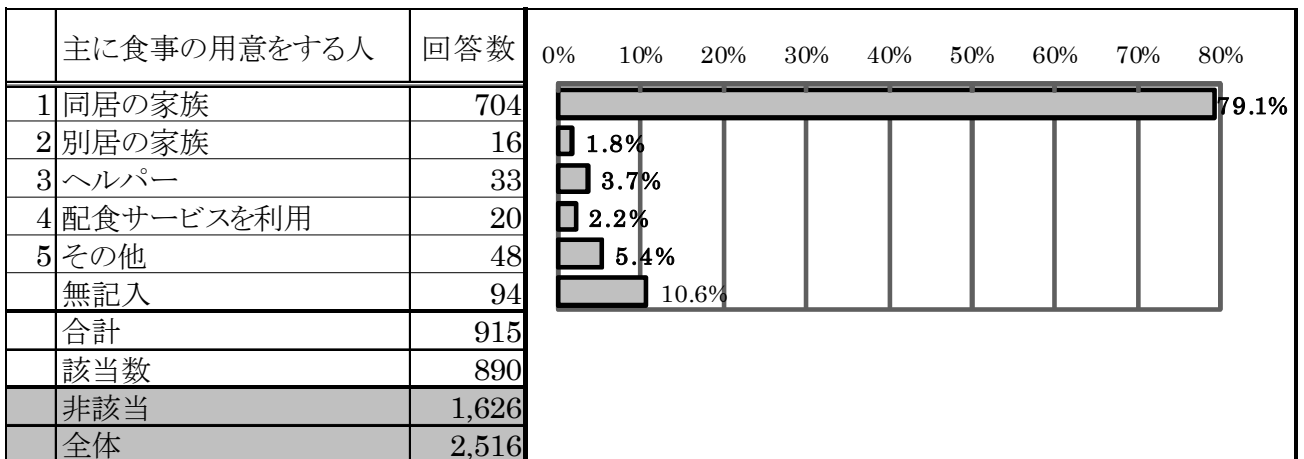
設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 6 Q6. 食事は自分で食べられますか。	できる	94.6%	97.9%	98.4%	94.8%	65.3%
	一部介助があればできる	2.7%	0.0%	1.1%	3.0%	23.4%
	できない	0.6%	0.0%	0.2%	0.0%	6.0%
(日常生活 関連項目)	無記入	0.6%	2.1%	0.4%	2.2%	5.2%
問 6 Q3. 自分で食事の用意をしていますか。	している	60.9%	67.8%	62.2%	59.0%	15.3%
	できるけどしていない	22.1%	23.0%	25.6%	19.4%	9.3%
	できない	13.3%	5.5%	10.2%	15.7%	68.5%
(日常生活 関連項目)	無記入	13.3%	3.6%	2.1%	6.0%	6.9%
問 6 Q17. 家事全般ができていますか。	できている	76.7%	90.8%	73.7%	45.5%	11.7%
	できていない	20.4%	6.7%	24.2%	52.2%	81.5%
(日常生活 関連項目)	無記入	2.9%	2.6%	2.1%	2.2%	6.9%

《日用品の買い物を主に行う人》



※複数回答については「その他」として集計

《主に食事の用意をする人》



※複数回答については「その他」として集計

11) 社会参加に関する状況

① 日常的な状況

社会参加のうち、日常生活に関する7問については、“元気高齢者”は、「問7 Q7. 病人を見舞うことができますか。(はい)」が96.3%、「問7 Q2. 新聞を読んでいますか。(はい)」が92.3%、「問7 Q9. 趣味はありますか。(はい)」が90.9%、「問7 Q10. 生きがいがありますか。(はい)」が90.7%と9割を超えており、その他の3問についても8割を超えている。

“二次予防対象者”は、「問7 Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。(はい)」が91.2%と9割を超えており、その他の6問についても7割を超えている。

“要支援高齢者”は、「問7 Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。(はい)」が91.1%となっており、「問7 Q2. 新聞を読んでいますか。(はい)」が77.6%、「問7 Q9. 趣味はありますか。(はい)」が70.9%と7割を超えている。

“要介護高齢者”は、「問7 Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。(はい)」が84.3%となっている一方、「問7 Q7. 病人を見舞うことができますか。(はい)」が19.0%、「問7 Q3. 本を読んでいますか。(はい)」が37.9%となっている。

これらのことから、“要介護高齢者”になるほど、いずれの項目も「いいえ」と回答する割合が高くなっている。また、“元気高齢者”に比べ“二次予防対象者”は社会参加の割合が低くなっていく特徴があり、“要支援高齢者”“要介護高齢者”への移行を遅らせるためには、社会に関心を持ち、活動性を向上させる取り組みが重要であると思われる。

《身体状況別 日常的な社会参加の状況 個別結果(その1)》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問7 Q2. 新聞を読んでいますか。	はい	84.5%	92.3%	82.0%	77.6%	44.8%
	いいえ	14.2%	6.6%	17.5%	20.9%	50.8%
(社会参加 関連項目)	無記入	1.3%	1.1%	0.5%	1.5%	4.4%
問7 Q3. 本や雑誌を読んでいますか。	はい	79.8%	89.6%	75.3%	61.9%	37.9%
	いいえ	18.7%	9.2%	23.8%	35.8%	57.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	1.5%	1.2%	0.9%	2.2%	4.4%
問7 Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。	はい	86.5%	87.0%	91.2%	91.1%	84.3%
	いいえ	10.3%	11.3%	7.4%	8.4%	14.2%
(社会参加 関連項目)	無記入	3.2%	1.7%	1.3%	0.5%	1.5%
問7 Q7. 病人を見舞うことができますか。	はい	83.7%	96.3%	83.0%	60.4%	19.0%
	いいえ	14.2%	2.2%	15.4%	36.6%	75.0%
(社会参加 関連項目)	無記入	2.0%	1.5%	1.6%	3.0%	6.0%
問7 Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか。	はい	78.4%	86.2%	73.4%	63.4%	49.2%
	いいえ	19.4%	12.2%	25.0%	32.8%	44.8%
(社会参加 関連項目)	無記入	2.2%	1.7%	1.6%	3.7%	6.0%
問7 Q9. 趣味はありますか。	はい	81.9%	90.9%	76.4%	70.9%	44.0%
	いいえ	16.2%	7.7%	22.6%	25.4%	50.4%
(社会参加 関連項目)	無記入	1.9%	1.4%	1.1%	3.7%	5.6%
問7 Q10. 生きがいがありますか。	はい	81.4%	90.7%	77.6%	61.9%	42.7%
	いいえ	13.8%	5.9%	17.9%	32.8%	43.5%
(社会参加 関連項目)	無記入	4.8%	3.5%	4.6%	5.2%	13.7%

② 会やグループへの参加

社会参加のうち、会やグループへの参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、“元気高齢者”は、『(3) 趣味関係のグループ』が49.8%となっており、『(5) 町内会・自治会』が42.0%、『(2) スポーツ関係のグループやクラブ』が39.3%となっている。

“二次予防対象者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(3) 趣味関係のグループ』が34.5%、『(5) 町内会・自治会』が30.4%、『(2) スポーツ関係のグループやクラブ』が24.5%となっている。

“要支援高齢者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(3) 趣味関係のグループ』が27.8%、『(5) 町内会・自治会』が22.4%、『(4) 老人クラブ』が17.2%となっている。

“要介護高齢者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(4) 老人クラブ』が7.6%、『(3) 趣味関係のグループ』と『(5) 町内会・自治会』がともに6.8%となっている。

＜身体状況別 会やグループへの参加頻度 個別結果（その１）＞

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 7 Q11. (1) ボランティアグループ	参加※	19.9%	23.6%	19.6%	7.4%	3.6%
	不参加※	71.2%	67.4%	72.2%	79.9%	88.3%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.9%	9.0%	8.2%	12.7%	8.1%
問 7 Q11. (2) スポーツ関係のグループやクラブ	参加	31.0%	39.3%	24.5%	14.2%	2.0%
	不参加	61.5%	53.3%	69.4%	71.6%	89.9%
(社会参加 関連項目)	無記入	7.5%	7.4%	6.1%	14.2%	8.1%
問 7 Q11. (3) 趣味関係のグループ	参加	41.2%	49.8%	34.5%	27.8%	6.8%
	不参加	52.6%	44.3%	59.7%	59.7%	84.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	6.2%	5.9%	5.8%	7.5%	8.5%
問 7 Q11. (4) 老人クラブ	参加	12.5%	12.3%	14.3%	17.2%	7.6%
	不参加	80.3%	80.7%	79.0%	72.4%	84.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	7.2%	7.0%	6.7%	10.4%	7.7%
問 7 Q11. (5) 町内会・自治会	参加	34.9%	42.0%	30.4%	22.4%	6.8%
	不参加	58.3%	51.6%	62.9%	67.9%	85.5%
(社会参加 関連項目)	無記入	6.8%	6.4%	6.7%	9.7%	7.7%
問 7 Q11. (6) 学習・教養サークル	参加	20.0%	24.2%	17.5%	11.2%	4.0%
	不参加	73.0%	69.0%	76.5%	77.6%	87.5%
(社会参加 関連項目)	無記入	7.0%	6.8%	6.0%	11.2%	8.5%
問 7 Q11. (7) その他の団体や会	参加	27.2%	31.8%	24.7%	23.8%	6.0%
	不参加	65.7%	61.4%	68.8%	67.2%	84.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	7.1%	6.8%	6.5%	9.0%	9.3%

※参加：「週４回以上」「週１～３日」「週１回」「月に１～３回」「年に数回」の計、不参加：「参加していない」

③ 社会参加活動や仕事の実践

社会参加のうち、社会参加活動や仕事の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）について、“元気高齢者”は、『(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動』が30.1%となっており、『(5) 収入のある仕事』が26.3%となっている。

“二次予防対象者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(3) 地域の生活環境の改善（美化）活動』が21.6%、『(5) 収入のある仕事』が16.6%となっている。

“要支援高齢者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(4) 地域の生活環境の改善（美化）活動』が7.4%となっている。

“要介護高齢者”の参加（「週４回以上」から「年に数回」の参加）は、『(2) 介護が必要な高齢者を支援する活動』が2.8%となっている。

《身体状況別 社会参加活動や仕事の実践 個別結果》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問 7 Q12. (1) 見守りが必要な高齢者を支援する活動	参加※	5.0%	5.7%	4.7%	3.7%	1.6%
	不参加※	87.0%	86.6%	88.3%	82.1%	89.1%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.0%	7.7%	7.0%	14.2%	9.3%
問 7 Q12. (2) 介護が必要な高齢者を支援する活動	参加	3.7%	4.2%	3.4%	1.4%	2.8%
	不参加	88.0%	87.9%	89.1%	83.6%	88.3%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.3%	7.9%	7.5%	14.9%	8.9%
問 7 Q12. (3) 子どもを育てている親を支援する活動	参加	4.0%	3.7%	4.4%	1.5%	0.0%
	不参加	87.7%	87.3%	88.4%	83.6%	90.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.3%	8.0%	7.2%	14.9%	9.3%
問 7 Q12. (4) 地域の生活環境の改善（美化）活動	参加	24.1%	30.1%	21.6%	7.4%	1.6%
	不参加	67.7%	62.0%	71.6%	78.4%	88.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.1%	7.9%	6.8%	14.2%	9.7%
問 7 Q12. (5) 収入のある仕事	参加	20.5%	26.3%	16.6%	3.8%	1.6%
	不参加	71.2%	65.9%	75.7%	82.8%	88.3%
(社会参加 関連項目)	無記入	8.3%	7.8%	7.7%	13.4%	10.1%

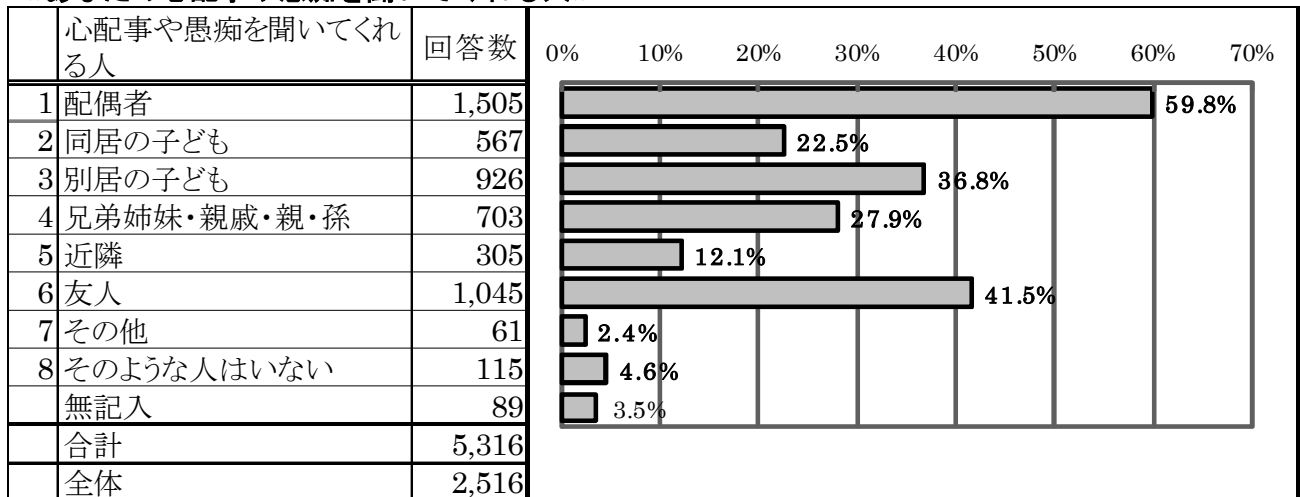
※参加：「週４回以上」「週１～３日」「週１回」「月に１～３回」「年に数回」の計、不参加：「参加していない」

④ 「たすけあい」の状況

回答者とまわりの人との「たすけあい」の状況として、『あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人』は、「配偶者」が59.8%、「友人」が41.5%、「別居の子ども」が36.8%となっている。

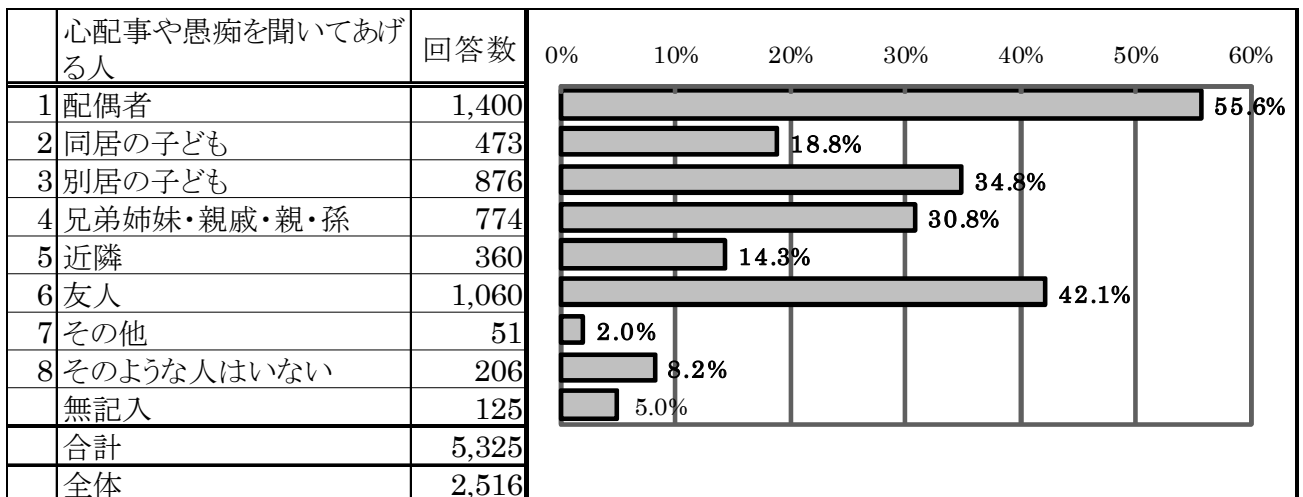
また、『反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人』は、「配偶者」が55.6%、「友人」が42.1%、「別居の子ども」が34.8%となっている。

《あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人》



※その他の主な内容：施設職員、職場の人、ケアマネジャー・ヘルパー など

《反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人》



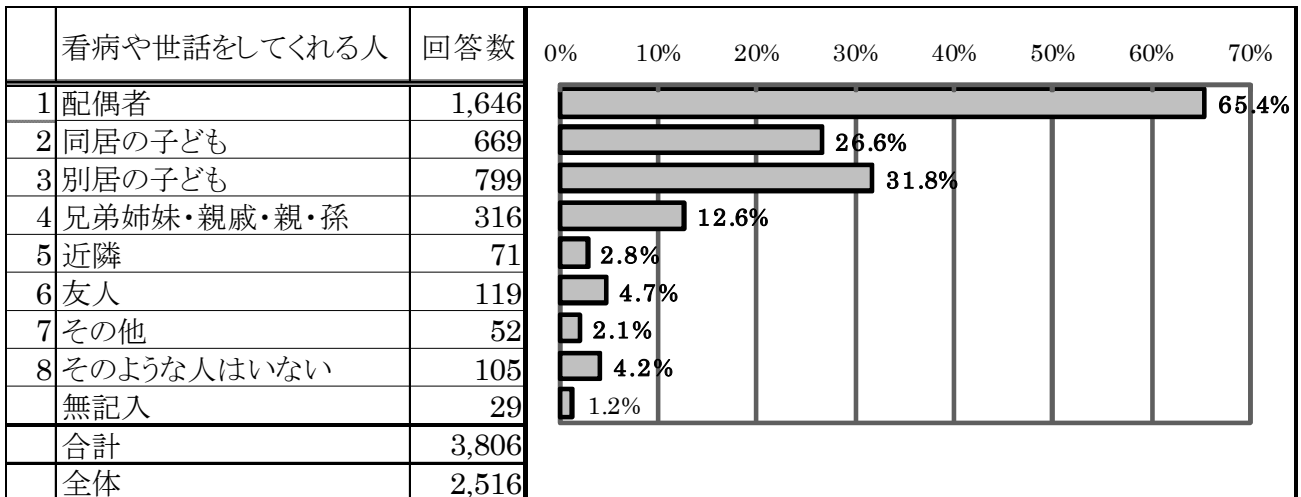
※その他の主な内容：職場の人、施設の仲間、ボランティア など

Ⅱ 市民意識調査の結果

「たすけあい」の状況としての『あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人』は、「配偶者」が65.4%、「別居の子ども」が31.8%、「同居の子ども」が26.6%となっている。

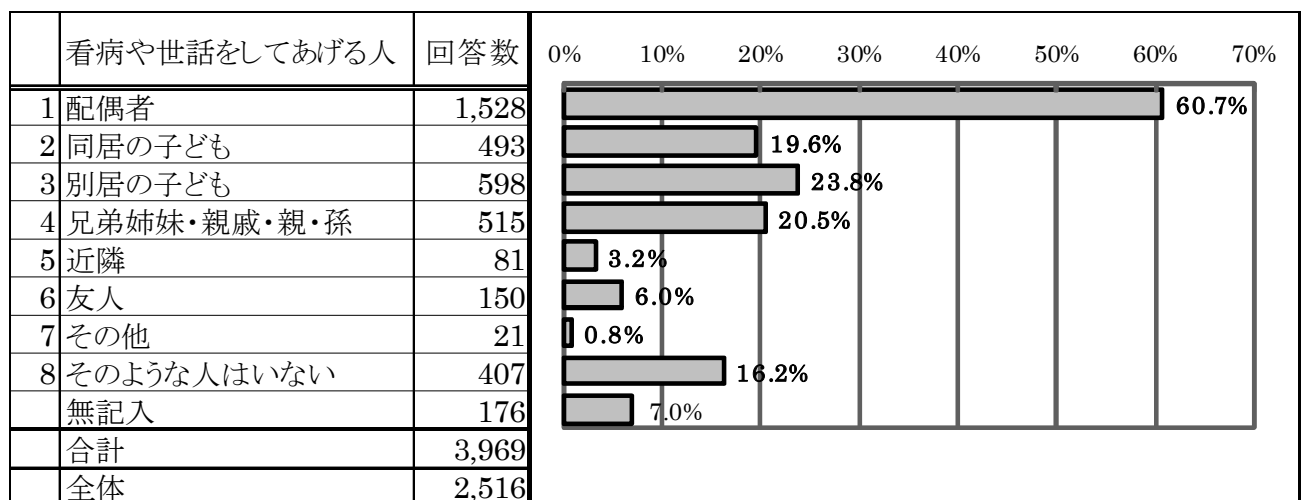
また、『反対に、看病や世話をしてあげる人』は、「配偶者」が60.7%、「別居の子ども」が23.8%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が20.5%となっている。

《あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人》



※その他の主な内容：ヘルパー、施設職員 など

《反対に、看病や世話をしてあげる人》

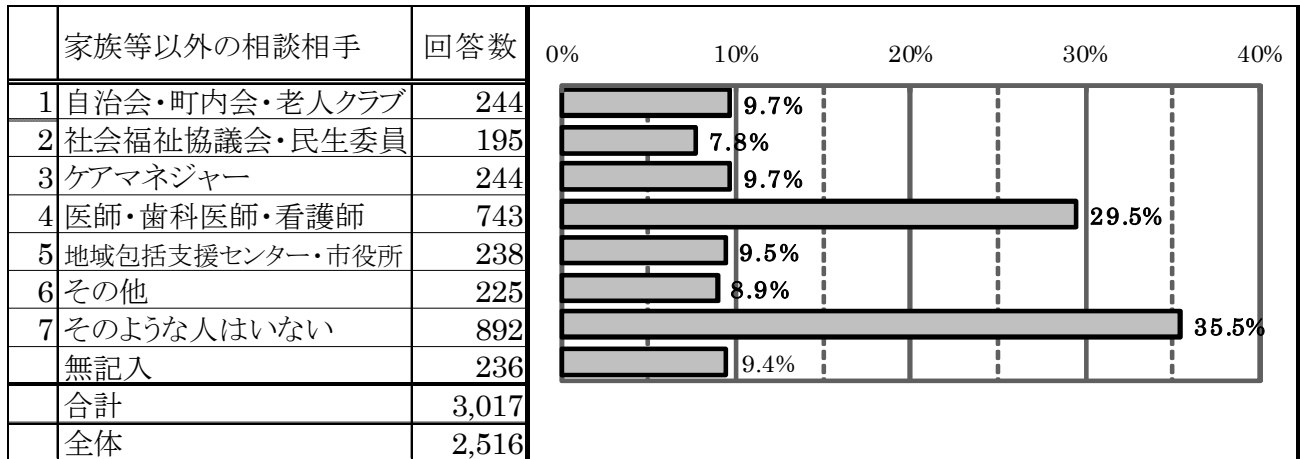


※その他の主な内容：同居の家族、ボランティア など

⑤ 家族や友人・知人以外の相談相手

家族や友人・知人以外で何かあったときの相談相手は、「そのような人はいない」が 35.5%、「医師・歯科医師・看護師」が 29.5%、「自治会・町内会・老人クラブ」と「ケアマネジャー」が 9.7%となっている。

《家族や友人・知人以外の相談相手》



⑥ 友人関係

『友人・知人と会う頻度』は、“元気高齢者”と“二次予防対象者”は、「週1回以上」がそれぞれ45.2%、34.3%、“要支援高齢者”と“要介護高齢者”は、「会っていない」がそれぞれ27.6%、46.8%となっている。

『この1ヶ月間に会った友人・知人の数』は、“元気高齢者”は、「10人以上」が34.2%であり、“二次予防対象者”は、「1～2人」が25.2%、“要支援高齢者”は、「3～5人」が25.4%、“要介護高齢者”は、「0人（いない）」が42.3%となっている。

『よく会う友人・知人との関係』は、“元気高齢者”は、「趣味等の友人」が50.0%であり、“二次予防対象者”は、「近所の人」が45.9%、“要支援高齢者”は「近所の人」が46.3%、“要介護高齢者”は、「いない」が32.7%となっている。

《身体状況別 友人関係 個別結果（その1）》

設問	(該当数)	全体 (2,516)	元気 (1,563)	二次予防 (571)	要支援 (134)	要介護 (248)
問7 Q15. (1) 友人・知人と会う頻度	週1回以上※	38.6%	45.2%	34.3%	20.9%	16.1%
	月1～3回	22.1%	24.4%	20.5%	26.9%	8.5%
	年に数回	21.1%	20.4%	25.4%	17.9%	16.9%
	会っていない	14.0%	6.7%	16.8%	27.6%	46.8%
(社会参加 関連項目)	無記入	4.2%	3.3%	3.0%	6.7%	11.7%
問7 Q15. (2) この1ヶ月間に会った友人・知人の数	0人(いない)	14.8%	9.0%	17.3%	21.6%	42.3%
	1～2人	19.5%	16.5%	25.2%	24.6%	22.6%
	3～5人	22.1%	23.4%	20.8%	25.4%	15.3%
	6～9人	11.8%	14.0%	8.8%	12.7%	4.4%
	10人以上	27.8%	34.2%	24.7%	9.0%	4.8%
(社会参加 関連項目)	無記入	4.0%	3.0%	3.2%	6.7%	10.5%
問7 Q15. (3) よく会う友人・知人との関係【複数回答】	近所の人	43.4%	45.6%	45.9%	46.3%	21.8%
	幼なじみ	5.9%	6.0%	7.2%	3.7%	3.6%
	学生時代の友人	18.4%	22.6%	15.9%	8.2%	3.6%
	仕事の同僚	29.3%	37.7%	21.9%	6.7%	5.2%
	趣味等の友人	41.5%	50.0%	36.6%	29.1%	5.6%
	ボランティアの友人	6.8%	7.7%	6.7%	6.7%	1.6%
	その他	12.2%	10.7%	10.9%	11.9%	25.0%
	いない	9.1%	4.5%	10.0%	16.4%	32.7%
(社会参加 関連項目)	無記入	3.4%	2.0%	2.8%	7.5%	11.3%

※週1回以上：「週4回以上」「週1～3日」「週1回」の計

12) 在宅生活などに関する状況

利用している在宅サービスについては、“要支援高齢者”は、「通所介護（デイサービス）」が 20.1%、「訪問介護」と「通所リハビリテーション（デイケア）」が 11.2%となっており、複数のサービスを同時に利用している割合は少なくなっている。一方、“要介護高齢者”は、「通所介護（デイサービス）」が 39.1%、「訪問介護」が 16.9%、「通所リハビリテーション（デイケア）」が 15.3%、「短期入所」が 14.1%、「訪問看護」が 9.7%、「訪問リハビリテーション」が 8.9%、「訪問診療」が 8.5%となっている。

“要介護高齢者”は、複数サービスの利用が多いことや医療系のサービス利用者の割合が高くなっている。また、家族負担の軽減として利用される「短期入所（ショートステイ）」の利用も 14.1%と高くなっている。

“要介護高齢者”においては、心身の状況に応じ、複数のサービスをマネジメントしていくことが必要だということがうかがえる。

《要支援・要介護別 利用している在宅サービス》

	在宅サービス	要支援高齢者		要介護高齢者	
1	訪問診療（医師の訪問）	5	3.7%	21	8.5%
2	訪問介護	15	11.2%	42	16.9%
3	夜間対応型訪問介護	2	1.5%	2	0.8%
4	訪問入浴介護	1	0.7%	13	5.2%
5	訪問看護	1	0.7%	24	9.7%
6	訪問リハビリテーション	3	2.2%	22	8.9%
7	通所介護（デイサービス）	27	20.1%	97	39.1%
8	認知症対応型通所介護	0	0.0%	2	0.8%
9	通所リハビリテーション（デイケア）	15	11.2%	38	15.3%
10	小規模多機能型居宅介護	1	0.7%	5	2.0%
11	短期入所（ショートステイ）	1	0.7%	35	14.1%
12	居宅療養管理指導	2	1.5%	4	1.6%
13	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1	0.7%	5	2.0%
14	複合型サービス	2	1.5%	0	0.0%
15	その他	6	4.5%	9	3.6%
	無記入	69	51.5%	81	32.7%
	合計	151	112.7%	400	161.3%
	全体	134	100.0%	248	100.0%

※その他の主な内容：医療ケア、マッサージ など

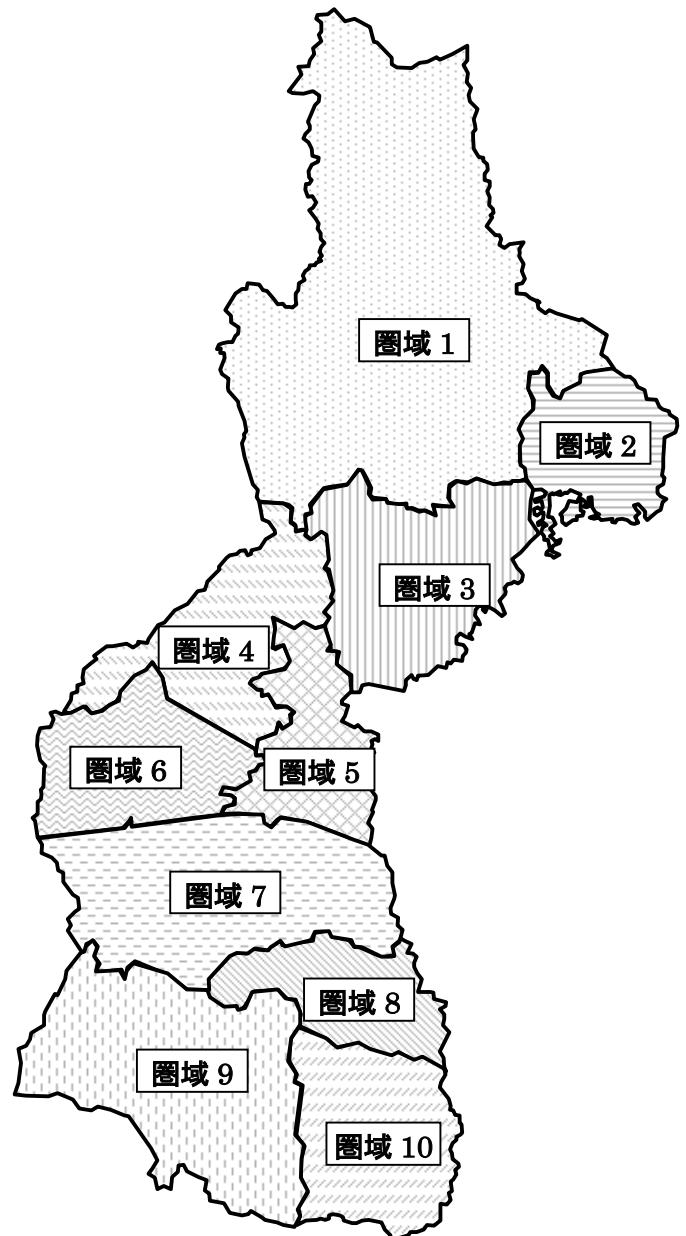
5. 日常生活圏域の状況

1) 日常生活圏域の設定

高齢者が福祉サービスの提供など社会福祉資源を活用して、住み慣れた地域での生活をできるだけ長く続けられることをめざして、地理的条件、人口、交通事情その他の社会的条件、介護給付等対象サービスを提供するための施設の整備の状況などを総合的に勘案して、本市では10の「日常生活圏域」を設定している。

《本市の日常生活圏域》

	地域名
圏域 1	高山町、ひかりが丘 1～3 丁目、北田原町、西白庭台 1～3 丁目
圏域 2	鹿畑町、鹿ノ台東 1～3 丁目、鹿ノ台西 1～3 丁目、鹿ノ台南 1～2 丁目、鹿ノ台北 1～3 丁目、美鹿の台
圏域 3	上町、白庭台 1～6 丁目、真弓 1～4 丁目、真弓南 1～2 丁目、あすか野南 1～3 丁目、あすか野北 1～3 丁目、あすか台、北大和 1～5 丁目、上町台
圏域 4	南田原町、喜里が丘 1～3 丁目、生駒台南、生駒台北、新生駒台、松美台、俵口町の一部(阪奈道路以北)
圏域 5	辻町、小明町、谷田町、桜ヶ丘
圏域 6	北新町、俵口町の一部(阪奈道路以南)、東松ヶ丘、西松ヶ丘、光陽台
圏域 7	山崎町、東旭ヶ丘、西旭ヶ丘、新旭ヶ丘、東新町、山崎新町、本町、元町 1～2 丁目、仲之町、門前町、軽井沢町、東生駒 1～4 丁目、東生駒月見町、東菜畑 1～2 丁目、中菜畑 1～2 丁目、西菜畑町、菜畑町、緑ヶ丘
圏域 8	壱分町、さつき台 1～2 丁目
圏域 9	萩原町、藤尾町、西畑町、鬼取町、小倉寺町、大門町、有里町、小平尾町、青山台
圏域 10	小瀬町、南山手台、東山町、萩の台、萩の台 1～5 丁目、乙田町

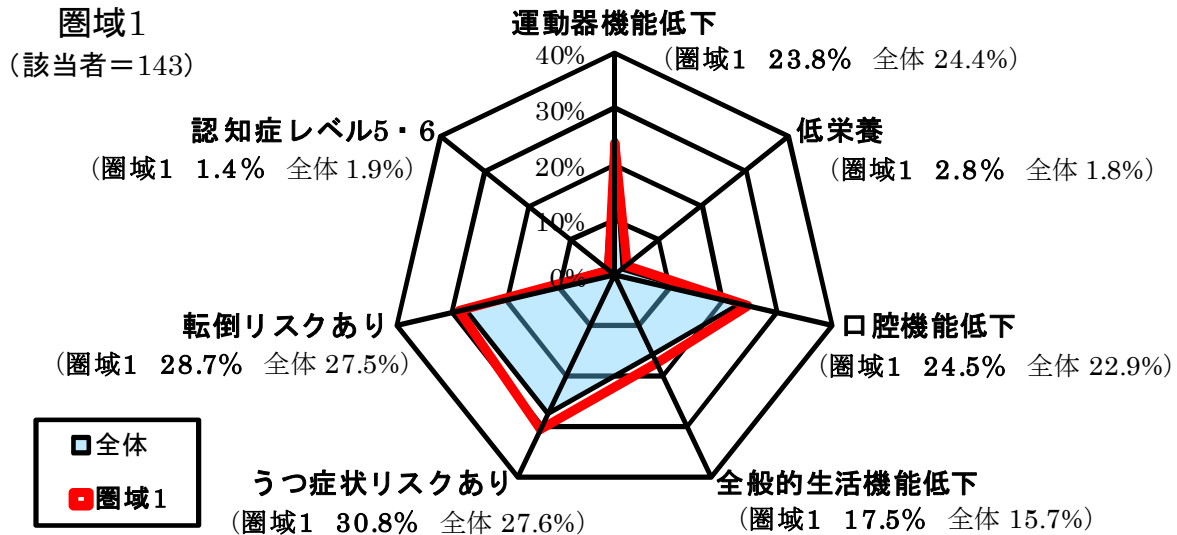


2) 日常生活圏域における生活機能等の状況

① 日常生活圏域 1 における生活機能等の状況

日常生活圏域 1 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて「認知症レベル 5（重度）・6（最重度）」以外は、総じて高くなっている。

《日常生活圏域 1 生活機能の状況》



※ ■ は全体を表しており、この外側に ■ がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

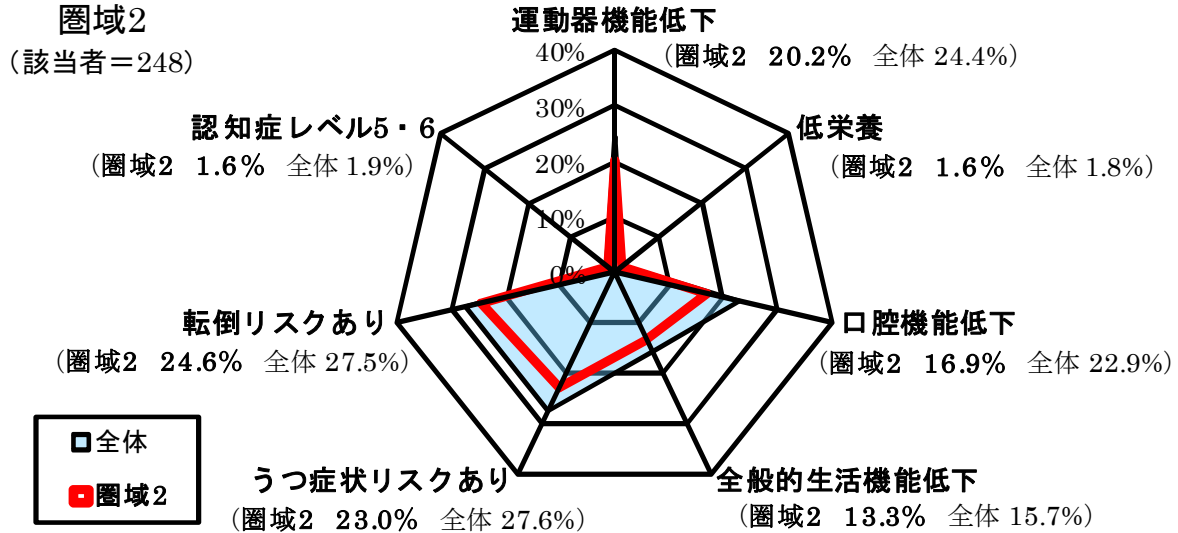
《日常生活圏域 1 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 1	143	88	33	22	10	53	86	36	7	14
		61.5%	23.1%	15.4%	7.0%	37.1%	60.1%	25.2%	4.9%	9.8%

② 日常生活圏域 2 における生活機能等の状況

日常生活圏域 2 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて総じて低くなっている。

《日常生活圏域 2 生活機能の状況》



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

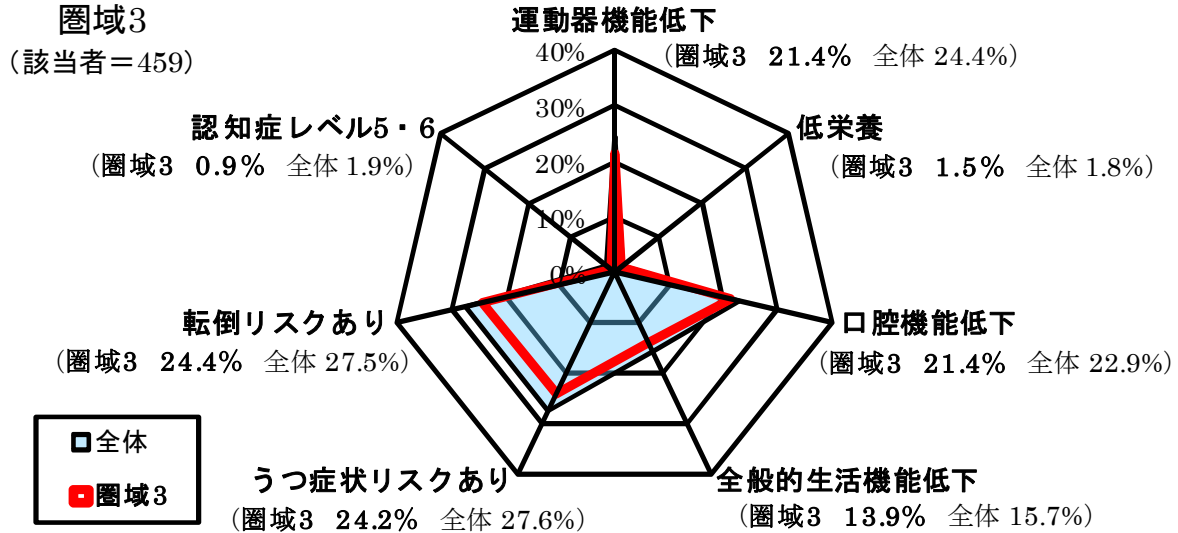
《日常生活圏域 2 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 2	248	152	74	22	19	111	173	47	5	23
		61.3%	29.8%	8.9%	7.7%	44.8%	69.8%	19.0%	2.0%	9.3%

③ 日常生活圏域 3 における生活機能等の状況

日常生活圏域 3 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて総じて低くなっている。

《日常生活圏域 3 生活機能の状況》



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

《日常生活圏域 3 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 3	459	310	114	35	32	215	299	98	23	39
		67.5%	24.8%	7.6%	7.0%	46.8%	65.1%	21.4%	5.0%	8.5%

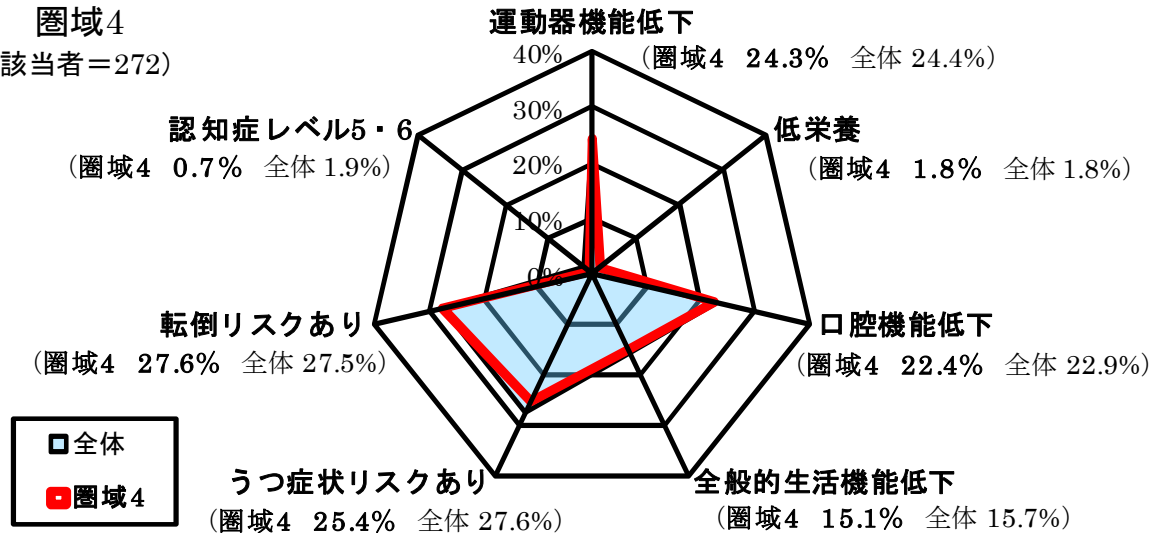
④ 日常生活圏域 4 における生活機能等の状況

日常生活圏域 4 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、「運動器機能低下」などは全体とほぼ同じであり、特に「うつ症状リスク」「認知症レベル 5（重度）・6（最重度）」は低くなっている。

《日常生活圏域 4 生活機能の状況》

圏域4

(該当者=272)



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

《日常生活圏域 4 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 4	272	159	76	37	35	117	168	56	22	27
		58.5%	27.9%	13.6%	12.9%	43.0%	61.8%	20.6%	8.1%	9.9%

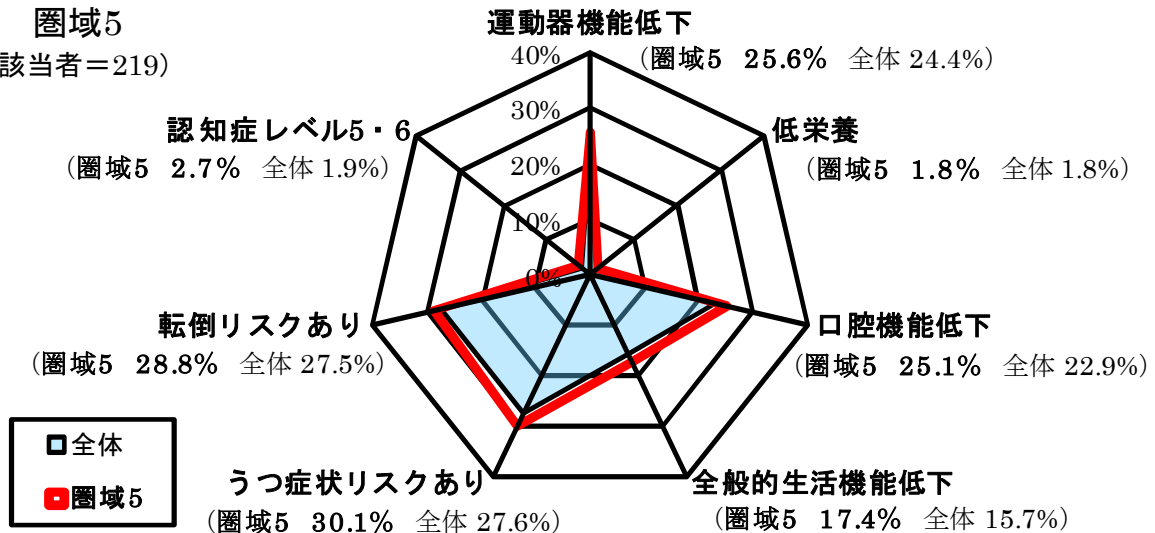
⑤ 日常生活圏域 5 における生活機能等の状況

日常生活圏域 5 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて高くなっている。

《日常生活圏域 5 生活機能の状況》

圏域 5

(該当者=219)



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

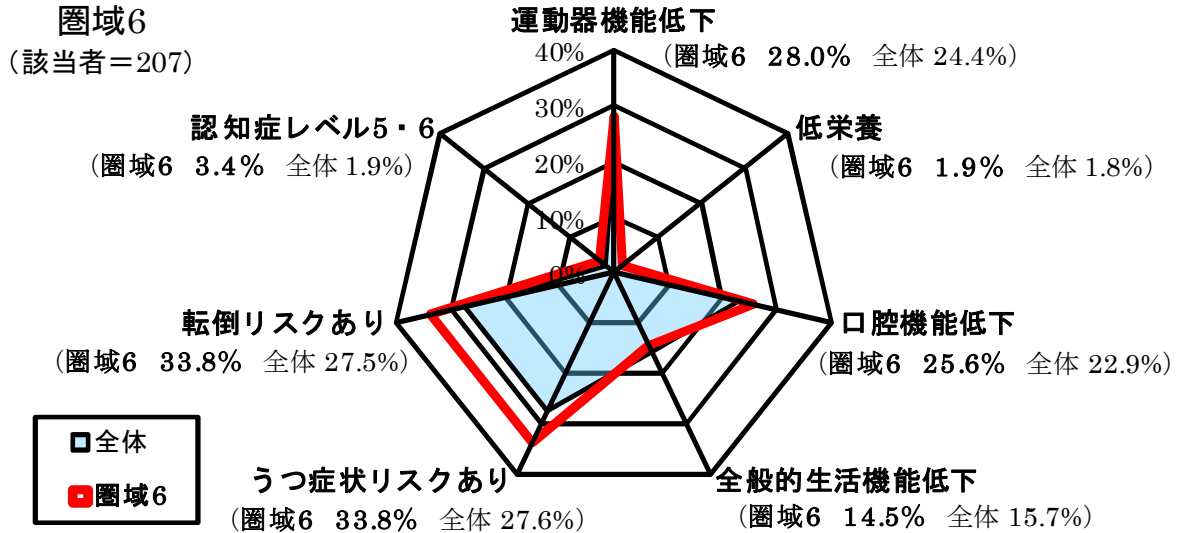
《日常生活圏域 5 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 5	219	126	68	25	39	93	129	54	11	25
		57.5%	31.1%	11.4%	17.8%	42.5%	58.9%	24.7%	5.0%	11.4%

⑥ 日常生活圏域 6 における生活機能等の状況

日常生活圏域 6 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて高くなっている。なかでも、うつ症状や転倒におけるリスクが高いことがうかがえる。

《日常生活圏域 6 生活機能の状況》



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

《日常生活圏域 6 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 6	207	122	65	20	33	93	122	53	12	19
		58.9%	31.4%	9.7%	15.9%	44.9%	58.9%	25.6%	5.8%	9.2%

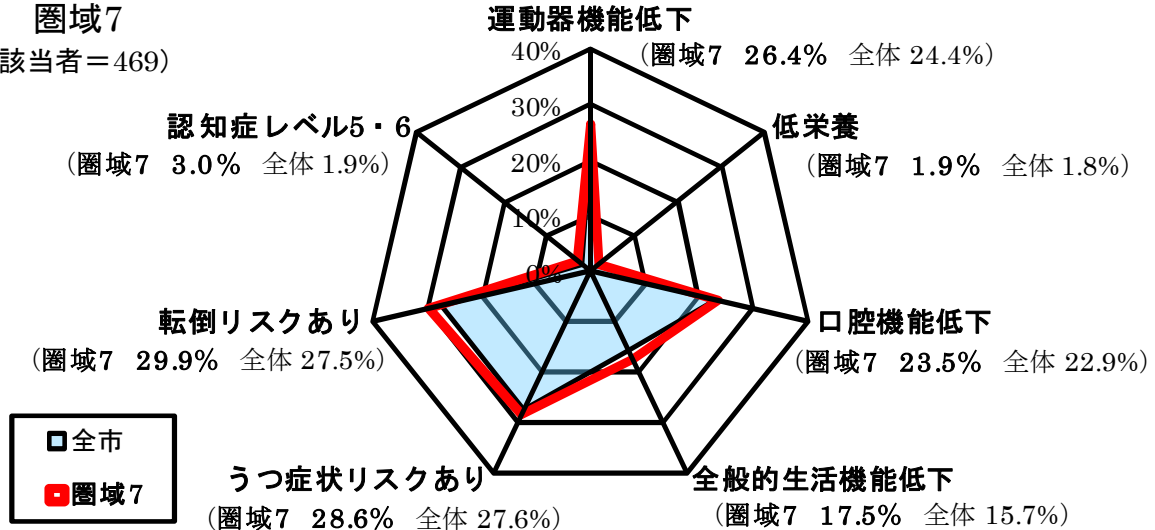
⑦ 日常生活圏域 7 における生活機能等の状況

日常生活圏域 7 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べてわずかながら高くなっている。

《日常生活圏域 7 生活機能の状況》

圏域 7

(該当者=469)



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

《日常生活圏域 7 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 7	469	261	144	64	94	185	280	106	29	54
		55.7%	30.7%	13.6%	20.0%	39.4%	59.7%	22.6%	6.2%	11.5%

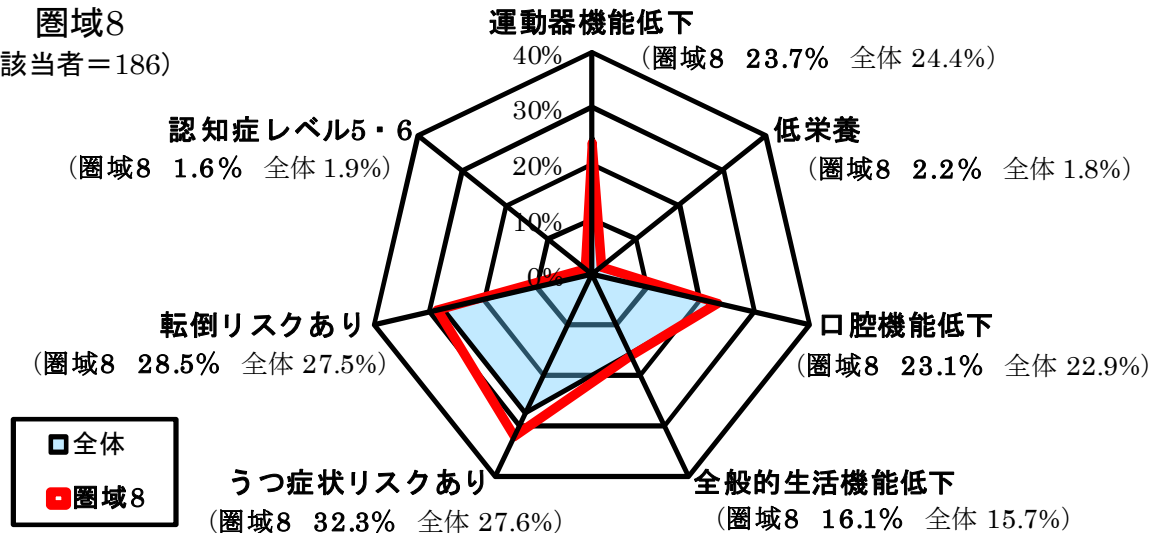
⑧ 日常生活圏域 8 における生活機能等の状況

日常生活圏域 8 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて「運動器機能低下」「認知症レベル 5（重度）・6（最重度）」以外は、総じて高くなっている。なかでも、「うつ症状リスク」が高い特徴がうかがえる。

《日常生活圏域 8 生活機能の状況》

圏域 8

（該当者＝186）



※ 全体を表しており、この外側に 圏域 8 のリスク等が高いことを示している。

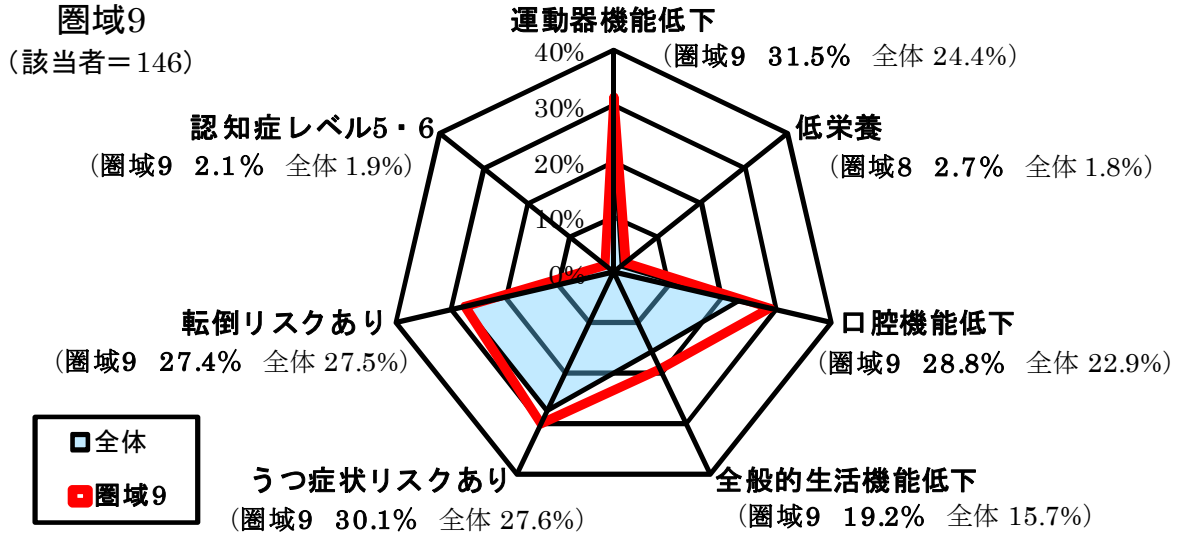
《日常生活圏域 8 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85 歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 8	186	116	58	12	23	66	114	44	9	19
		62.4%	31.2%	6.5%	12.4%	35.5%	61.3%	23.7%	4.8%	10.2%

⑨ 日常生活圏域 9 における生活機能等の状況

日常生活圏域 9 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて「口腔機能」や「全般的な生活機能」が低下している割合が高いことがうかがえる。

《日常生活圏域 9 生活機能の状況》



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

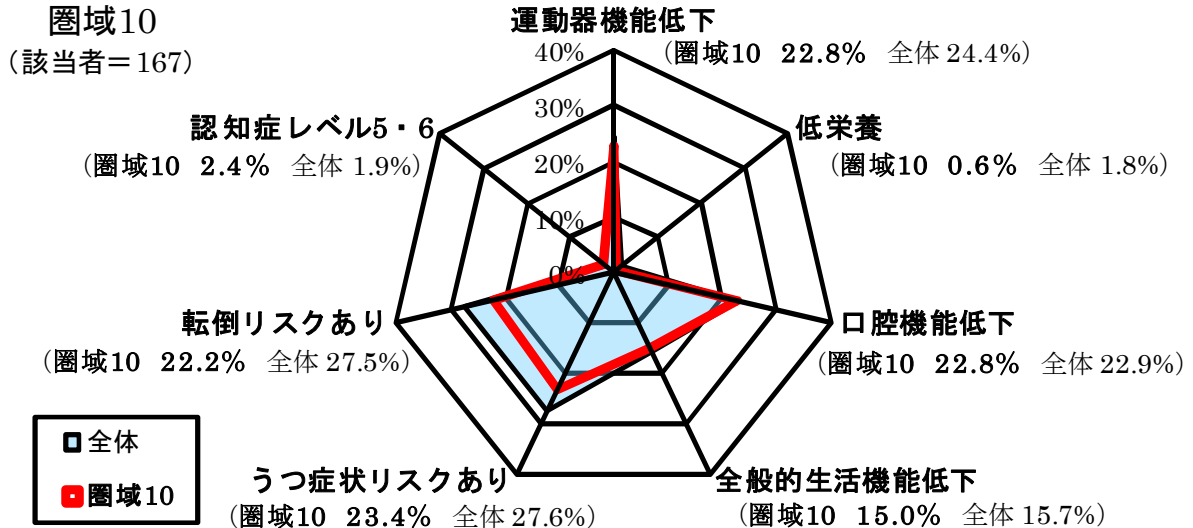
《日常生活圏域 9 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 9	146	85	45	16	15	61	83	41	8	14
		58.2%	30.8%	11.0%	10.3%	41.8%	56.8%	28.1%	5.5%	9.6%

⑩ 日常生活圏域 10 における生活機能等の状況

日常生活圏域 10 における、生活機能などの評価やリスクなどをみると、全体に比べて「認知症レベル 5（重度）・6（最重度）」以外は、総じて低くなっている。

《日常生活圏域 10 生活機能の状況》



※ は全体を表しており、この外側に がある場合は圏域のリスク等が高いことを示している。

《日常生活圏域 10 総括表》

	全体	65～74 歳	75～84 歳	85歳 以上	一人 暮らし	夫婦 のみ	元気 高齢者	二次予防 対象者	要支援 高齢者	要介護 高齢者
全 体	2,516	1,532	717	267	319	1,069	1,563	571	134	248
		60.9%	28.5%	10.6%	12.7%	42.5%	62.1%	22.7%	5.3%	9.9%
圏域 10	167	113	40	14	19	75	109	36	8	14
		67.7%	24.0%	8.4%	11.4%	44.9%	65.3%	21.6%	4.8%	8.4%

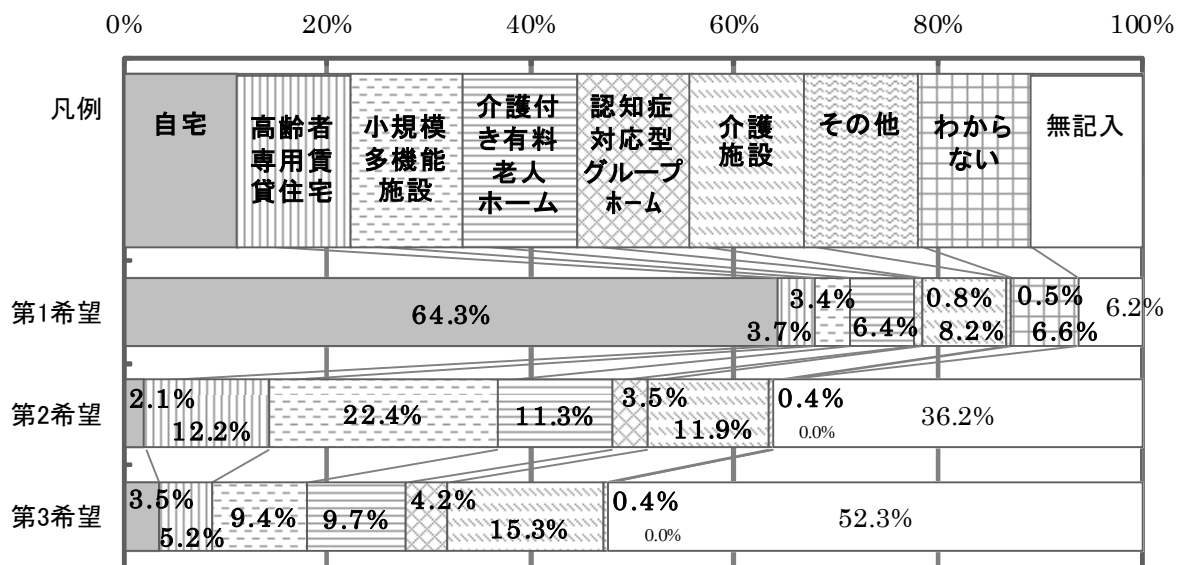
6. 今後の生活

1) 身の回りのことができなくなった時の生活の場

身の回りのことを自分でできなくなった時の生活の場は、第1希望は「自宅」が64.3%となっており、次いで「介護施設」が8.2%、「わからない」が6.6%、「介護付き有料老人ホーム」が6.4%となっている。

第2希望は「小規模多機能施設」が22.4%で最も多く、次いで「高齢者専用賃貸住宅」が12.2%、「介護施設」が11.9%となっている。また、第3希望は「介護施設」が15.3%、「介護付き有料老人ホーム」が9.7%、「小規模多機能施設」が9.4%となっている。なお、第2希望・第3希望については「無記入」の割合が多くなっている。

《身の回りのことができなくなった時の生活の場》



※その他の主な内容：子どもの家、病院、現在入居している施設 など

世帯構成別に生活の場の第1希望をみると、“一人暮らし”は「自宅」が51.7%であり、次いで「わからない」が10.7%となっている。“夫婦のみ”は「自宅」が67.1%となっており、“家族と同居”は「自宅」が68.2%となっている。

《世帯構成別 身の回りのことができなくなった時の生活の場（第1希望）》

	全 体	自 宅	高齢者 専用 賃貸 住宅	小規模 多機能 施設	介護付き 有料老人 ホーム	認知症 対応型 グループ ホーム	介護施設	その他	わから ない	無記入
全 体	2,516 100.0%	1,617 64.3%	94 3.7%	85 3.4%	160 6.4%	19 0.8%	207 8.2%	12 0.5%	165 6.6%	157 6.2%
一人 暮らし	319 100.0%	165 51.7%	17 5.3%	17 5.3%	22 6.9%	3 0.9%	31 9.7%	3 0.9%	34 10.7%	27 8.5%
夫婦のみ	1,069 100.0%	717 67.1%	42 3.9%	35 3.3%	84 7.9%	8 0.7%	84 7.9%	4 0.4%	53 5.0%	42 3.9%
家族と 同居	1,004 100.0%	685 68.2%	32 3.2%	32 3.2%	43 4.3%	7 0.7%	71 7.1%	3 0.3%	70 7.0%	61 6.1%

Ⅱ 市民意識調査の結果

身体状況別に、生活の場の第1希望をみると、「自宅」は“元気高齢者”が65.3%、“二次予防対象者”が66.5%、“要支援高齢者”が59.0%、“要介護高齢者”が55.2%となっている。次いで“元気高齢者”は「介護付き有料老人ホーム」が7.5%であり、“二次予防対象者”と“要支援高齢者”“要介護高齢者”は「介護施設」がそれぞれ7.7%、11.9%、18.1%となっている。

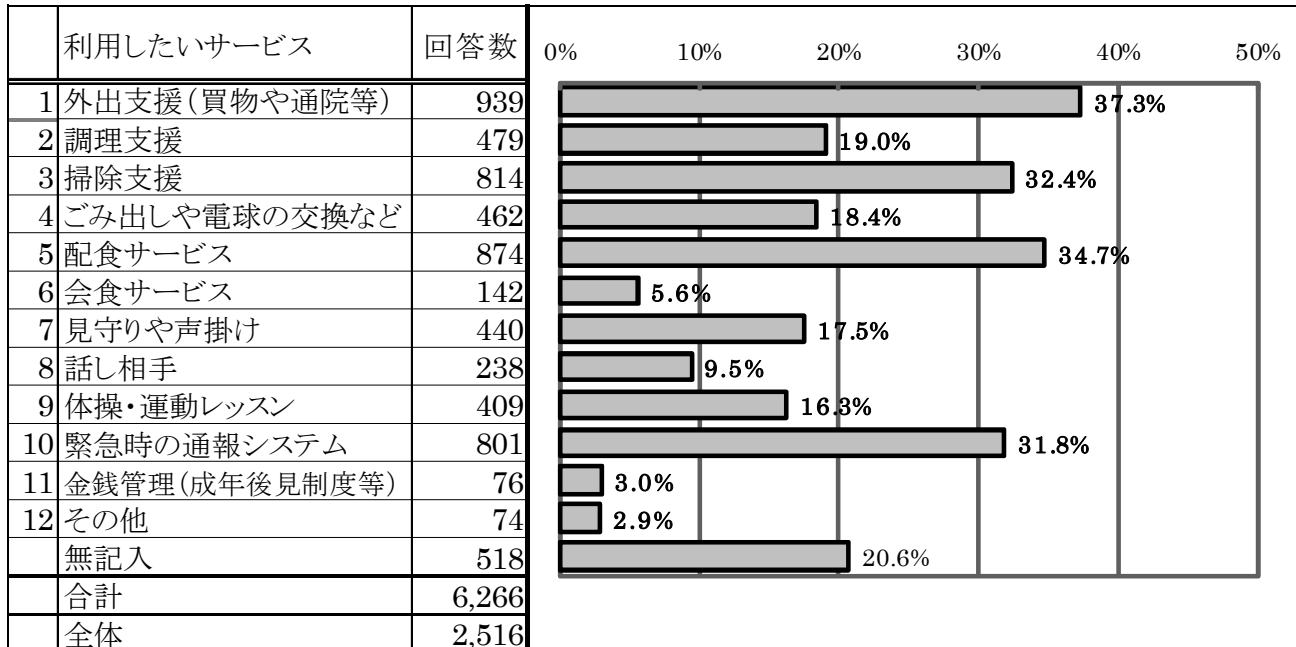
《身体状況別 身の回りのことができなくなった時の生活の場（第1希望）》

	全 体	自 宅	高齢者 専用 賃貸 住宅	小規模 多機能 施設	介護付き 有料老人 ホーム	認知症 対応型 グループ ホーム	介護施設	その他	わから ない	無記入
全 体	2,516 100.0%	1,617 64.3%	94 3.7%	85 3.4%	160 6.4%	19 0.8%	207 8.2%	12 0.5%	165 6.6%	157 6.2%
元気 高齢者	1,563 100.0%	1,021 65.3%	64 4.1%	56 3.6%	118 7.5%	13 0.8%	102 6.5%	5 0.3%	106 6.8%	78 5.0%
二次予防 対象者	571 100.0%	380 66.5%	20 3.5%	19 3.3%	23 4.0%	3 0.5%	44 7.7%	4 0.7%	37 6.5%	41 7.2%
要支援 高齢者	134 100.0%	79 59.0%	5 3.7%	5 3.7%	10 7.5%	1 0.7%	16 11.9%	2 1.5%	6 4.5%	10 7.5%
要介護 高齢者	248 100.0%	137 55.2%	5 2.0%	5 2.0%	9 3.6%	2 0.8%	45 18.1%	1 0.4%	16 6.5%	28 11.3%

2) 在宅生活を続けるうえで利用したいと思う有償サービスなど

在宅生活を続ける上で、現在もしくは今後利用したいと思う有償サービスや取り組みは、「外出支援（買物や通院等）」が 37.3%、「配食サービス」が 34.7%、「掃除支援」が 32.4%、「緊急時の通報システム」が 31.8%、「調理支援」が 19.0%となっている。

《在宅生活の継続のために利用したい有償サービスなど》



※その他の主な内容：今はわからない、まだ考えていない、入浴サービス など

世帯構成別に、現在もしくは今後利用したいと思う有償サービスや取り組みの上位 5 位をみると、「一人暮らし」は「掃除支援」が 39.8%であり、次いで「配食サービス」が 32.3%となっている。

“夫婦のみ”は「配食サービス」が 42.8%、「外出支援」が 41.6%となっている。

“家族と同居”は「外出支援」が 36.3%、「緊急時の通報システム」が 29.9%となっている。

《世帯構成別 在宅生活の継続のために利用したい有償サービスなど（上位 5 位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【回答数=2,516】	外出支援(買物や通院等) 37.3%	配食サービス 34.7%	掃除支援 32.4%	緊急時の通報システム 31.8%	調理支援 19.0%
一人暮らし 【該当数=319】	掃除支援 39.8%	配食サービス 32.3%	外出支援(買物や通院等) 30.4%	緊急時の通報システム 30.1%	ごみ出しや電球の交換など 23.5%
夫婦のみ 【該当数=1,069】	配食サービス 42.8%	外出支援(買物や通院等) 41.6%	掃除支援 37.3%	緊急時の通報システム 36.1%	調理支援 23.2%
家族と同居 (夫婦のみ除く) 【該当数=1,004】	外出支援(買物や通院等) 36.6%	緊急時の通報システム 29.9%	配食サービス 29.2%	掃除支援 26.2%	体操・運動レッスン 16.5%

Ⅱ 市民意識調査の結果

身体状況別にみると、“元気高齢者”の第1位は「配食サービス」が36.5%であり、次いで「外出支援」が36.3%、「緊急時の通報システム」が32.9%、「掃除支援」が30.6%、「調理支援」が19.1%となっている。

“二次予防対象者”と“要介護高齢者”は、第1位が「外出支援」でそれぞれ41.2%、31.5%であり、次いで「掃除支援」が36.3%と24.2%、「配食サービス」が35.4%と21.8%、「緊急時の通報システム」が33.3%と21.4%、「ごみ出しや電球の交換など」が19.8%と16.9%となっている。

“要支援高齢者”は、第1位が「掃除支援」が51.5%であり、次いで「外出支援」が44.0%、「配食サービス」が35.8%、「緊急時の通報システム」が32.1%、「ごみ出しや電球の交換など」が30.6%となっている。

今後、介護予防・日常生活支援総合事業のメニューを考える上でも参考にできる数字であると思われる。

《身体状況別 在宅生活のために利用したい有償サービスなど（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	外出支援（買物や通院等） 37.3%	配食サービス 34.7%	掃除支援 32.4%	緊急時の通報システム 31.8%	調理支援 19.0%
元気高齢者 【該当数=1,563】	配食サービス 36.5%	外出支援（買物や通院等） 36.3%	緊急時の通報システム 32.9%	掃除支援 30.6%	調理支援 19.1%
二次予防対象者 【該当数=571】	外出支援（買物や通院等） 41.2%	掃除支援 36.3%	配食サービス 35.4%	緊急時の通報システム 33.3%	ごみ出しや電球の交換など 19.8%
要支援高齢者 【該当数=134】	掃除支援 51.5%	外出支援（買物や通院等） 44.0%	配食サービス 35.8%	緊急時の通報システム 32.1%	ごみ出しや電球の交換など 30.6%
要介護高齢者 【該当数=248】	外出支援（買物や通院等） 31.5%	掃除支援 24.2%	配食サービス 21.8%	緊急時の通報システム 21.4%	ごみ出しや電球の交換など 16.9%

日常生活圏域別にみると、第1位に「外出支援」をあげているところが10圏域中7圏域、第1位に「配食サービス」をあげている圏域が10圏域中3圏域となっており、外出支援のニーズが高いことがうかがえる。

《日常生活圏域別 在宅生活のために利用したい有償サービスなど（上位5位）》

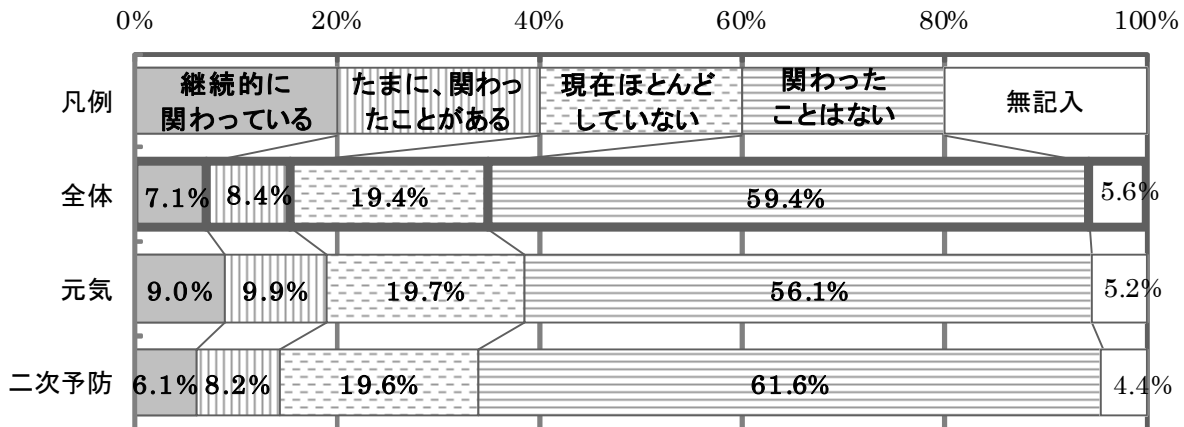
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	外出支援（買物や通院等） 37.3%	配食サービス 34.7%	掃除支援 32.4%	緊急時の通報システム 31.8%	調理支援 19.0%
圏域 1 【該当数=143】	外出支援（買物や通院等） 39.2%	緊急時の通報システム 27.3%	掃除支援 25.2%	配食サービス 22.4%	調理支援 21.7%
圏域 2 【該当数=248】	配食サービス 40.7%	外出支援（買物や通院等） 36.3%	掃除支援 35.1%	緊急時の通報システム 32.7%	ごみ出しや電球の交換など 21.4%
圏域 3 【該当数=459】	配食サービス 41.2%	掃除支援 36.6%	外出支援（買物や通院等） 35.9%	緊急時の通報システム 32.7%	調理支援 36.6%
圏域 4 【該当数=272】	外出支援（買物や通院等） 39.0%	配食サービス 35.3%	緊急時の通報システム 33.1%	掃除支援 32.4%	見守りや声掛け／体操・運動レッスン 19.1%
圏域 5 【該当数=219】	配食サービス 36.5%	緊急時の通報システム 36.5%	外出支援（買物や通院等） 35.6%	掃除支援 32.9%	ごみ出しや電球の交換など 23.3%
圏域 6 【該当数=207】	外出支援（買物や通院等） 42.0%	掃除支援 33.3%	配食サービス 32.9%	緊急時の通報システム 30.4%	見守りや声掛け 18.8%
圏域 7 【該当数=469】	外出支援（買物や通院等） 33.7%	緊急時の通報システム 32.2%	配食サービス 31.3%	掃除支援 30.3%	ごみ出しや電球の交換など 16.2%
圏域 8 【該当数=186】	外出支援（買物や通院等） 38.7%	掃除支援 31.7%	配食サービス 31.2%	緊急時の通報システム 28.5%	調理支援 18.8%
圏域 9 【該当数=146】	外出支援（買物や通院等） 41.1%	配食サービス 29.5%	掃除支援 28.1%	緊急時の通報システム 26.7%	ごみ出しや電球の交換など 19.9%
圏域 10 【該当数=167】	外出支援（買物や通院等） 40.1%	配食サービス 35.9%	緊急時の通報システム 32.9%	掃除支援 31.1%	体操・運動レッスン 17.4%

7. 地域との関係

1) 地域活動等への関わり

地域活動やボランティア活動に役員やスタッフとしての関わりは、全体では「関わったことはない」が 59.4%、「以前関わったことがあるが、現在はほとんどしていない」が 19.4% となっている。

《地域活動等への役員やスタッフとしての関わり》

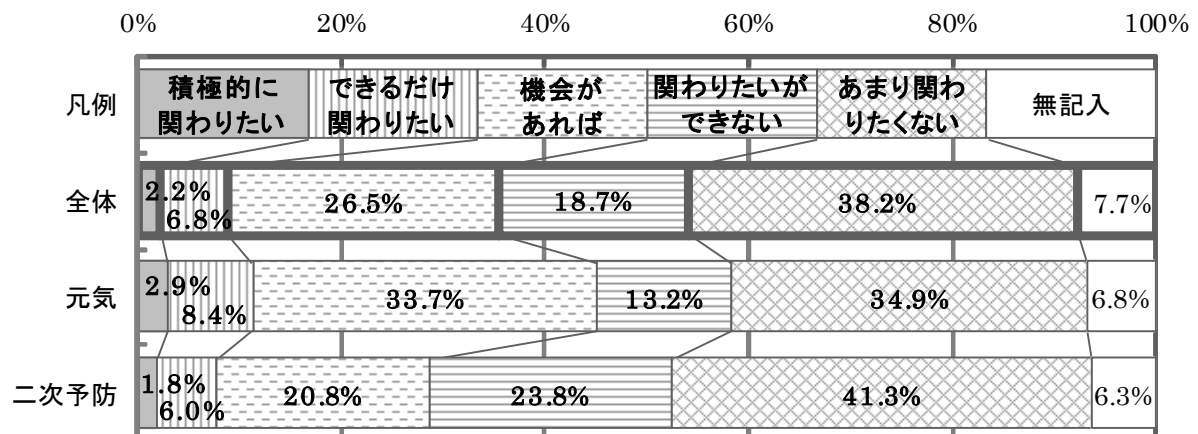


2) 今後の地域活動等への関わり

地域活動やボランティア活動への今後の関わりは、全体では「あまり関わりたくない」が 38.2%、「機会があれば、関わってもよい」が 26.5%となっている。

また、関わりたいができない理由は、「高齢のため」や「病気のため」「身体的に無理」などがあげられている。

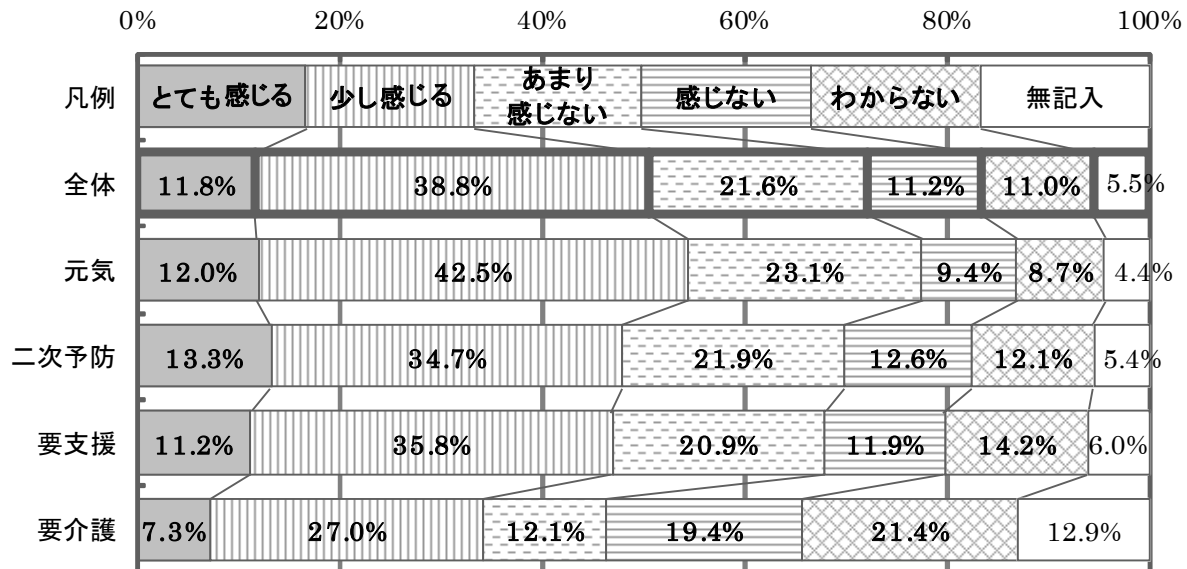
《今後の地域活動等への関わり》



3) 地域のつながりの感覚

住民同士の助け合いや支え合いなど地域のつながりを感じることは、全体では「とても感じる」と「少し感じる」を合わせた『地域のつながりを感じる』が50.6%となっている。

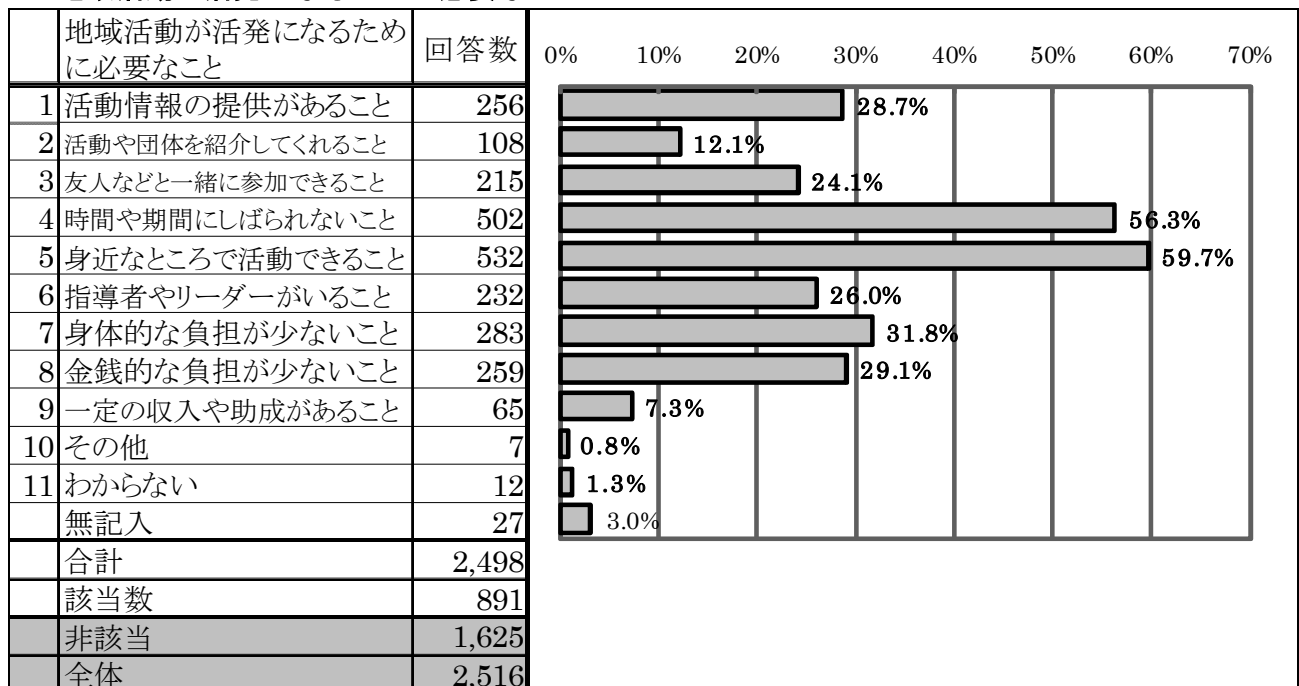
《地域のつながりの感覚》



4) 地域活動等が活発になるために必要なこと

今後、地域活動等に関わっていきたいと答えた人は、地域活動等が活発になるために必要なこととして、「身近なところで活動できること」が59.7%、「時間や期間にしばられないこと」が56.3%、「身体的な負担が少ないこと」が31.8%などをあげている。

《地域活動が活発になるために必要なこと》

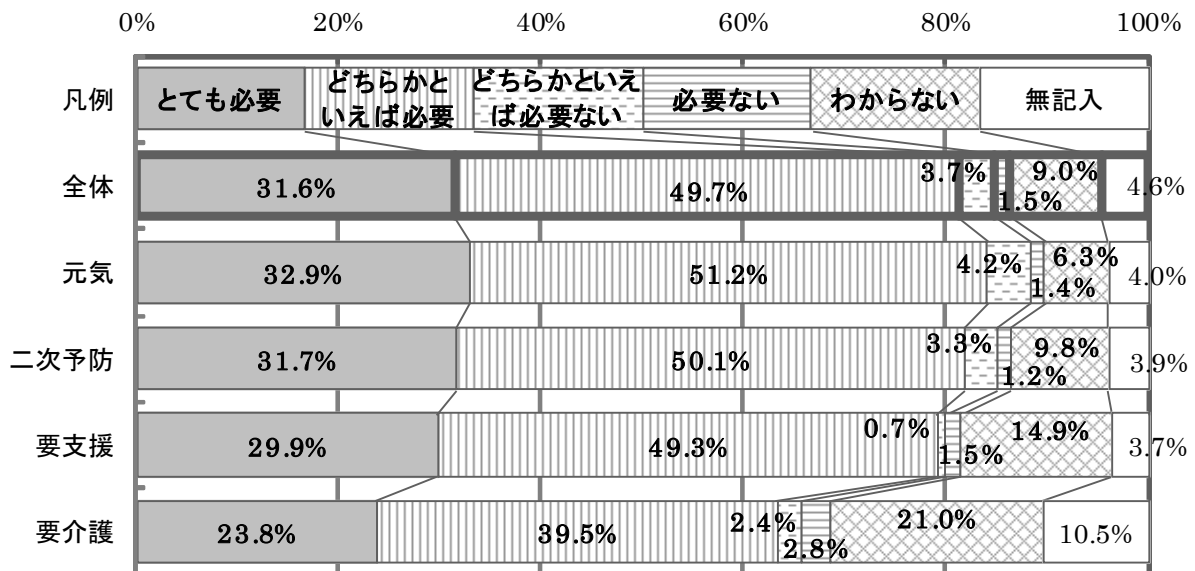


※その他の主な内容：食事や交通費の支給、ボランティア訪問 など

5) 地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、全体では「とても必要だと思う」と「どちらかといえば、必要だと思う」を合わせた『地域のつながりが必要』が81.3%となっている。

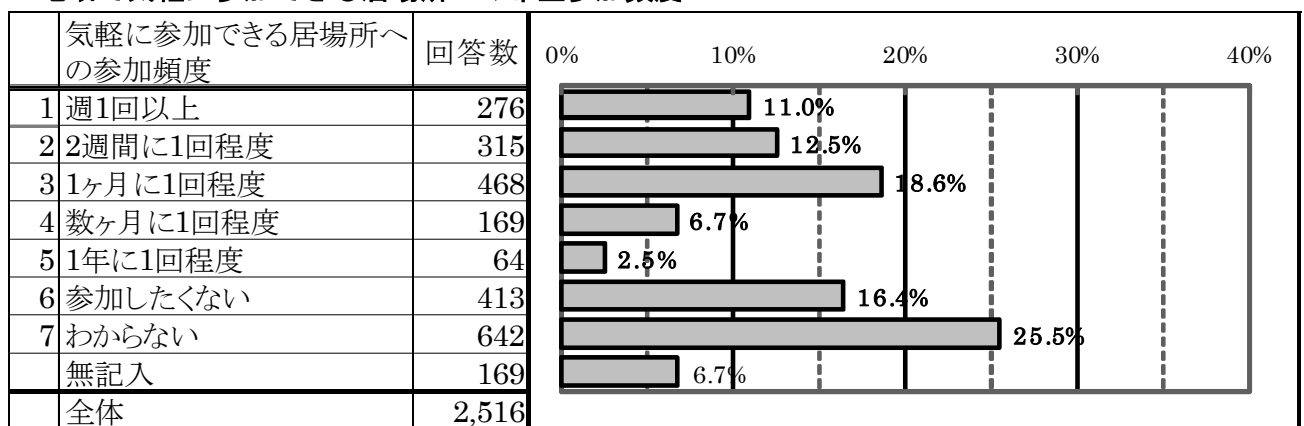
《地域のつながりの必要性》



6) 地域で気軽に参加できる居場所への希望参加頻度

地域において、高齢者が気軽に参加できるサロンや体操教室、囲碁、カラオケ、集会所の催しなどがある場合の希望参加頻度は、「わからない」が25.5%、「1ヶ月に1回程度」が18.6%「参加したくない」が16.4%となっている。

《地域で気軽に参加できる居場所への希望参加頻度》

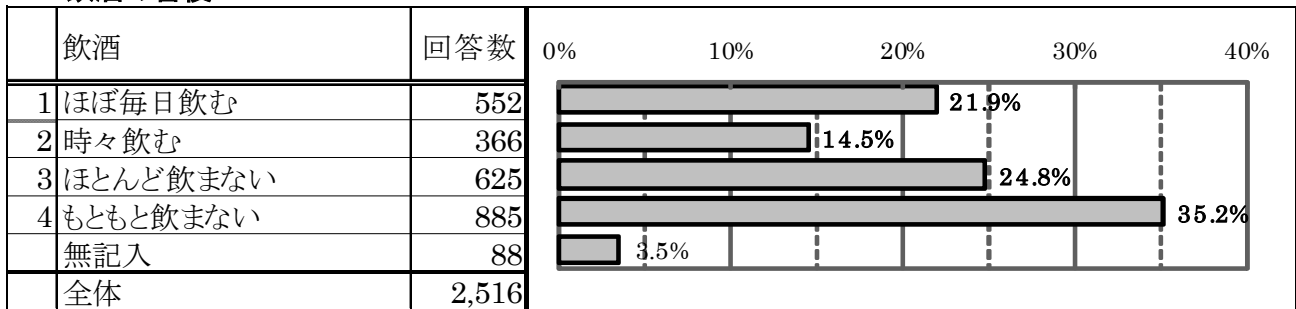


8. 健康づくりなどの取り組み

1) 飲酒・喫煙の状況

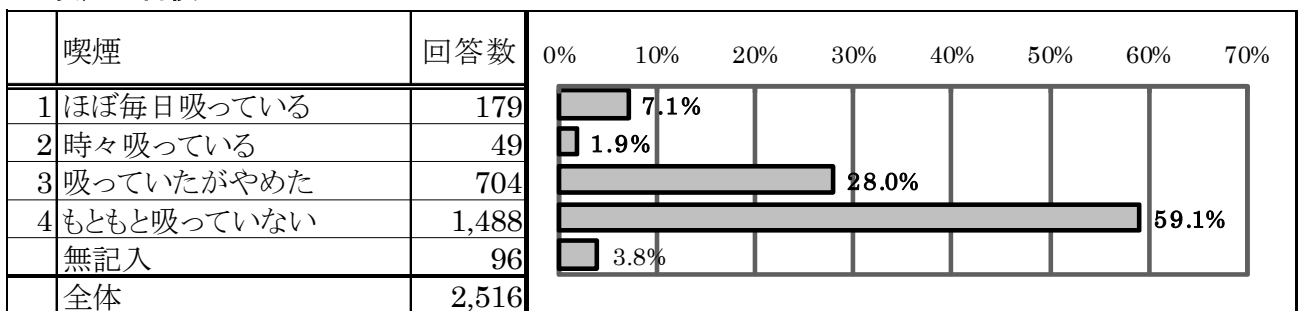
飲酒の習慣については「もともと飲まない」が35.2%であり、「ほとんど飲まない」の24.8%を合わせると6割近くの人が飲酒していないことがうかがえる。

《飲酒の習慣》



喫煙の習慣については「もともと吸っていない」が59.1%であり、「吸っていたがやめた」の28.0%を合わせると9割近くの人が喫煙していないことがうかがえる。

《喫煙の習慣》

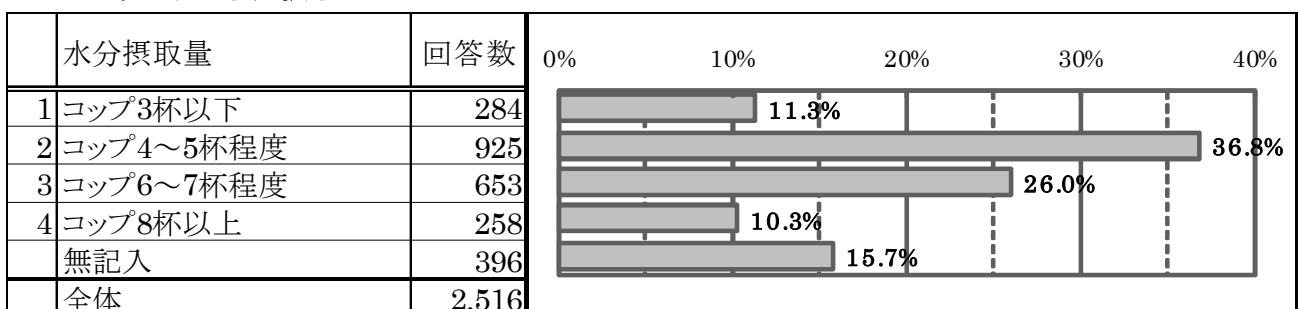


2) 1日あたりの水分摂取量

1日あたりの水分の摂取量（コップ1杯（200ml）を基準）は、「コップ4～5杯程度」が36.8%、「コップ6～7杯程度」が26.0%、「コップ3杯以下」が11.3%となっている。

コップ3杯以下は、水分制限のある人を除いては明らかに1日の水分摂取量として少ないため、脱水等のリスクがある。水分摂取についての正しい理解を求める啓発が必要である。

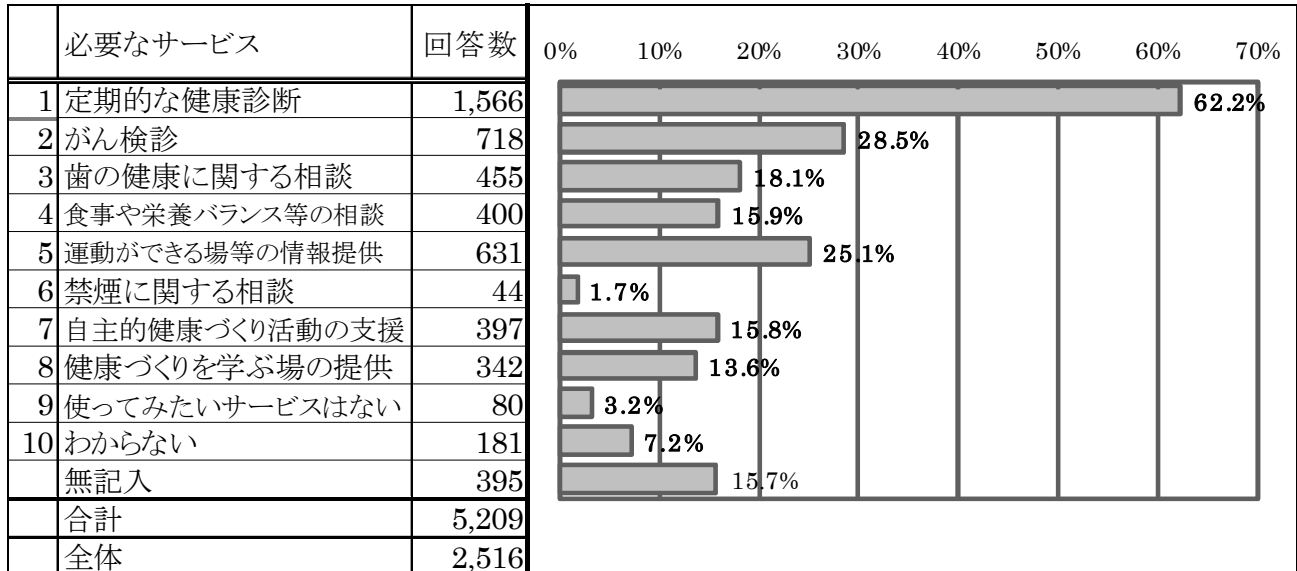
《1日あたりの水分摂取量》



3) 健康を維持するために必要なこと

今後、健康を維持するために必要だと思うことは、「定期的な健康診断」が62.2%、「がん検診」が28.5%、「運動ができる場や機会等に関する情報提供」が25.1%となっている。

《今後、健康を維持するために必要なこと》



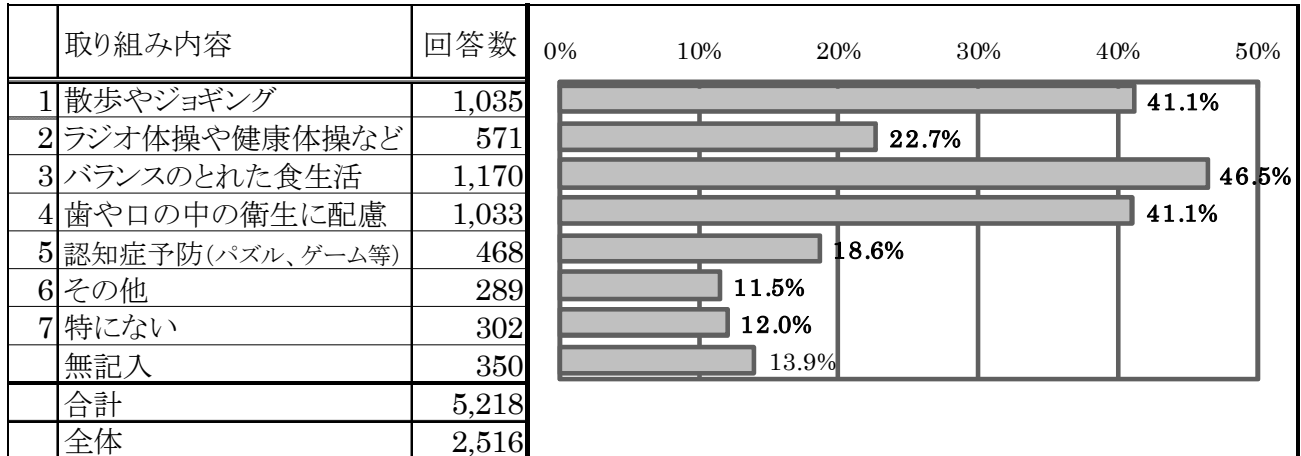
《身体状況別 今後、健康を維持するために必要なこと（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 【回答数=2,516】	定期的な健康診断 62.2%	がん検診 28.5%	運動ができる場等の情報提供 25.1%	歯の健康に関する相談 18.1%	食事や栄養バランス等の相談 15.9%
元気高齢者 【該当数=1,563】	定期的な健康診断 66.7%	がん検診 31.4%	運動ができる場等の情報提供 27.5%	自主的健康づくり活動の支援 17.1%	歯の健康に関する相談 16.9%
二次予防対象者 【該当数=571】	定期的な健康診断 63.4%	がん検診 29.9%	運動ができる場等の情報提供 23.8%	歯の健康に関する相談 22.1%	食事や栄養バランス等の相談 18.2%
要支援高齢者 【該当数=134】	定期的な健康診断 50.0%	食事や栄養バランス等の相談 23.9%	運動ができる場等の情報提供 20.9%	がん検診 20.1%	歯の健康に関する相談 20.1%
要介護高齢者 【該当数=248】	定期的な健康診断 38.3%	わからない 22.2%	歯の健康に関する相談 15.3%	運動ができる場等の情報提供 14.9%	食事や栄養バランス等の相談 12.1%

4) 介護予防のための普段の取り組み

介護予防のための普段の取り組みとしては、「バランスのとれた食生活をしている」が46.5%、「散歩やジョギングをしている」が41.1%、「歯や口の中の衛生に気を配っている」が41.1%となっている。

《介護予防のための普段の取り組み》



※その他の主な内容：スポーツジム、スポーツ（水中プールウォーキング、テニス、ヨガ・太極拳、ボウリングなど）、カラオケ、読書、洋裁・手芸、農作業 など

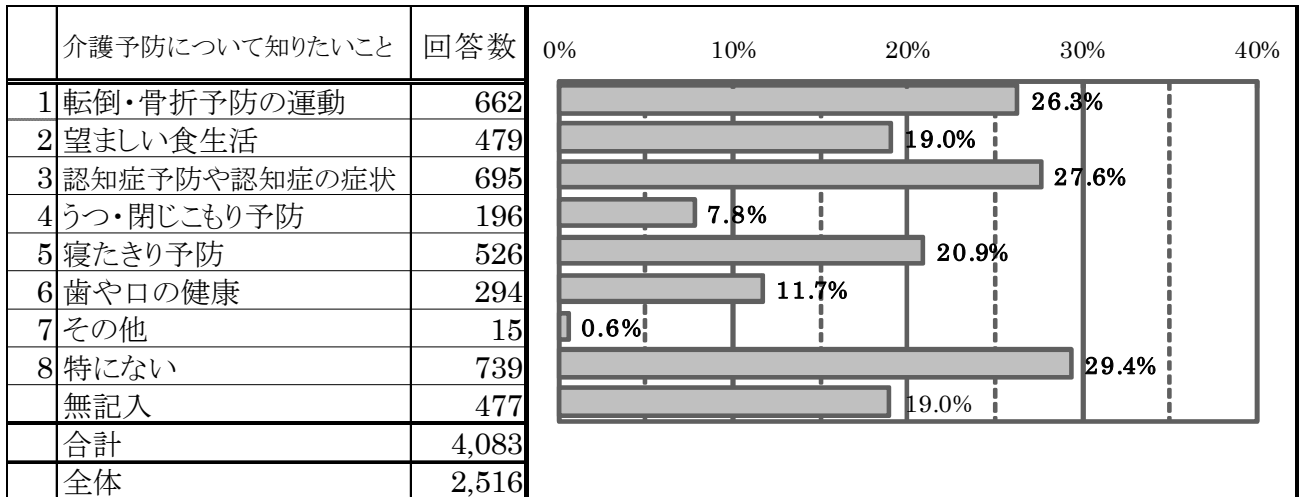
《身体状況別 介護予防のための普段の取り組み（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	バランスのとれた食生活 46.5%	散歩やジョギング 41.1%	歯や口の中の衛生に配慮 41.1%	ラジオ体操や健康体操など 22.7%	認知症予防 18.6%
元気高齢者 【該当数=1,563】	バランスのとれた食生活 50.4%	散歩やジョギング 48.9%	歯や口の中の衛生に配慮 42.9%	ラジオ体操や健康体操など 24.3%	認知症予防 20.6%
二次予防対象者 【該当数=571】	バランスのとれた食生活 44.0%	歯や口の中の衛生に配慮 43.3%	散歩やジョギング 35.4%	ラジオ体操や健康体操など 21.2%	認知症予防 16.1%
要支援高齢者 【該当数=134】	バランスのとれた食生活 44.8%	歯や口の中の衛生に配慮 38.8%	散歩やジョギング 27.6%	ラジオ体操や健康体操など 27.6%	認知症予防 18.7%
要介護高齢者 【該当数=248】	バランスのとれた食生活 28.6%	特にない 29.4%	歯や口の中の衛生に配慮 25.4%	ラジオ体操や健康体操など 13.3%	散歩やジョギング 12.5%

5) 介護予防について知りたいこと

介護予防について知りたいことは、「特にない」が 29.4%、「認知症予防や認知症の症状について」が 27.6%、「転倒・骨折予防の運動について」が 26.3%となっている。

《介護予防について知りたいこと》



※その他の主な内容：うつに関すること、腰痛を治療できる所 など

身体状態別にみると、何らかの介護予防を手掛けることが必要な“二次予防対象者”は、「転倒・骨折予防の運動」が 32.2%、「認知症予防や認知症の症状」が 28.0%、「寝たきり予防」24.0%の順となっている。

現在の市の取り組みをさらに推進していくことが大切である。また、“要支援高齢者”においても「転倒・骨折予防の運動」41.8%、「寝たきり予防」33.6%、「認知症予防や認知症の症状」26.9%の順に高くなっている。

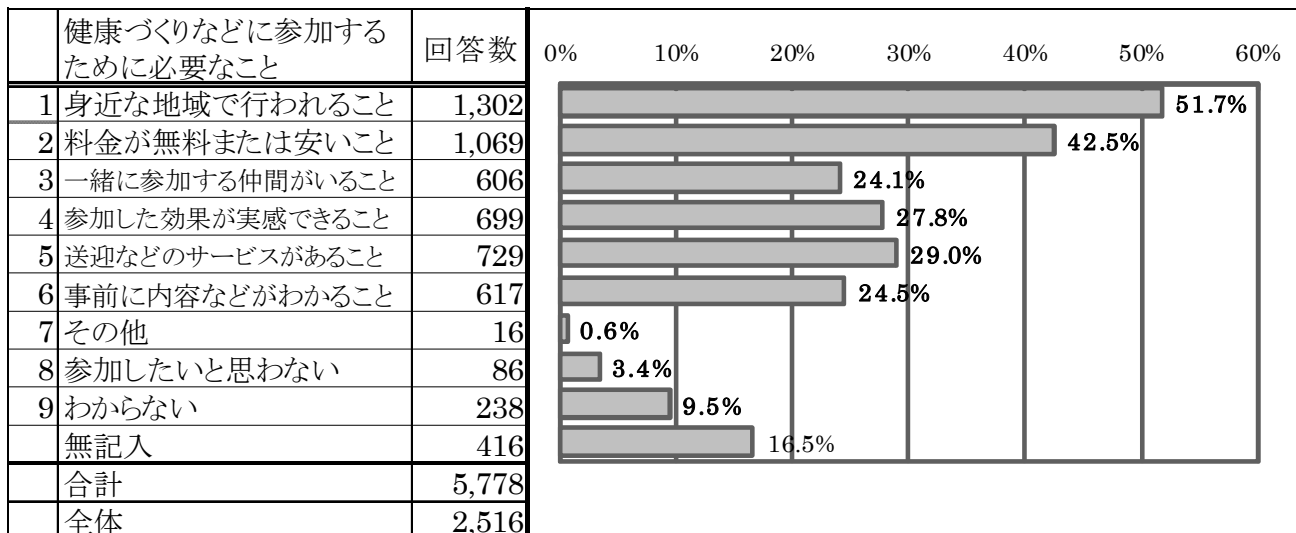
《身体状況別 介護予防について知りたいこと（上位 5 位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【回答数=2,516】	特にない 29.4%	認知症予防や 認知症の症状 27.6%	転倒・骨折予防 の運動 26.3%	寝たきり予防 20.9%	望ましい食生 活 19.0%
元気高齢者 【該当数=1,563】	特にない 32.4%	認知症予防や 認知症の症状 28.5%	転倒・骨折予防 の運動 23.2%	望ましい食生 活 18.8%	寝たきり予防 17.7%
二次予防対象者 【該当数=571】	転倒・骨折予防 の運動 32.2%	認知症予防や 認知症の症状 28.0%	寝たきり予防 24.0%	特にない 22.1%	望ましい食生 活 21.2%
要支援高齢者 【該当数=134】	転倒・骨折予防 の運動 41.8%	寝たきり予防 33.6%	認知症予防や 認知症の症状 26.9%	望ましい食生 活 25.4%	特にない 23.1%
要介護高齢者 【該当数=248】	特にない 30.2%	寝たきり予防 27.0%	転倒・骨折予防 の運動 23.8%	認知症予防や 認知症の症状 21.4%	望ましい食生 活 12.1%

6) 健康づくりや介護予防事業に参加するために必要なこと

健康づくりや介護予防事業に参加するために必要なことは、「身近な地域で行われること」が51.7%、「料金が無料または安いこと」が42.5%、「送迎などのサービスがあること」が29.0%となっている。

《健康づくりや介護予防事業に参加するために必要なこと》



※その他の主な内容：駐車場があること、継続的に行うこと など

特に、歩行能力の低下がみられる“要支援高齢者”では、送迎等がないと、参加したくても参加ができない状況にあるため、第1位に送迎などのサービスが必要と回答している。

介護予防、日常生活支援総合事業の内容を考える上で、送迎などのサービスを考慮することが重要である。

《身体状況別 健康づくりや介護予防事業に参加するために必要なこと（上位5位）》

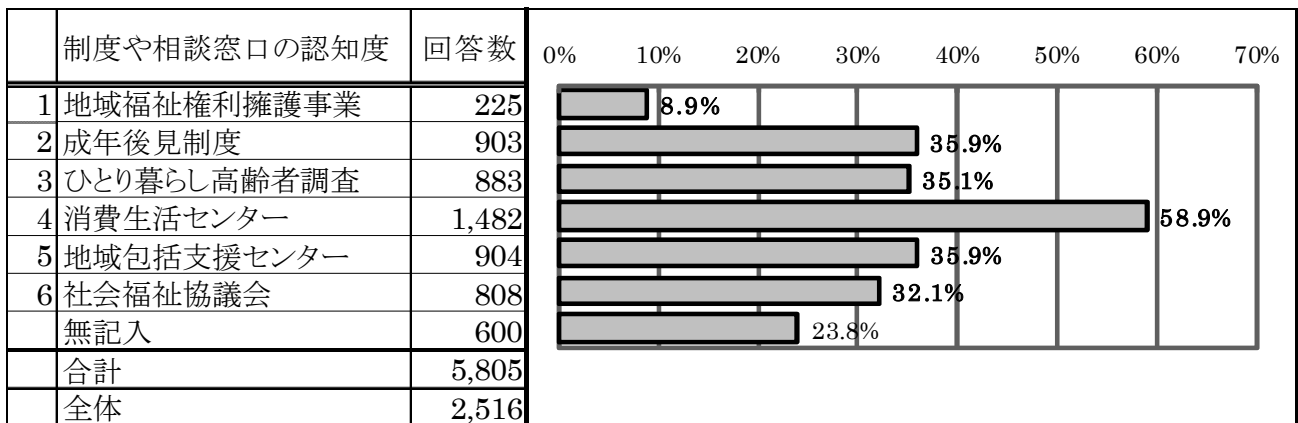
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	身近な地域で行われること 51.7%	料金が無料・安いこと 42.5%	送迎などのサービス 29.0%	参加した効果を実感 27.8%	事前に内容がわかること 24.5%
元気高齢者 【該当数=1,563】	身近な地域で行われること 56.7%	料金が無料・安いこと 44.0%	参加した効果を実感 29.9%	事前に内容がわかること 25.8%	一緒に参加する仲間がいること 25.0%
二次予防対象者 【該当数=571】	身近な地域で行われること 50.3%	料金が無料・安いこと 45.9%	送迎などのサービス 33.8%	参加した効果を実感 27.3%	事前に内容がわかること 26.3%
要支援高齢者 【該当数=134】	送迎などのサービス 43.3%	身近な地域で行われること 42.5%	料金が無料・安いこと 41.0%	参加した効果を実感 27.6%	一緒に参加する仲間がいること 23.1%
要介護高齢者 【該当数=248】	送迎などのサービス 37.9%	身近な地域で行われること 29.0%	料金が無料・安いこと 26.2%	参加した効果を実感 15.3%	一緒に参加する仲間がいること 14.9%

9. 施策などについて

1) 施策などの認知度

高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口についての認知度は、「消費生活センター」が58.9%、「地域包括支援センター」と「成年後見制度」が35.9%、「ひとり暮らし高齢者調査」が35.1%となっている。

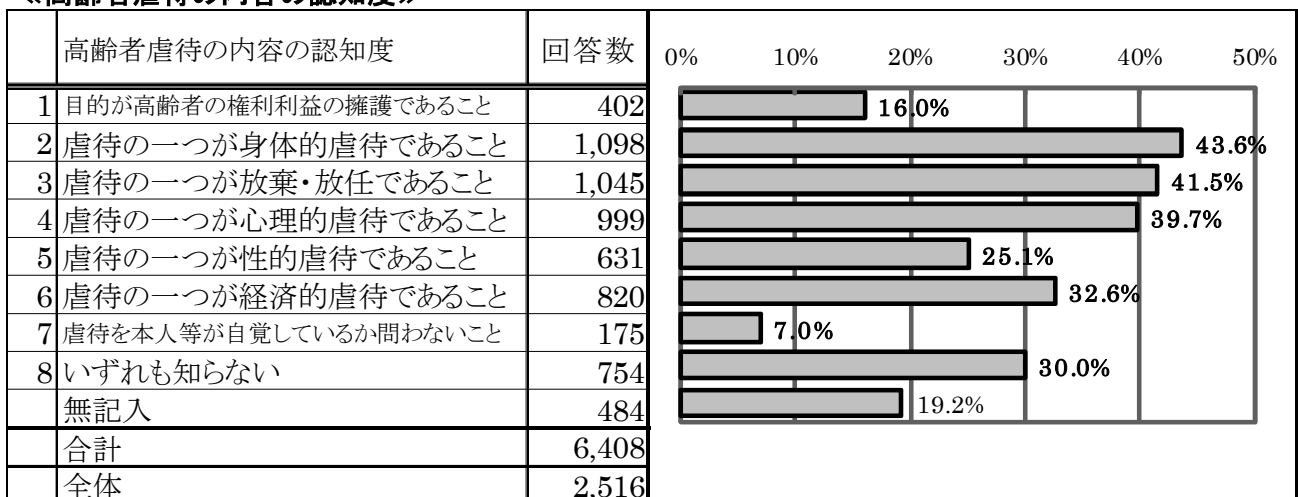
《制度や相談窓口の認知度》



また、高齢者虐待の内容についての認知度は、「虐待の一つが身体的虐待であること（身に外傷が生じるような暴力など）」が43.6%、「虐待の一つが放棄・放任であること（食事を摂らせない、長時間の放置など）」が41.5%、「虐待の一つが心理的虐待であること（著しい暴言や脅し、侮辱、無視、嫌がらせなど）」が39.7%と半数を満たしていない。

今後も、さらに高齢者虐待の防止に向けた市民への普及啓発を行い、高齢者虐待の早期発見や予防への対策を強化していくことが必要である。

《高齢者虐待の内容の認知度》

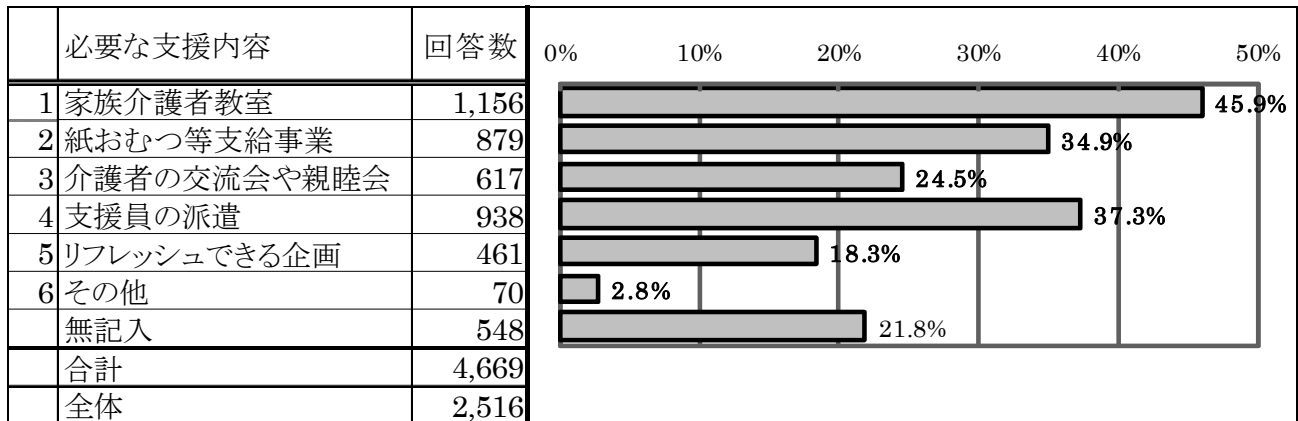


2) 家族介護者のための支援

自宅で介護を行う家族のためにあると良いと思う支援としては、「家族介護者教室」が 45.9%、「支援員の派遣」が 37.3%、「紙おむつ等支給事業」が 34.9%、「介護者の交流会や親睦会」が 24.5%となっている。

今後、支援員の派遣事業や介護者がリフレッシュできる企画など、家族介護者向けの支援の検討も必要かと思われる。

《家族介護者のために必要な支援》



※リフレッシュできる企画の主な内容：一泊旅行、交流会・情報交換会、季節の行事 など

※その他の主な内容：わからない、金銭的支援、自由時間 など

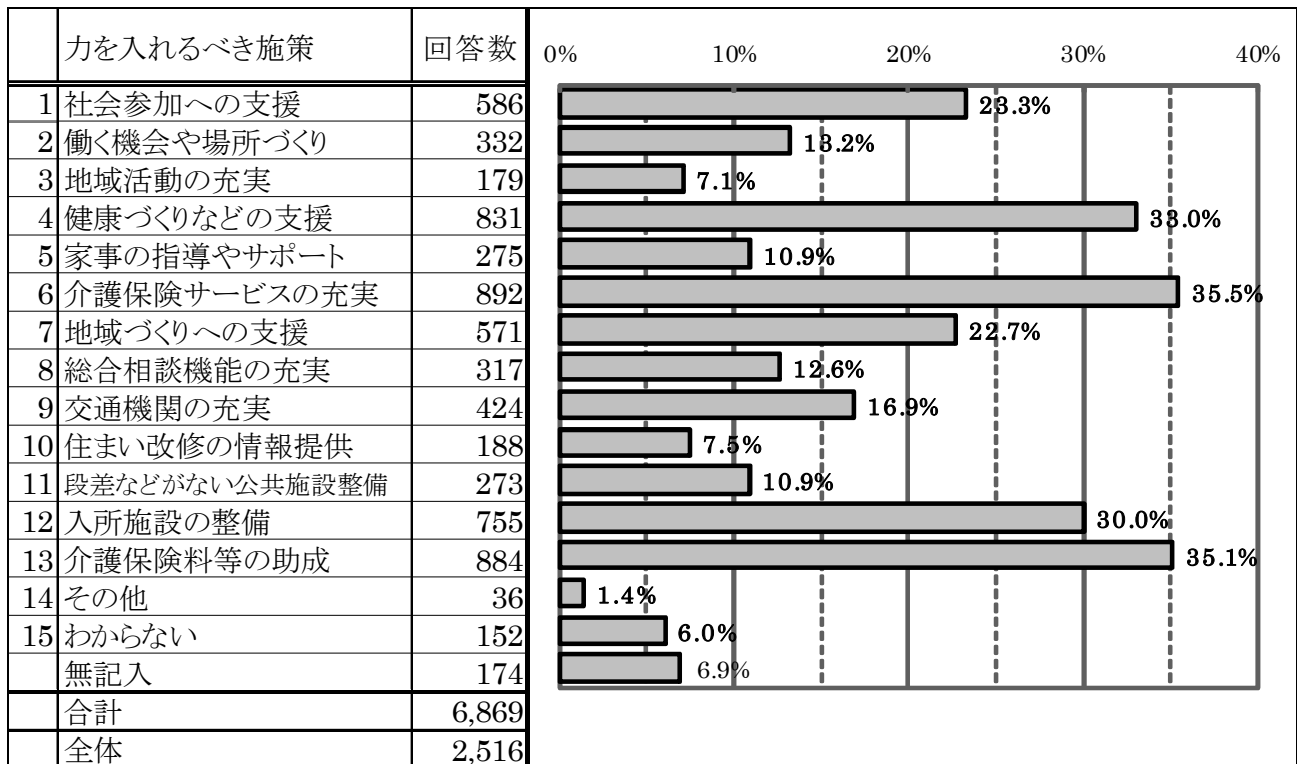
《身体状況別 家族介護者のために必要な支援内容（上位 5 位）》

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
全 体 【回答数=2,516】	家族介護教室 45.9%	支援員の派遣 37.3%	紙おむつ支給 事業 34.9%	交流会や親睦 会 24.5%	リフレッシュ 企画 18.3%
元気高齢者 【該当数=1,563】	家族介護教室 48.7%	支援員の派遣 39.9%	紙おむつ支給 事業 33.6%	交流会や親睦 会 26.7%	リフレッシュ 企画 18.9%
二次予防対象者 【該当数=571】	家族介護教室 48.2%	紙おむつ支給 事業 38.7%	支援員の派遣 38.4%	交流会や親睦 会 24.5%	リフレッシュ 企画 18.2%
要支援高齢者 【該当数=134】	家族介護教室 38.8%	紙おむつ支給 事業 34.3%	支援員の派遣 24.6%	交流会や親睦 会 22.4%	リフレッシュ 企画 19.4%
要介護高齢者 【該当数=248】	紙おむつ支給 事業 35.1%	家族介護教室 27.4%	支援員の派遣 25.4%	リフレッシュ 企画 14.5%	交流会や親睦 会 12.1%

3) 生駒市高齢者保健福祉施策で力を入れるべきもの

本市の高齢者保健福祉施策として、特に力を入れるべきものとしては、「介護保険サービスの充実」が35.5%、「医療費の自己負担分や介護保険料を助成する事業」が35.1%、「介護が必要にならないための健康づくりなどの支援」が33.0%、「特別養護老人ホームやグループホームなどの入所施設の整備」が30.0%、「趣味や生きがいがいづくり、社会参加への支援」が23.3%、「ひとり暮らしなどの高齢者見守りや支え合う地域づくりへの支援」が22.7%、「移送サービスや公共交通などの交通機関の充実」が16.9%、「働く機会や場所づくり」が13.2%となっている。

《高齢者保健福祉施策で力を入れるべきもの》



※その他の主な内容：歩道の整備、医療機関、市内巡回バス など

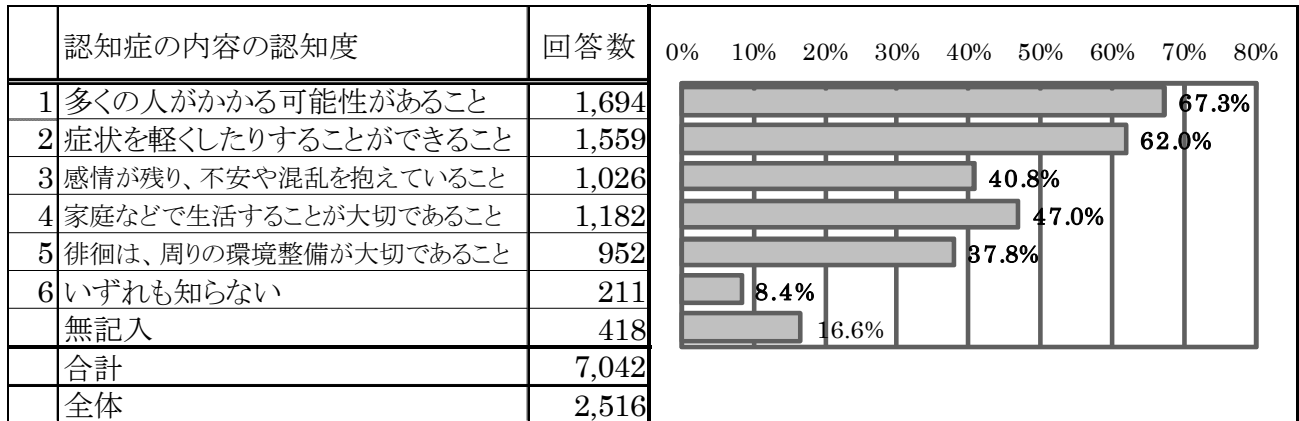
《身体状況別 高齢者福祉施策で力を入れるべきもの（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	介護保険サービスの充実 35.5%	介護保険料等の助成 35.1%	健康づくりなどの支援 33.0%	入所施設の整備 30.0%	社会参加への支援 23.3%
元気高齢者 【該当数=1,563】	健康づくりなどの支援 36.1%	介護保険料等の助成 34.5%	介護保険サービスの充実 34.4%	入所施設の整備 30.0%	社会参加への支援 25.9%
二次予防対象者 【該当数=571】	介護保険料等の助成 39.6%	介護保険サービスの充実 35.2%	健康づくりなどの支援 34.2%	入所施設の整備 28.9%	社会参加への支援 23.3%
要支援高齢者 【該当数=134】	介護保険サービスの充実 39.6%	介護保険料等の助成 35.8%	健康づくりなどの支援 28.4%	入所施設の整備 28.4%	地域づくりへの支援 25.4%
要介護高齢者 【該当数=248】	介護保険サービスの充実 40.3%	入所施設の整備 33.5%	介護保険料等の助成 28.2%	交通機関の充実 15.3%	地域づくりへの支援 14.9%

4) 認知症の内容に関する認知度

認知症に関して知っている内容としては、「脳の障害によって、記憶力・判断力・理解力が低下する病気であり、多くの人がかかる可能性があること」が 67.3%、「原因や状態によっては、早期に発見し適切な治療を受けることによって、症状を軽くしたり、進行を遅らせることができること」が 62.0%、「環境の変化への適応が難しくなるため、住み慣れた家庭や地域の暮らしの中で、生活することが大切であること」が 47.0%となっている。また、「いずれも知らない」が 8.4%となっている。

《認知症の内容に関する認知度》



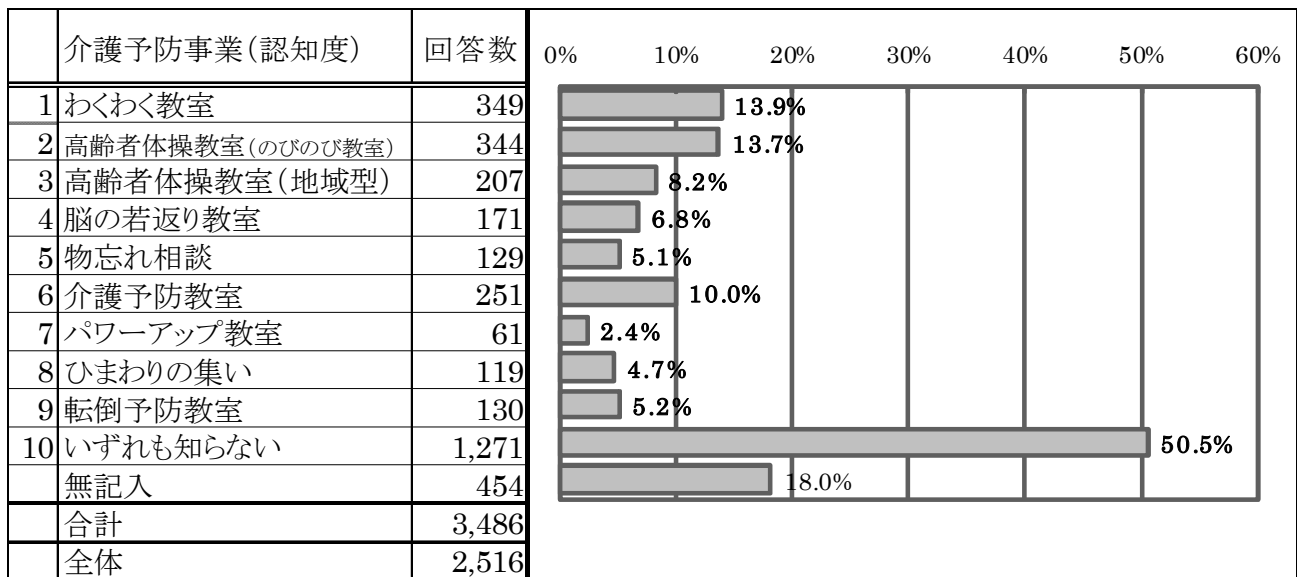
5) 介護予防事業の認知度

認知症予防や寝たきりを防止するために、実施している介護予防事業については、「いずれも知らない」が50.5%となっている。

介護予防事業の認知度では、「わくわく教室」が13.9%、「高齢者体操教室（のびのび教室）」が13.7%、「介護予防教室」が10.0%となっている。

“元気高齢者”の回答が多いため、必要性が低いとも考えられるが、今後は高齢者と多く接する関係者、関係機関への周知や広報で広く啓発するなど、市の取り組みをPRする機会を積極的に図っていくことも必要かと思われる。

《介護予防事業の認知度》



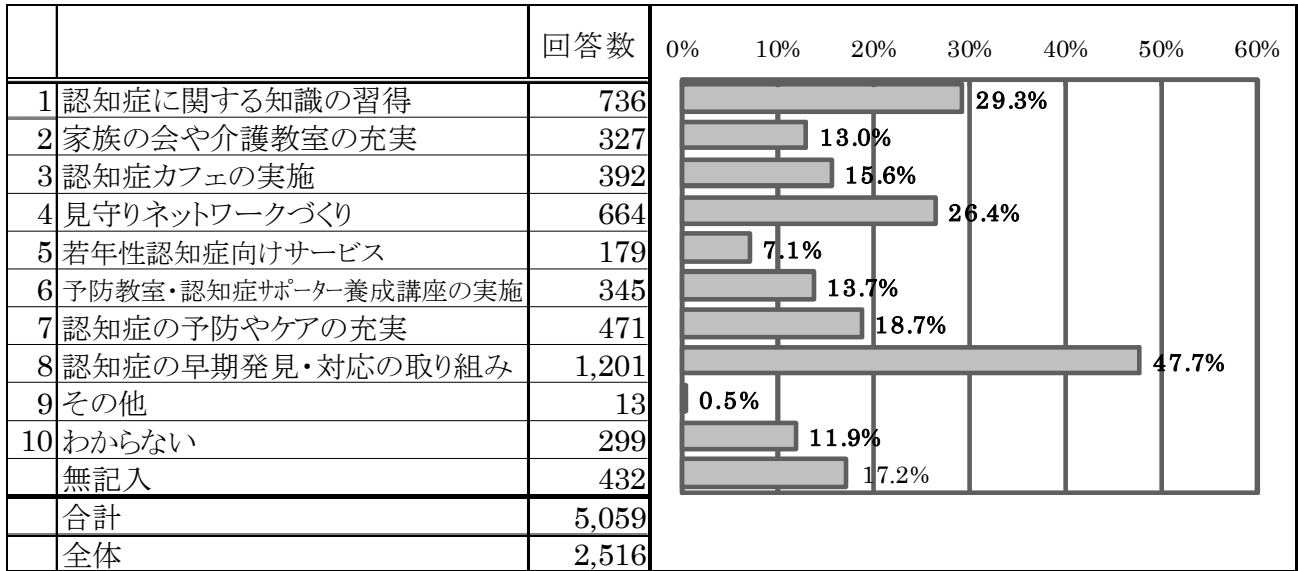
《身体状況別 介護予防事業の認知度（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	いずれも知らない 50.5%	わくわく教室 13.9%	高齢者体操教室(のびのび教室) 13.7%	介護予防教室 10.0%	高齢者体操教室(地域型) 8.2%
元気高齢者 【該当数=1,563】	いずれも知らない 51.0%	高齢者体操教室(のびのび教室) 14.1%	わくわく教室 13.9%	介護予防教室 10.5%	高齢者体操教室(地域型) 9.0%
二次予防対象者 【該当数=571】	いずれも知らない 50.8%	わくわく教室 14.7%	高齢者体操教室(のびのび教室) 12.8%	介護予防教室 9.6%	高齢者体操教室(地域型)／脳の若返り教室 6.8%
要支援高齢者 【該当数=134】	いずれも知らない 43.3%	高齢者体操教室(のびのび教室) 16.4%	わくわく教室 14.9%	高齢者体操教室(地域型) 13.4%	転倒予防教室 10.4%
要介護高齢者 【該当数=248】	いずれも知らない 50.8%	高齢者体操教室(のびのび教室) 11.3%	わくわく教室 10.9%	介護予防教室 7.7%	脳の若返り教室／物忘れ相談 4.8%

6) 生駒市で認知症に関して優先的に取り組むべき施策

認知症を有する人が増えている状況を受けて、今後、安心して暮らせるために本市で認知症に関して優先的に取り組む必要がある施策としては、「認知症の早期発見・早期対応に対する取り組み」が47.7%、「認知症に関する知識の習得」が29.3%、「認知症の人と家族を支え見守るネットワークづくり」が26.4%となっている。

《認知症に関して優先的に取り組むべき施策》



※その他の主な内容：認知健診・脳ドッグ、認知症専科の新設、会話・交流の場 など

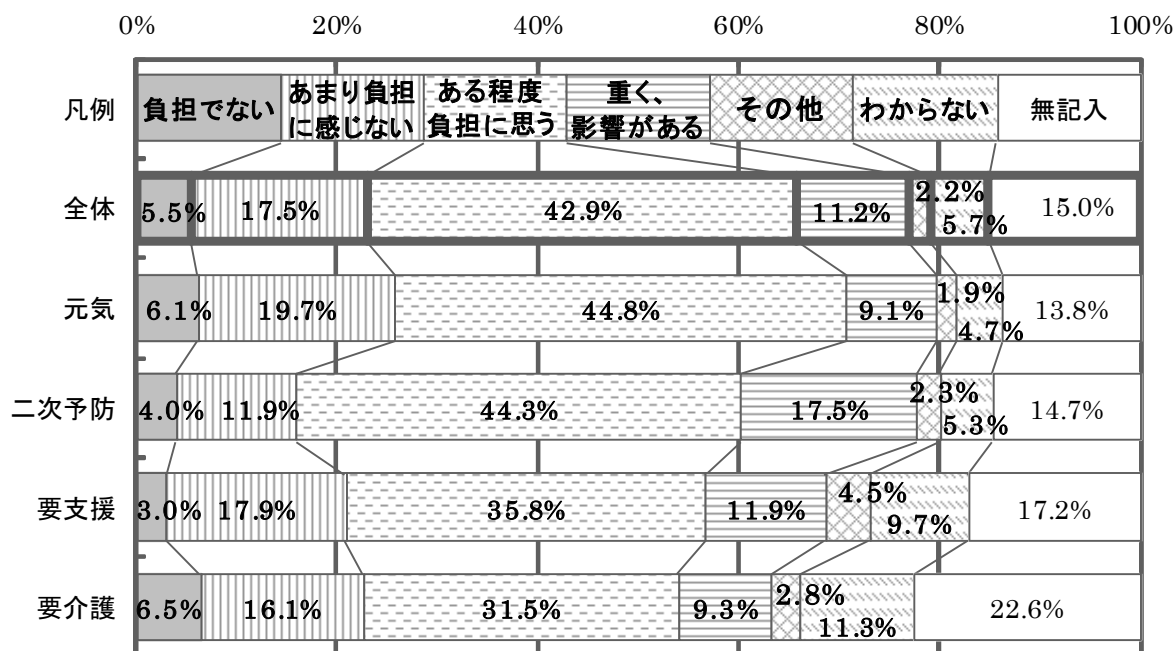
《身体状況別 認知症に関して優先的に取り組むべき施策（上位5位）》

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体 【回答数=2,516】	早期発見・対応の取り組み 47.7%	知識の習得 29.3%	見守りネットワーク 26.4%	予防やケアの充実 18.7%	認知症カフェの実施 15.6%
元気高齢者 【該当数=1,563】	早期発見・対応の取り組み 50.1%	知識の習得 30.4%	見守りネットワーク 28.5%	予防やケアの充実 17.2%	認知症カフェの実施 16.1%
二次予防対象者 【該当数=571】	早期発見・対応の取り組み 49.0%	知識の習得 31.9%	見守りネットワーク 26.3%	予防やケアの充実 17.0%	認知症カフェの実施 15.8%
要支援高齢者 【該当数=134】	早期発見・対応の取り組み 40.3%	知識の習得 26.9%	予防やケアの充実 26.1%	見守りネットワーク 19.4%	認知症カフェの実施／教室・講座の実施／わからない 17.2%
要介護高齢者 【該当数=248】	早期発見・対応の取り組み 33.9%	予防やケアの充実 28.2%	わからない 20.2%	知識の習得 17.3%	見守りネットワーク 16.9%

7) 介護保険料について

介護保険料の負担感については、全体では「ある程度負担に思う」が 42.9%であり、「日常生活の中で、負担ではない」と「日常生活の中で、あまり負担には感じない」は合わせて 23.0%となっている。

《介護保険料の負担感》



10. 自由記述

問 11 の自由記述については、483 名が意見や要望、提案などが記述されている。それらを分野別に整理した。分野ごとの主な意見は次の通りである。

1) 自分自身のことについて

- ・ 将来のことを考えると不安である。
- ・ 今のところ、元気に暮らしている。
- ・ 散歩や買い物など認知症対策・介護予防に取り組んでいる。
- ・ 施設に入所している。
- ・ 病院に入院している。
- ・ 現在、働いている。
- ・ ボランティアで頑張っている。
- ・ 65 歳で一概に「高齢者」と決めつけないでほしい。
- ・ この調査をきっかけに、認知症への関心が高まった。
- ・ 老老介護が予想され、身体が動かなくなった時のことが心配。
- ・ 介護予防のサービスを受けたい。
- ・ 会社勤めをしていたので、地域との関わりが薄い。
- ・ 急激に体力の衰えを痛感している。
- ・ 特別養護老人ホームに入りたい。
- ・ デイサービスへ行くようになって、気が楽になった。
- ・ 介護のことも勉強していく必要があると感じている。

2) 介護保険制度について

- ・ 介護保険はどのような基準で使われているのか知りたい。
- ・ 介護保険料をこれ以上、上げないでほしい。
- ・ 介護保険料を段階設定もしくは年齢別設定に。
- ・ 介護保険料は、所得の多い人から多くとり、低い人をフォローしていくのが当然。
- ・ 介護保険は脱退できる制度に改めるべき。
- ・ 要介護認定の申請方法や窓口を知りたい。
- ・ 老老介護で家族崩壊にならないような対策を。
- ・ 入所待機者をなくすため、特別養護老人ホームの充実を。
- ・ 安価な入居施設の整備を。
- ・ 介護に関わる人たちの待遇改善を。
- ・ デイサービスの時間延長を。
- ・ 在宅介護サービスの充実を。
- ・ 身体の不自由になった人を集め、リハビリを行う施設の充実を。
- ・ ショートステイの人員が少なく、急な時に利用できそうにない。改善を。
- ・ 介護認定調査・審査を厳密にして、必要な人のみにしてほしい。
- ・ 認知症の予防事業の教室などの変更は、認知症の方にもわかりやすい表示などを。
- ・ お金のない者のための介護保険のあり方を考えてほしい。

- ・ 要支援でも介護タクシーを利用できるように。
- ・ 家族介護者への優遇手当を。
- ・ 福祉用具の1割負担の継続を。
- ・ サービス提供事業者の不正がないようにチェックを。
- ・ 要介護度3以下でも入所できる施設を。
- ・ 住宅改修を以前にしておいて助かっている。
- ・ 他府県や他都市に両親等が在住している場合、市内の施設に入所できないのはやめてほしい。
- ・ 介護保険ができて助かった。
- ・ 介護保険を納付しているのに、サービスを受けにくいのは問題である。
- ・ 介護保険を利用していない人は減額や還付金、表彰してはどうか。
- ・ 今後の介護事業計画に期待。
- ・ パーキンソン病と診断されて、カートを使っている。カートも補助対象に。
- ・ 施設が個室ではなく、4人部屋などに改築・増床されることが心配。

3) 医療制度などについて

- ・ 高福祉・高負担か、中福祉・中負担か、低福祉・低負担かといった選択肢を。
- ・ 年金生活なので、後期高齢者医療保険料・介護保険料などが高く、生活が苦しい。
- ・ 国民健康保険・介護保険料が高過ぎる。
- ・ 市内に救急病院を。
- ・ 自宅へ診療に来ていただける医療制度を。
- ・ 認知症やアルツハイマーなどの違いが判らない。
- ・ 認知症の治療薬の開発を。

4) アンケート調査について

- ・ 質問事項が多すぎて記入するのに疲れた。
- ・ 設問の意図がわかりにくく、答えにくい質問が多い。
- ・ 高齢者でも仕事をしている人が多いと思うが、そのことに対する質問がない。
- ・ 老老介護を視野に入れた質問、介護者が答える質問がなかった。
- ・ 対象者と設問内容がマッチしていない。質問の範囲が広すぎる。
- ・ 本当に参考になるのか疑わしい。
- ・ 質問の番号が複雑で間違いやすい。通し番号あるいは「イロハ」の方がよい。
- ・ 今後とも継続して調査してください。

5) まちづくり・行政施策などについて

- ・ 何でも相談できる窓口がほしい。
- ・ 地域包括支援センターのことをくわしく知りたい。
- ・ 交通費補助制度の継続・拡充を。
- ・ 買い物や通院のため、無料バスを出してほしい。
- ・ 生駒市での認知症の行方不明者数とその対策を知りたい。
- ・ あすか野は坂が多いので、小型の巡回バスの運行を。

- ・ 高齢者が気軽に集まって、いつでも自由に楽しむ場所を。
- ・ 公共の運動施設・安価なスポーツジム、いろいろな教室などを。
- ・ 高齢者と幼児とが交流でき、深められるような機会・場を。
- ・ 広報などで行き届いた指導を知ることができ感謝している。
- ・ 「寿大学」と「自主学習グループ」への支援の充実を。
- ・ 高齢者予備軍に、寿大学の活動等の周知などを。
- ・ 生駒市も今後急速に高齢化が進み、介護保険の重要性は益々増加すると思う。
- ・ これからも住みよい生駒市であることを願っている。
- ・ 高齢者の暮らしやすいまちづくり、制度づくりを。
- ・ 生きがい対策、働く場としてのシルバー人材センターの充実を。
- ・ 一人暮らしなので、緊急時の通報システム（孤独死の早期発見も可）などを。

6) 提案

- ・ 高齢者に財産を申告させて老人税のようなものを設けては。
- ・ 認知症の方のために、ワッペンなどを作っては。
- ・ 地域社会によるつながり・助け合いなどは限界がある。市の事業が必要だ。
- ・ 市主導で、気軽に参加できるボランティア活動の企画と実施を。
- ・ ボランティアクーポン制の導入を。
- ・ ボランティアの募集は、ボランティア団体等に任せること。
- ・ ボランティア活動に、交通費と食事代は提供すべきである。
- ・ 健康づくり・介護予防教室などへの送迎バスや市内循環するバスがあれば。
- ・ 元気な人のための「何か」がほしい。
- ・ 尊厳死のあり方についても、議論すべき。
- ・ 高齢者参加の体操、麻雀・囲碁・将棋等の指導者育成などの自治会活動への補助を。
- ・ 高齢者は、地域の子どもへの声かけやあいさつなどを進めていくべき。
- ・ 自治会と民生委員で一人暮らし高齢者への定期的な訪問を義務づけるべき。
- ・ 高齢者問題にもっと焦点をあてるべき。
- ・ 隣近所の声かけと見守りの充実を。
- ・ 身分証を個人に配布し、介護予防の施設などに自由に入れるように。
- ・ 元気高齢者が活躍できる菜園や花壇のあるケアホームなどを。
- ・ 認知症で行方不明者を、すぐに探せるネットワークを。
- ・ 介護サービスではなく、元気高齢者施策の充実を。
- ・ タブレットなどを健康管理や健康づくりへのサービス提供を。
- ・ 終活事業を行政として検討、実施してはどうか。
- ・ 一人暮らし世帯が増えているが、個人情報保護法のため見守り活動に支障がある。

7) その他

- ・ 自費で対処し、これ以上若い人にしわ寄せはできない。
- ・ 健康であることが社会に迷惑をかけないボランティア活動である。
- ・ 高齢者であることを理由に犯罪者扱いすることは絶対にやめてほしい。
- ・ 施設でも、高齢者に対し常に尊敬の念を持って接してほしい。

- ・ 介護をサポートしていただける市役所の部署、施設、地域包括支援センターなどの立ち位置がよく理解できない。
- ・ あまり年寄りを年寄り扱いしない、甘やかさないこと。

Ⅲ 居宅介護支援事業所等アンケート調査の結果

1. 事業所の概要

1) ケアプラン作成担当職員数

回答のあった 31 の事業所のうち、“居宅介護支援事業所” は 25 か所で、ケアプラン担当者は常勤職員が 65 人、非常勤職員が 18 人となっている。また、“介護予防支援事業所” は、6 か所すべてから回答があり、ケアプラン担当者は、常勤職員が 19 人、非常勤職員が 5 人となっている。

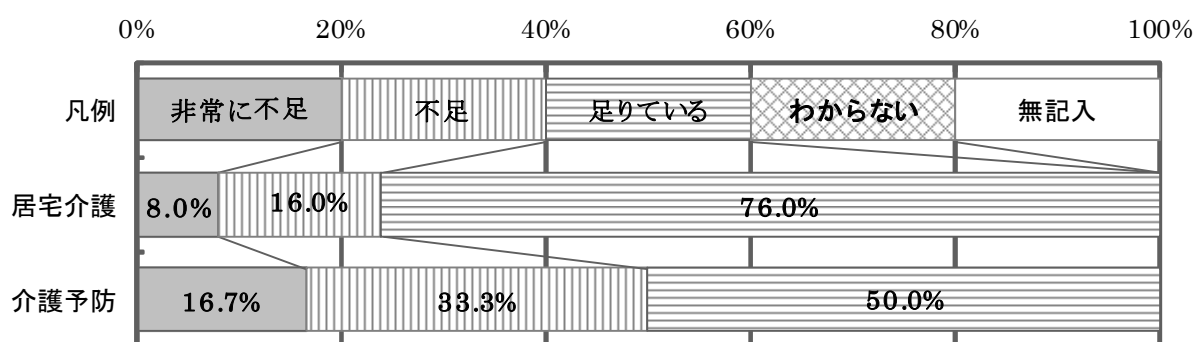
《ケアプラン作成担当職員数》

	事業所数		勤務年数別職員数							
			1 年未満		1 年以上 3 年未満		3 年以上		合計	
	対象	回答	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
居宅介護支援事業所	30	25	11 人	7 人	16 人	3 人	38 人	8 人	65 人	18 人
介護予防支援事業所	6	6	6 人	1 人	2 人	2 人	11 人	2 人	19 人	5 人

2) ケアプラン作成担当職員の充足状況

ケアプラン担当職員は、“居宅介護支援事業所” は「足りている」が 19 か所 (76.0%)、「不足している」が 4 か所 (16.0%)、「非常に不足している」が 2 か所 (8.0%) となっている。また、“介護予防支援事業所” は、「足りている」が 3 か所 (50.0%) で、「不足している」が 2 か所 (33.3%)、「非常に不足している」が 1 か所 (16.7%) となっている。

《ケアプラン担当職員の充足状況》



また、不足の理由としては、「雇用したいが募集しても応募がないため」が 4 件、「利用者が少ないため、雇用できないため」が 1 件、「その他（雇用しても条件のよい所へ転職する、雇用費用が捻出できない など）」4 件があげられている。

3) ケアプラン作成担当者の研修

最近 1 年間にケアプラン作成担当者が受ける研修は、「職場内・外両方の研修を受けた」が 65 人、「職場内研修のみを受けた」が 10 人、「職場外研修のみを受けた」が 22 人、「研修を受ける機会がなかった」が 2 人となっている。

《ケアプラン作成担当者の研修の状況》

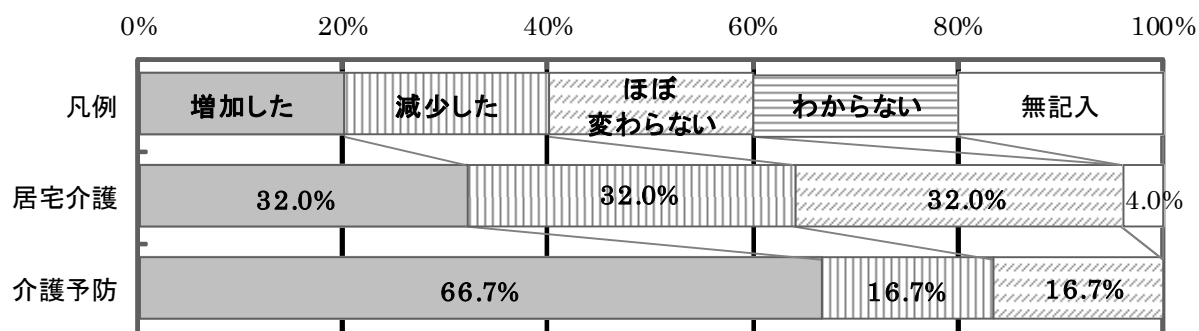
	合 計	職場内・外両方 の研修を受講	職場内研修 のみ受講	職場外研修 のみ受講	研修を受ける 機会なし
合計	99 人 100.0%	65 人 65.7%	10 人 10.1%	22 人 22.2%	2 人 2.0%
居宅介護 支援事業所	75 人	48 人	8 人	17 人	2 人
介護予防 支援事業所	24 人	17 人	2 人	5 人	0 人

2. 運営状況

1) ケアプランの担当件数

1 年前と比べてケアプランの担当件数は、“居宅介護支援事業所”は「増加した」「減少した」「ほぼ変わらない」が各 8 か所ずつで同数（32.0%）となっている。“介護予防支援事業所”は、「増加した」が 4 か所（66.7%）となっている。

《ケアプラン担当件数の動向》

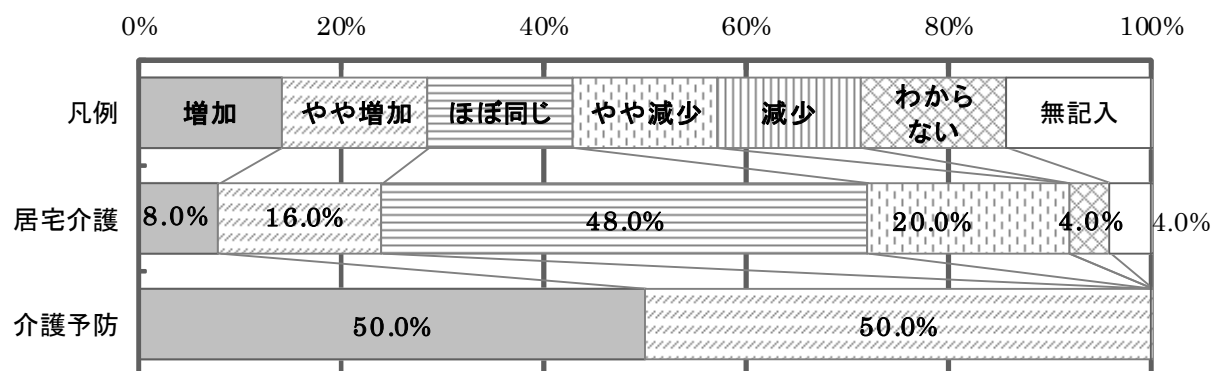


また、増加の理由としては、「利用者の増」があげられている。減少の理由は、「利用者の減」が 5 件、「作成担当ケアマネの減」が 4 件となっている。

2) 利用者数の動向

1 年前と比べて利用者数は、“居宅介護支援事業所”は「ほぼ同じである」が 12 か所（48.0%）となっている。“介護予防支援事業所”は、「増加（2 割以上）している」と「やや増加（1 割程度）している」が各 3 か所ずつとなっている。

《利用者数の動向》

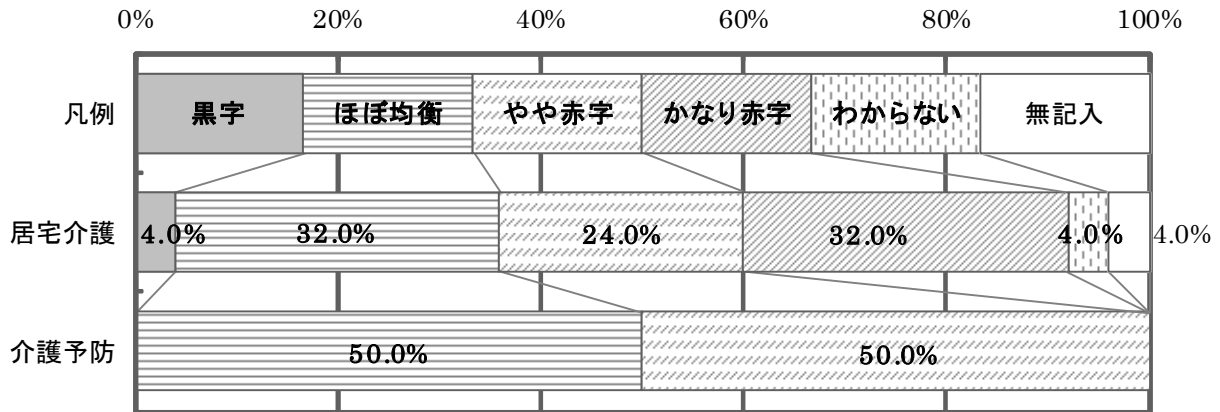


また、減少の理由としては、「施設や病院への入所や入院」などがあげられている。

3) 収支状況

事業所の収支の状況は、“居宅介護支援事業所”は「ほぼ均衡」「かなり赤字」が各8か所ずつで同数（32.0%）となっている。“介護予防支援事業所”は、「ほぼ均衡」と「やや赤字」が各3か所（50.0%）となっている。

《事業所の収支状況》

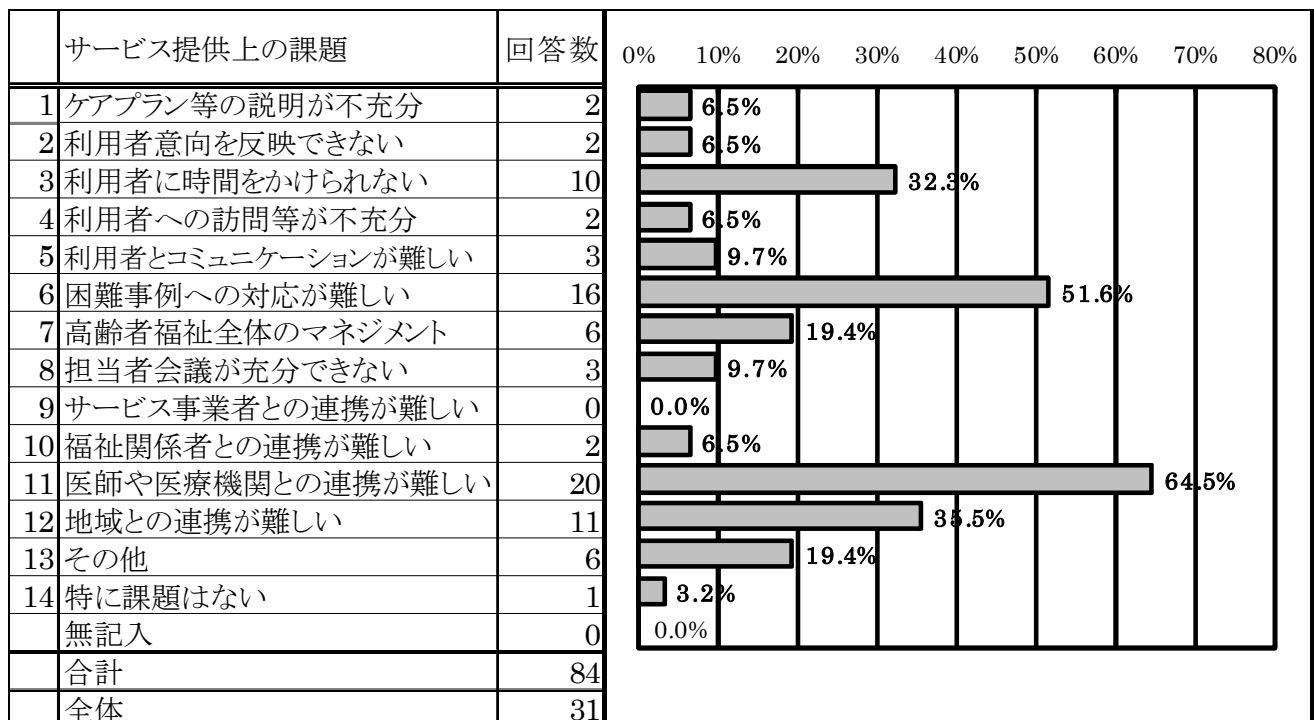


また、赤字の理由としては、「利用者が少ないため」が7件や「その他（ケアプラン作成料が少ないため、人件費など）」が10件あげられている。

4) サービス提供上の課題

サービス提供に際しての課題は、「医師や医療機関との連携が難しいこと」が64.5%、「困難事例への対応が難しいこと」が51.6%、「地域との連携が難しいこと」が35.5%となっている。

《サービス提供上の課題》



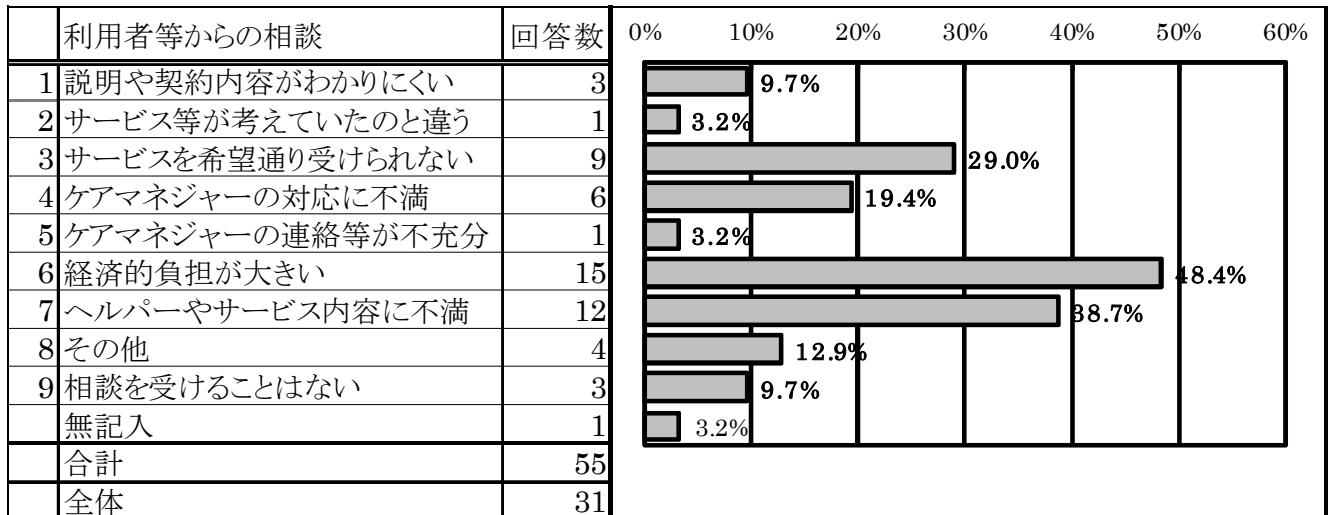
※その他の主な内容：説明するのに理解していただきにくいこと、作成書類が多すぎる など

Ⅲ 居宅介護支援事業所等アンケート調査の結果

5) 利用者や家族からの相談

利用者や家族からの相談内容は、「経済的負担が大きい」が48.4%、「ヘルパーやサービス内容に不満がある」が38.7%、「サービスを希望通り受けられない」が29.0%となっている。

《利用者や家族からの相談》

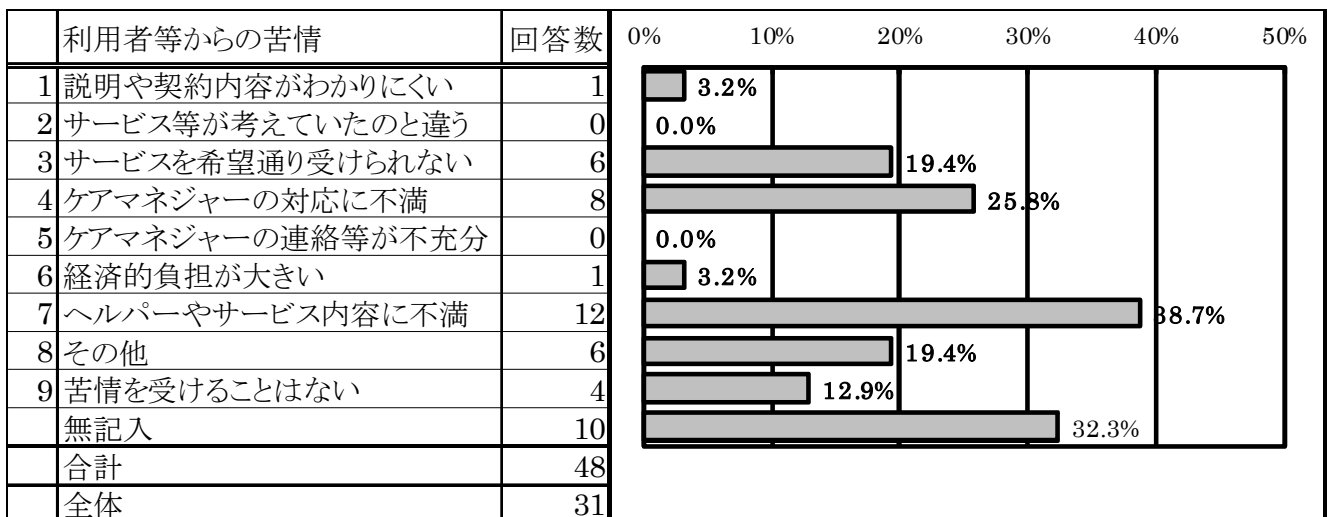


※その他の主な内容：説明しているが理解不足、サービス内容の問い合わせ など

6) 利用者や家族からの苦情

利用者や家族からの苦情の内容は、「ヘルパーやサービス内容に不満がある」が38.7%、「ケアマネジャーの対応に不満がある」が25.8%、「サービスを希望通り受けられない」が19.4%となっている。

《利用者や家族からの苦情》



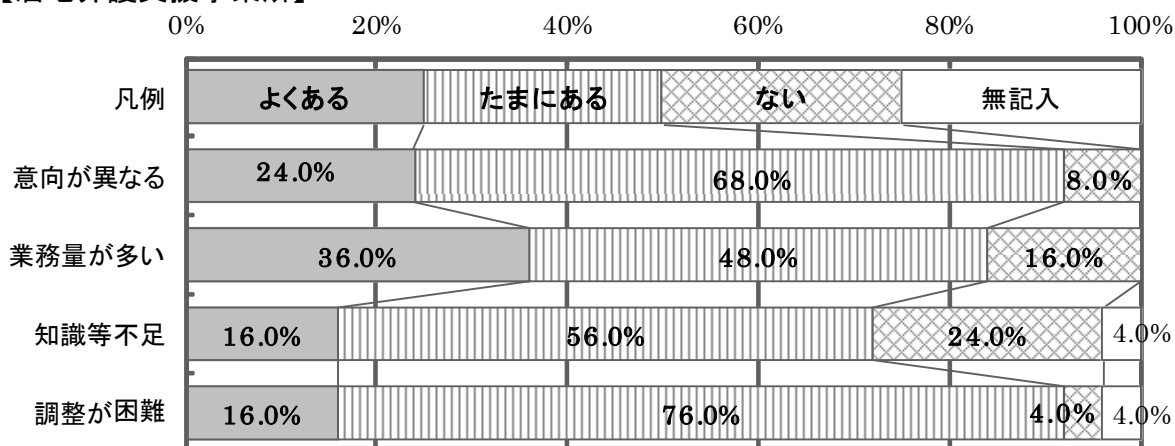
※その他の主な内容：認定が毎回変更になること、ヘルパーと利用者の意向の違い など

7) ケアマネジメント業務の際の課題

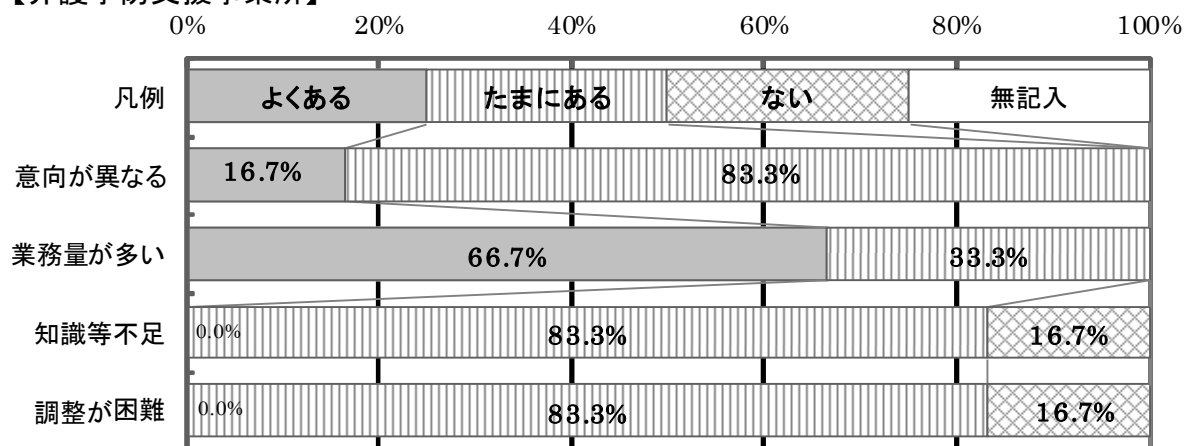
ケアマネジメント業務を行う際に、“利用者と家族で介護に対する意向が異なること”“職員の知識や理解が不足していると感じること”“サービスの調整が難しいこと”については、居宅介護支援事業所・介護予防支援事業ともに「たまにある」が最も多くなっている。また、介護予防支援事業所は、「よくある」ことについて“複数の事例に追われることが多い（業務量が多いこと）”が最も多くなっている。

《ケアマネジメント業務の際の課題》

【居宅介護支援事業所】



【介護予防支援事業所】



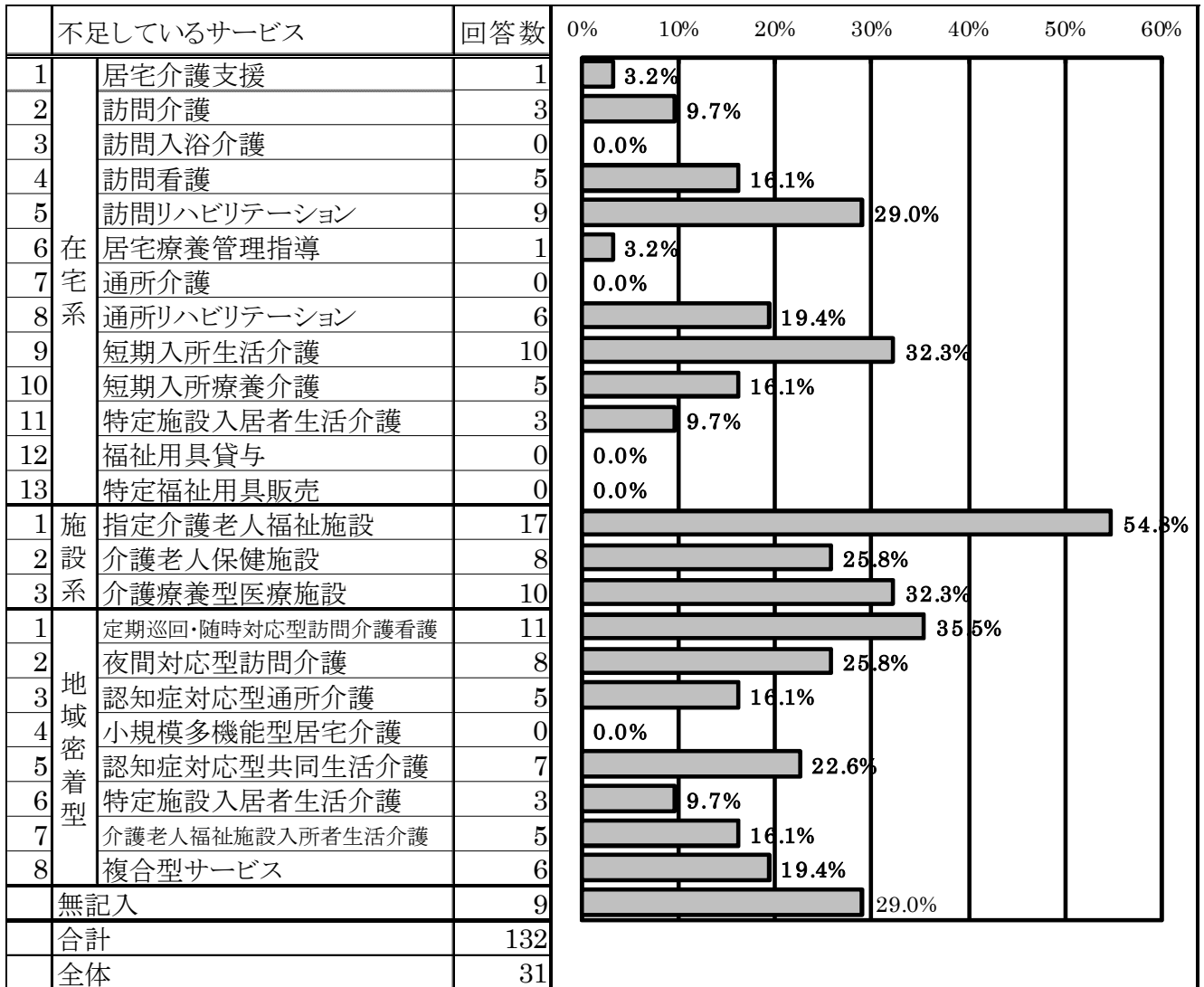
8) 生駒市で不足している介護サービス

本市で不足していると感じる介護サービスとしては、在宅系サービスでは、「短期入所生活介護」が 32.3%、「訪問リハビリテーション」が 29.0%となっている。

施設系サービスでは、「指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が 54.8%、「介護療養型医療施設（療養型病床）」が 32.3%、「介護老人保健施設」が 25.8%となっている。

地域密着型サービスでは「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が 35.5%、「夜間対応型訪問介護」が 25.8%となっている。

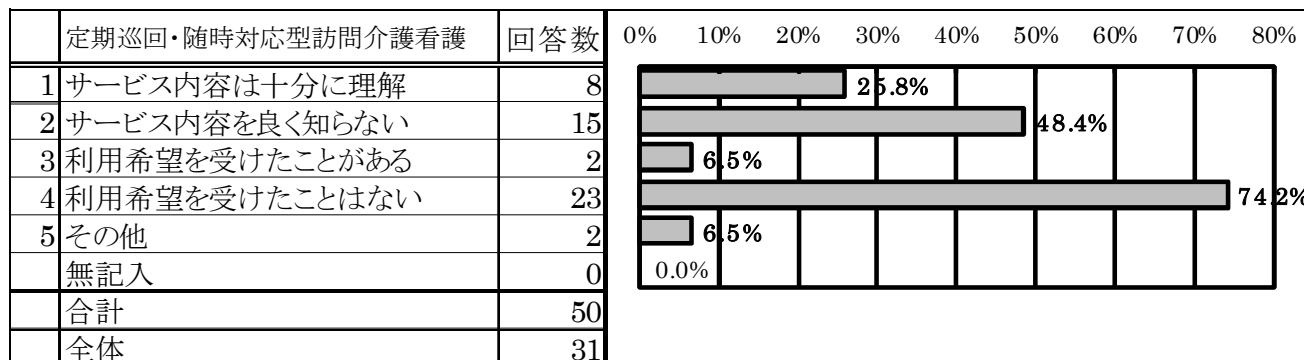
《本市で不足している介護サービス》



9) 地域密着型サービスの周知・利用希望状況

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」は、「サービス内容は十分に理解している」が25.8%、「サービス内容を具体的に良く知らない」が48.4%となっている。また「利用者から利用希望を受けたことがある」は6.5%となっている。

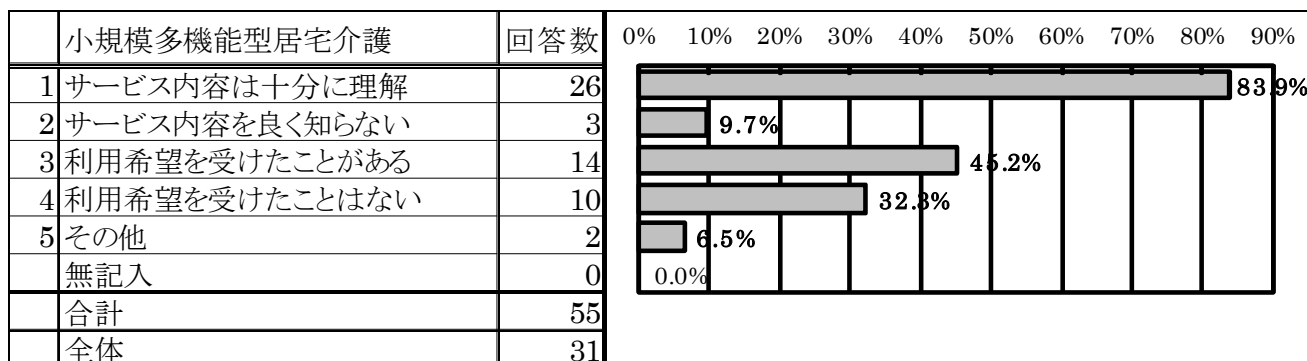
《定期巡回・随時対応型訪問介護看護の周知・利用希望》



※その他の主な内容：必要と思われる家族がいる など

「小規模多機能型居宅介護」は、「サービス内容は十分に理解している」が83.9%、「サービス内容を具体的に良く知らない」が9.7%となっている。また「利用者から利用希望を受けたことがある」は45.2%となっている。

《小規模多機能型居宅介護の周知・利用希望》

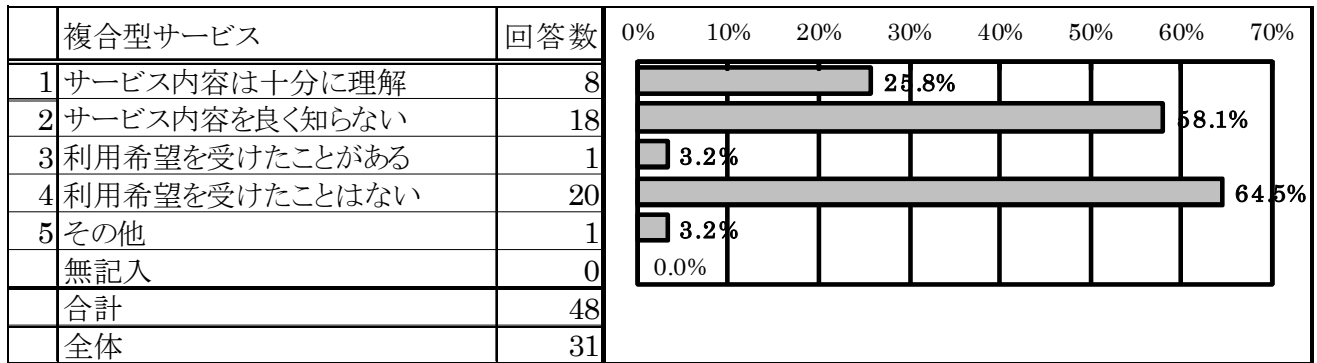


※その他の主な内容：利用を希望されたが、サービスに至らないケースが2件あった など

Ⅲ 居宅介護支援事業所等アンケート調査の結果

「複合型サービス」は、「サービス内容は十分に理解している」が25.8%、「サービス内容を具体的に良く知らない」が58.1%となっている。また「利用者から利用希望を受けたことがある」は3.2%となっている。

《複合型サービスの周知・利用希望》



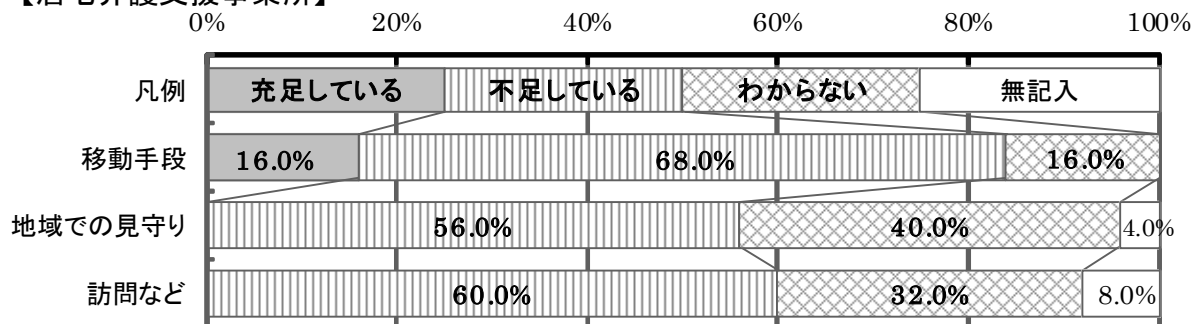
※その他の主な内容：事例を知らないのでどんなものか知りたい

10) 生駒市におけるサービスの状況

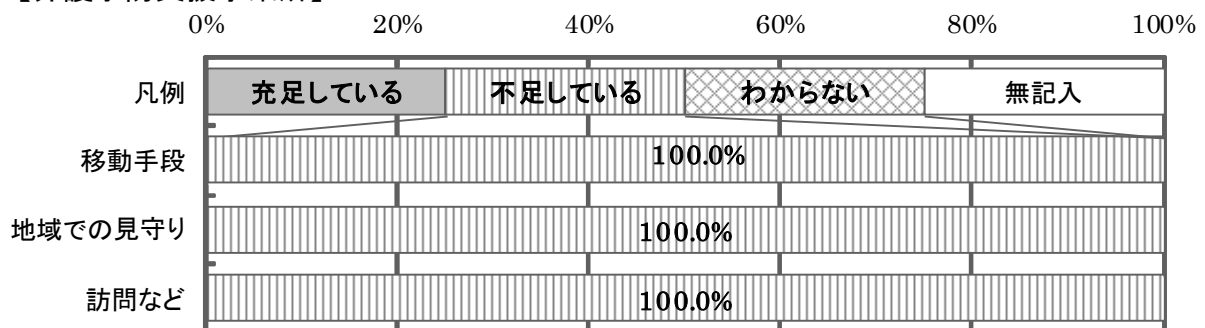
本市における“外出や買物、通院などの移動手段”“地域での見守り”“ボランティアなどによる訪問など”などのサービスについては、「不足している」が半数を超えている。

《本市におけるサービスの過不足の状況》

【居宅介護支援事業所】



【介護予防支援事業所】



また、その他、不足していると思われるサービスとして次のようなものがあげられている。

- ・ 病院内の付き添いボランティア
- ・ 家族が葬儀などの緊急時に利用できるショートステイ
- ・ 往診していただける医師が少なく、高齢の医師に負担をおかけしており、今後の心配。

Ⅲ 居宅介護支援事業所等アンケート調査の結果

- ・ 本市の地形にあった外出の援助や住宅改修の援助
- ・ サービス付き高齢者住宅
- ・ 実費による外出・買い物等の付き添い
- ・ 徘徊等、常に見守りが必要な認知症の方などへの支援や地域ケアシステム
- ・ ごみ出しの支援（あるいは早朝の収集時間の見直しを）。
- ・ 地域での見守りもあると思うが、なかなか地域包括支援センターに相談としてあがってこないことを課題として感じている。地域包括支援センターの周知不足もあろうが、個人情報保護の問題があるように感じている。

IV 介護事業所アンケート調査の結果

1. 事業所の概要

1) 提供しているサービスの種類

現在提供しているサービスは、「通所介護」が 32 か所（回答事業所は 29 か所）、「訪問介護」が 26 か所（同 21 か所）、「特定福祉用具販売」が 7 か所（同 7 か所）となっている。

《圏域別 提供サービスの種類》

		全体	圏域 1	圏域 2	圏域 3	圏域 4	圏域 5	圏域 6	圏域 7	圏域 8	圏域 9	圏域 10
	全体	対象 113 回答 97	17 17	2 2	7 6	14 13	13 13	7 4	28 22	6 6	4 3	15 11
1	訪問介護	対象 26 回答 21	2 2	1 1	1 1	5 5	3 3	3 1	6 4	2 2	2 1	1 1
2	訪問入浴介護	対象 2 回答 2	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —	1 1
3	訪問看護	対象 5 回答 4	1 1	— —	— —	2 1	— —	— —	2 2	— —	— —	— —
4	訪問リハビリテーション	対象 3 回答 2	— —	— —	— —	1 1	1 1	— —	— —	— —	— —	1 0
5	通所介護	対象 32 回答 29	5 5	1 1	1 1	2 2	3 3	2 1	9 7	4 4	1 1	4 4
6	通所リハビリテーション	対象 4 回答 3	— —	— —	— —	1 1	1 1	— —	— —	— —	1 1	1 0
7	福祉用具貸与	対象 6 回答 6	1 1	— —	2 2	1 1	— —	1 1	1 1	— —	— —	— —
8	短期入所生活介護	対象 5 回答 5	2 2	— —	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	2 2
9	短期入所療養介護	対象 2 回答 1	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	1 0
10	特定施設入居者生活介護	対象 5 回答 5	1 1	— —	— —	— —	— —	— —	3 3	— —	— —	1 1
11	特定福祉用具販売	対象 7 回答 7	1 1	— —	2 2	1 1	1 1	1 1	1 1	— —	— —	— —
12	介護老人福祉施設	対象 5 回答 5	2 2	— —	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	2 2
13	介護老人保健施設	対象 2 回答 1	— —	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	— —	— —	1 0
14	認知症対応型共同生活介護	対象 3 回答 2	1 1	— —	— —	— —	1 1	— —	1 0	— —	— —	— —
15	認知症対応型通所介護	対象 2 回答 1	— —	— —	— —	1 1	— —	— —	1 0	— —	— —	— —
16	小規模多機能型居宅介護	対象 4 回答 3	— —	— —	1 0	— —	1 1	— —	2 2	— —	— —	— —

※上段：対象事業所数、下段：回答事業所数

2) 運営主体

回答のあった介護事業所の運営主体は、株式会社が 35.1%、社会福祉法人が 29.9%、有限会社が 16.5%となっている。

また、回答のあった 97 の介護事業所のうち、同一の運営主体が運営している事業所を整理すると、その運営主体は「株式会社」が 20 社、「有限会社」が 9 社、「社会福祉法人」が 6 社、「医療法人」が 5 社、「NPO 法人」が 2 社、「財団法人・社団法人」と「その他（合同会社）」が各 1 社となっている。

《運営主体》

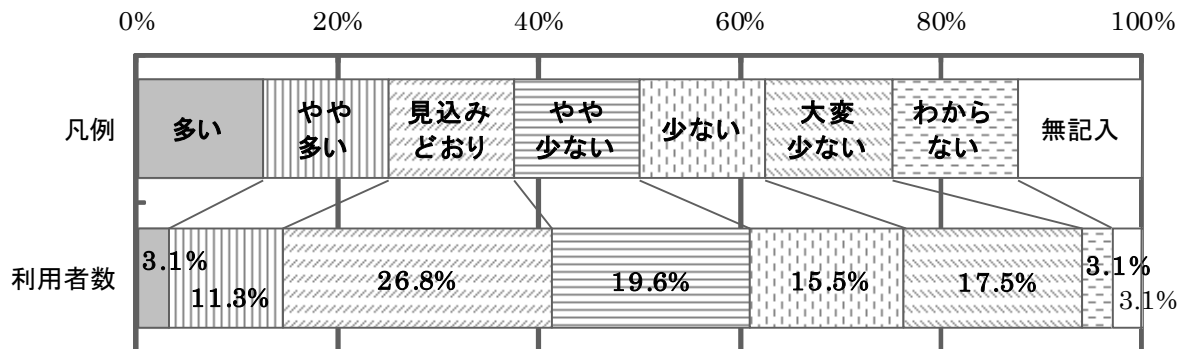
	運営主体	回答数		同一法人数	
1	社会福祉法人	29	29.9%	6	13.6%
2	医療法人	13	13.4%	5	11.4%
3	株式会社	34	35.1%	20	45.5%
4	有限会社	16	16.5%	9	20.5%
5	財団法人・社団法人	2	2.1%	1	2.3%
6	協同組合	0	0.0%	0	0.0%
7	NPO 法人	2	2.1%	2	4.5%
8	その他	1	1.0%	1	2.3%
	全体	97	100.0%	44	100.0

2. 運営状況

1) 見込みに対する利用者数

以前の見込みに対しての利用者数は、「ほぼ見込みどおり」が 26.8%であり、「多い」と「やや多い（1割程度）」は合わせて 14.4%、「やや少ない（1割程度）」と「少ない（2割以上）」と「大変少ない（3割以上）」が合わせて 52.6%となっている。

《見込みに対する利用者数》

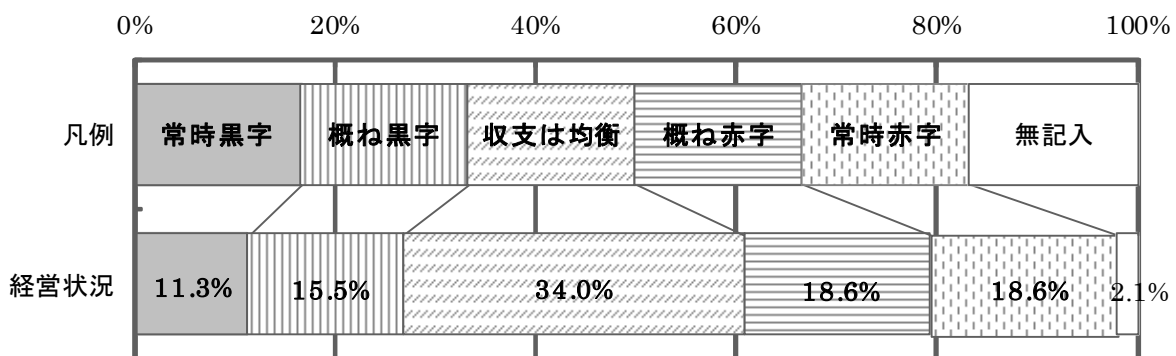


2) 事業所の経営状況

事業所の経営状況は、「収支は均衡している」が 34.0%であり「常時黒字経営である」と「赤字経営の時もあるが概ね黒字経営である」が合わせて 26.8%、「常時赤字経営である」と「黒字経営の時もあるが概ね赤字経営である」が合わせて 37.2%となっている。

なお、赤字経営の理由は、「利用者数が少ない」や「利用者数の減少」などがあげられている。

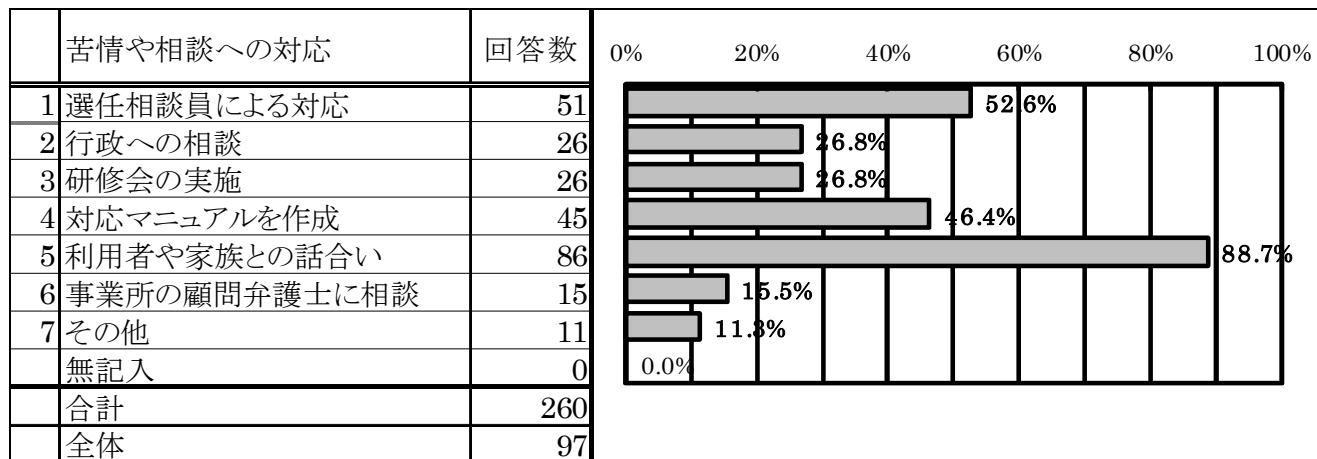
《事業所の経営状況》



3) 利用者からの苦情や相談の対応

利用者から苦情や相談を受けたときは、「利用者や家族との話し合い」が88.7%、「選任相談員による対応」が52.6%、「対応マニュアルを作成」が46.4%となっている。

《利用者からの苦情や相談への対応》

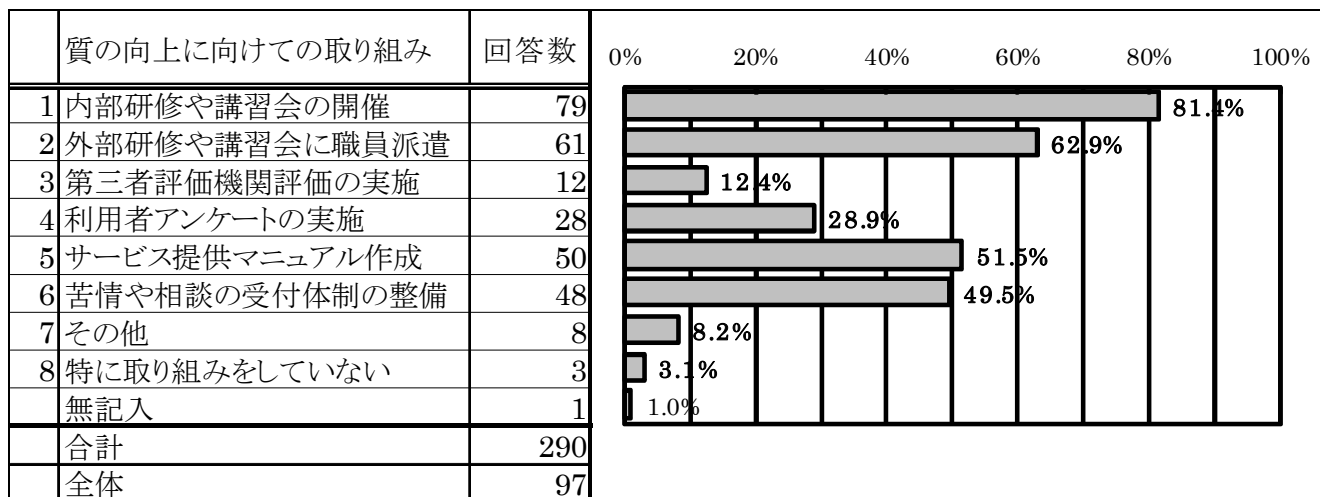


※その他の主な内容：苦情や相談なし、本社に報告・相談 など

4) サービスの質の向上の取り組み

サービスの質の向上に向けての具体的な取り組みとしては、「内部の研修や講習会の開催」が81.4%、「外部の研修や講習会への職員の派遣」が62.9%、「サービス提供マニュアルを作成」が51.5%となっている。

《サービスの質の向上に向けての取り組み》

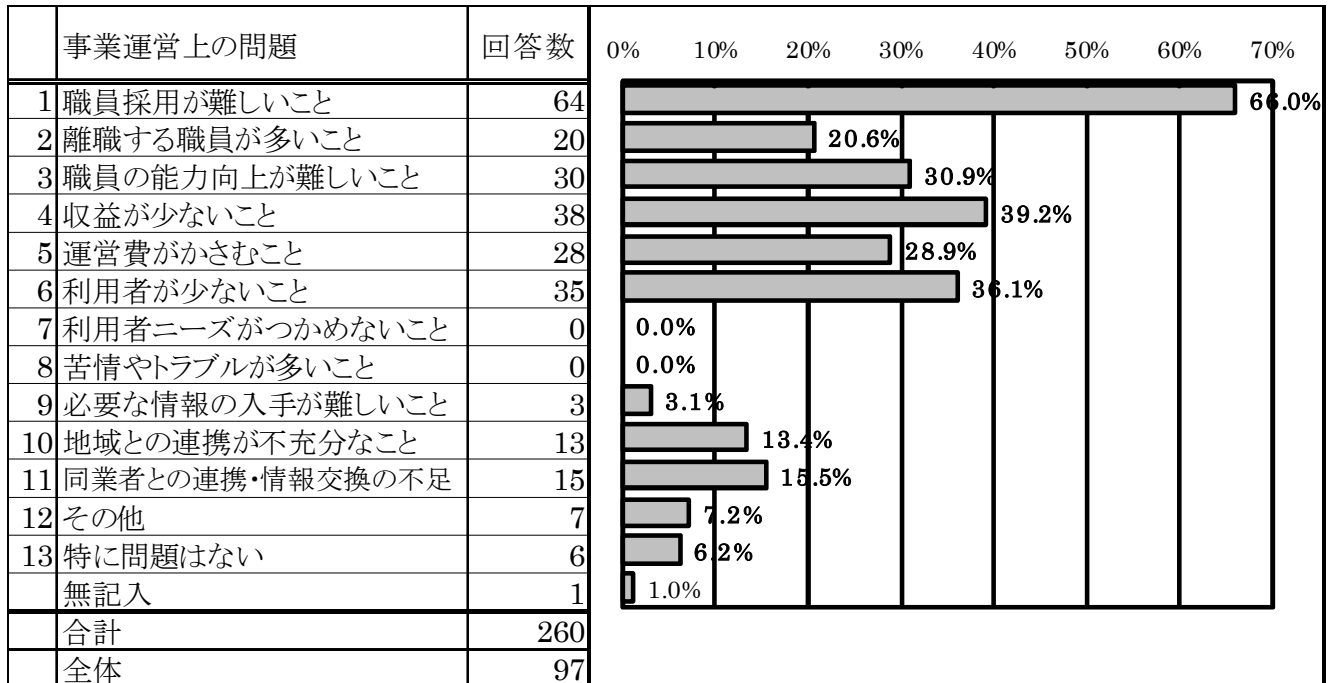


※その他の主な内容：資格取得の支援、スタッフの話し合い など

5) 事業運営上の問題

事業運営上の問題としては、「職員の採用が難しいこと」が66.0%、「収益が少ないこと」が39.2%、「利用者が少ないこと」が36.1%となっている。

《事業運営上の問題》

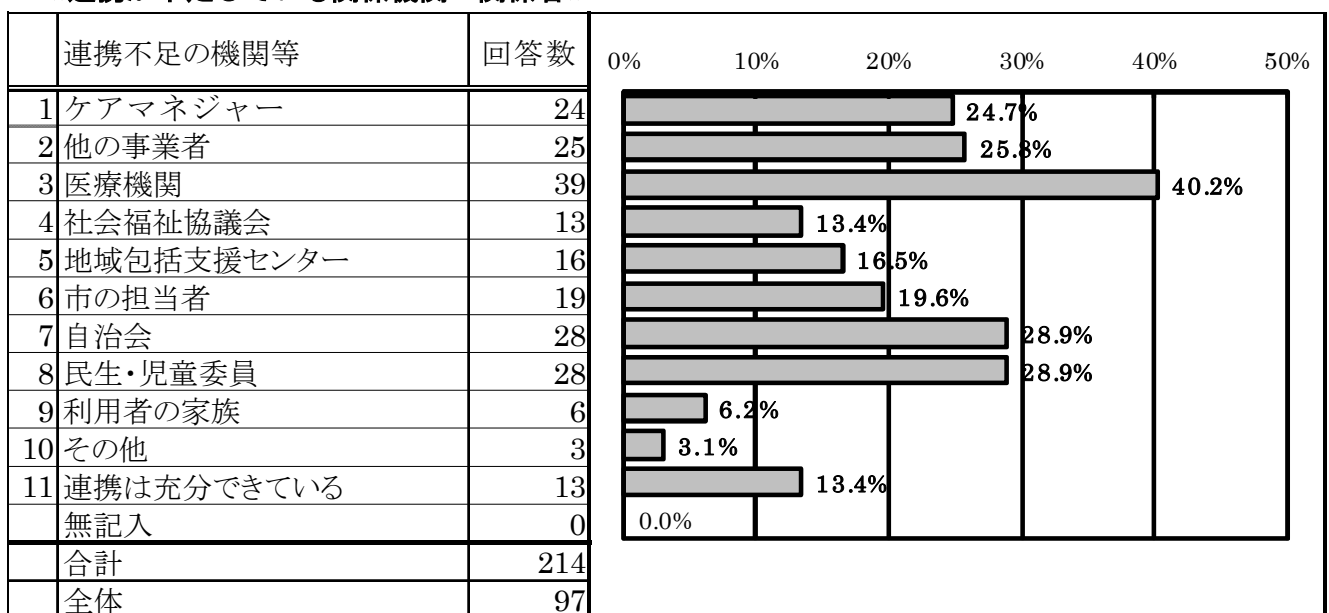


※その他の主な内容：地域への周知不足、介護報酬の少なさ など

6) 連携が不足している関係機関・関係者

連携が不足している関係機関・関係者は、「医療機関」が40.2%、「自治会」と「民生・児童委員」が28.9%、「他の事業者」が25.8%、「ケアマネジャー」が24.7%となっている。

《連携が不足している関係機関・関係者》



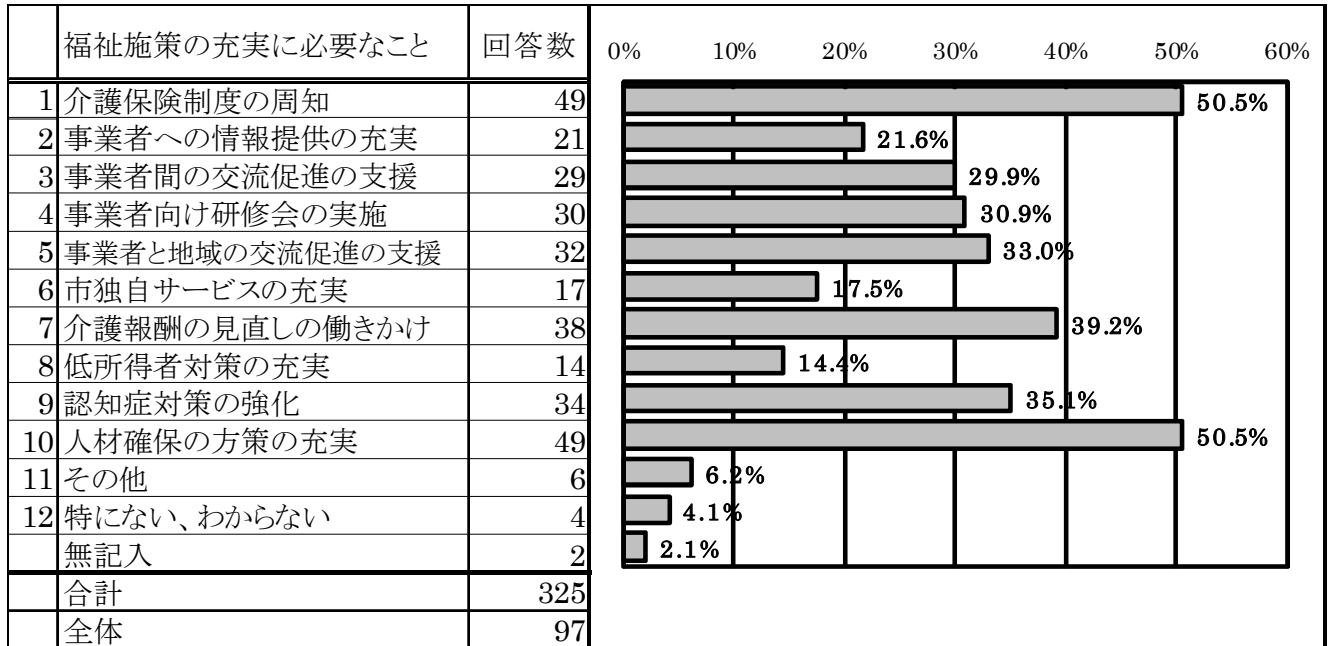
※その他の主な内容：(記述なし)

3. 今後の展開

1) 福祉施策を充実していくために必要なこと

今後、介護保険制度などの福祉施策を充実していくために必要なことは、「介護保険制度を周知すること」と「人材確保の方策を充実すること」がともに 50.5%、「介護報酬の見直しを働きかけること」が 39.2%、「認知症対策を強化すること」が 35.1%、「事業者と地域の交流促進を支援すること」が 33.0%となっている。

《福祉施策を充実していくために必要なこと》

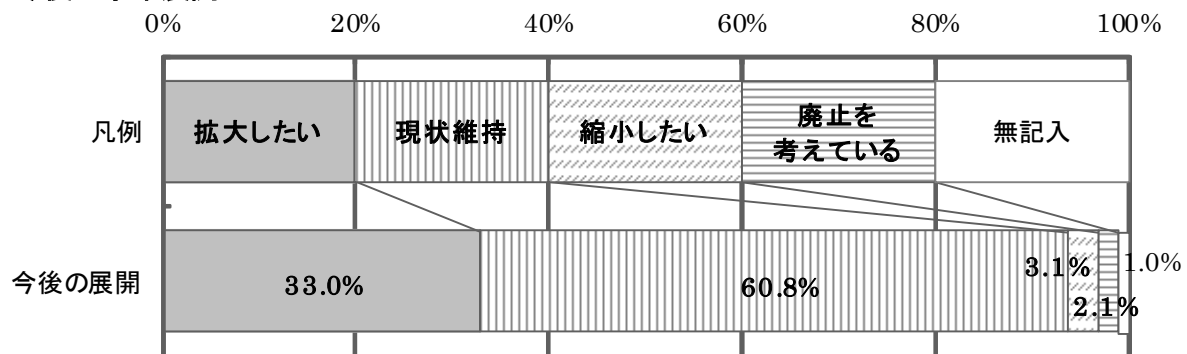


※その他の主な内容：住民への周知・働きかけ など

2) 今後の事業展開

現在提供している介護サービスの今後の事業展開（サービスの提供量）については、「現状維持」が 60.8%、「拡大したい」が 33.0%となっている。

《今後の事業展開》



“拡大したい”理由としては、「安定した経営のため」や「ニーズに応えるため」などがあげられている。

“現状維持”の理由としては、「先が読めない」や「拡大したいが人材確保の目処がたた

ない」などがあげられている。

“縮小したい”理由としては、「利用者数がゼロ」や「人材確保が困難」があげられている。

“廃止を考えている”理由としては、「人材確保がむずかしく、利用者数が少ない」などがあげられている。

3) 新規の事業展開の意向

今後、新規に事業展開したいサービスとして、具体的な取り組みがあるものとしては、「認知症対応型共同生活介護」や「居宅介護支援」などがあげられている。

また、取り組みたいが、今のところ具体的な計画がないものでは、「認知症対応型共同生活介護」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「通所介護」などがあげられている。

4) 行政などへの要望など

市役所や関係機関への意見や要望として次のようなことがあげられている。

① 研修・講習会等に関して

- ・ サービス提供責任者向けの研修を企画してほしい。
- ・ 市内の事業所を集めた研修会、説明会等を開催してほしい。
- ・ ガイドヘルパーの講習等、ヘルパーへの研修を充実させてほしい。
- ・ 介護保険制度の変更等がある時、事業所向けの説明会を実施してほしい。
- ・ 相談員や施設の中核職員同士が気軽に集まって情報交換ができる場があれば。
- ・ 定期的に事業所間の情報交換を行う場を設けてほしい。
- ・ ヘルパー同士の交流を図ることで、サービス内容の統一等を図ることができれば。

② 人材確保・介護報酬に関して

- ・ 人材確保がますます困難である。介護職は世間並みの給与がもらえていない。市としての人材育成確保の対策を。
- ・ 別の場所で新規に取り組みたい意向はあるが、人材確保の見通しがないため、実現できない。
- ・ 国に対して介護報酬の改善を要望書として出していきたい。
- ・ 事業の地域区分による単価の減少が大きい。再検討を。

③ 利用者への周知・紹介に関して

- ・ 地域にどのような施設があるのか、地域住民に周知していただきたい。
- ・ 小規模多機能型サービスの内容を説明すると、知らない人が多すぎる。

④ その他

- ・ サービス事業所が少ない。選択肢が限られている。
- ・ 認知症の人が可能な限り地域で生活できるよう、必要な介護サービスの整備を。
- ・ 要支援者のサービスを地域支援事業に移行することに反対してほしい。
- ・ 事業者それぞれのサービス内容の把握と評価（アウトカム・インカムも含めた）に基づく市の事業計画の立案を。特に介護予防事業に関して事業者とともに立案してほしい。
- ・ 道路が狭く送迎がむずかしい所が多い。

参考 調査票

--

★第6期介護保険事業計画策定のための市民意識調査★

【調査票】

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に入れて、5月21日（水）までに投函してください。

記 入 日	平成 年 月 日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入 2. ご家族が記入 (あて名のご本人からみた続柄 _____) 3. その他 (_____)	

※以下はあて名のご本人の情報を記入してください。

電 話 番 号	—
お 名 前	

生駒市介護保険課

は じ め に

皆様には、日頃から生駒市の市政全般にわたり、ご理解、ご協力をいただきお礼申しあげます。

さてこのほど、生駒市では、介護保険事業及び高齢者保健福祉施策等の充実を図るため、第6期生駒市介護保険事業計画並びに高齢者保健福祉計画を策定することといたしました。

つきましては、皆様の保健福祉に関わる生活状況やご意見などをお聞きし、計画づくりに反映させたいと考えているところでございます。

恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださるよう、よろしくお願いいたします。

なお、収集した個人情報健康情報という利用者様にとって大切な個人情報であるという認識にたち、生駒市個人情報保護条例に基づく適正な取り扱いを行います。

平成26年5月

生駒市介護保険課

記 入 に 際 し て の お 願 い

1. この調査の対象者は、平成26年4月1日現在、65歳以上の方です。
2. ご回答にあたってはご本人についてお答えいただきますが、ご家族の方がご本人の代わりに回答されたり、一緒に回答されてもかまいません。
3. ご回答にあたっては質問をよくお読みいただき、該当する番号を○で囲み、数字を記入する欄は右詰め（例.

0	6	2
---	---	---

 kg）でご記入ください。
4. この調査で使う用語の意味は、以下の通りです。
介護…介護保険のサービスを受けている場合のほか、認定を受けていない場合でも、
常時ご家族などの援助を受けている状態
介助…ご自分の意思により、一時的に他人に援助を頼んでいる状態
5. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。
6. 調査票記入後は、3つ折りで同封の返信用封筒に入れてお送りください。

問合せ先 生駒市介護保険課
電話 74-1111
(内線 483~488)

質問の該当する答えの番号に○をつけ、数字記入欄は数字を記入してください。

問1	あなたのご家族や生活状況について		
Q1. 家族構成をお教えてください。 1. 一人暮らし 2. 家族など同居（二世帯住宅を含む） 3. その他（施設入居など） ⇒Q2へ ⇒Q1-1、2へ ⇒Q2へ			
（家族など同居されている方のみ） Q1-1. ご自分を含めて何人で暮らしていますか。また、同居されている方はどなたですか。（いくつでも） 人 1. 配偶者（夫・妻） 2. 息子 3. 娘 4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟・姉妹 7. その他			
Q1-2. （家族など同居されている方のみ）日中、一人になることがありますか。 1. よくある 2. たまにある 3. ない			
Q2. あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。 1. 介護・介助は必要ない ⇒Q3へ 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない ⇒Q2-1へ 3. 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む） ⇒Q2-1～3へ			
Q2-1. （介護や介助が必要な方のみ）介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも） 1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） 2. 心臓病 3. がん（悪性新生物） 4. 呼吸器の病気（肺炎等） 5. 関節の病気（リウマチ等） 6. 認知症（アルツハイマー病等） 7. パーキンソン病 8. 糖尿病 9. 視覚・聴覚障害 10. 骨折・転倒 11. 脊椎損傷 12. 高齢による衰弱 13. その他（ ） 14. 不明			
Q2-2. （介護や介助を受けている方のみ）主にどなたの介護・介助を受けていますか。 1. 配偶者（夫・妻） 2. 息子 3. 娘 4. 子の配偶者 5. 孫 6. 兄弟・姉妹 7. 介護サービスのヘルパー 8. その他（ ）			
Q2-3. （介護や介助を受けている方のみ）主に介護・介助している方の年齢は、次のどれですか。 1. 65歳未満 2. 65～74歳 3. 75～84歳 4. 85歳以上			
Q3. 年金の種類は次のどれですか。 1. 国民年金 2. 厚生年金（企業年金あり） 3. 厚生年金（企業年金なし） 4. 共済年金 5. 無年金 6. その他			
Q4. 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。 1. 苦しい 2. やや苦しい 3. ややゆとりがある 4. ゆとりがある			
Q5. お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。 1. 一戸建て 2. 集合住宅			
Q6. お住まいは、次のどれにあたりますか。 1. 持家 2. 民間賃貸住宅 3. 公営賃貸住宅（市・県営、都市機構、公社等） 4. 借間 5. その他			
Q7. お住まい（主に生活する部屋）は2階以上にありますか。 1. はい 2. いいえ ⇒Q7-1へ ⇒問2へ			
Q7-1. （2階以上の方）お住まいにエレベーターは設置されていますか。 1. はい 2. いいえ			

問2 運動・閉じこもりについて		
Q1. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	1. はい	2. いいえ
Q2. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	1. はい	2. いいえ
Q3. 15分位続けて歩いていますか。	1. はい	2. いいえ
Q4. 5m以上歩けますか。	1. はい	2. いいえ
Q5. 週に1回以上は外出していますか。	1. はい	2. いいえ
Q6. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。	1. はい	2. いいえ
Q7. 外出を控えていますか。	1. はい	2. いいえ ⇒Q7-1へ ⇒Q8へ
Q7-1. (外出を控えている方のみ) 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)		
1. 病気 2. 障害(脳卒中の後遺症など) 3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など) 5. 耳の障害(聞こえの問題など) 6. 目の障害 7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない 9. 交通手段がない 10. その他()		
Q8. 買物、散歩で外出する頻度はどのくらいですか。(それぞれ1つ)		
A. 買物… 1. ほぼ毎日 2. 週4~5日 3. 週2~3日 4. 週1日 5. 週1日未満 B. 散歩… 1. ほぼ毎日 2. 週4~5日 3. 週2~3日 4. 週1日 5. 週1日未満		
Q9. 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも)		
1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車(自分で運転) 5. 自動車(人に乗せてもらう) 6. 電車 7. 路線バス 8. 病院や施設のバス 9. 車いす 10. 電動車いす(カート) 11. 歩行器・シルバーカー 12. タクシー 13. その他()		

問3 転倒について		
Q1. この1年間に転んだことがありますか。	1. はい	2. いいえ
Q2. 転倒に対する不安は大きいですか。	1. はい	2. いいえ
Q3. 背中が丸くなってきましたか。	1. はい	2. いいえ
Q4. 以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか。	1. はい	2. いいえ
Q5. 杖を使っていますか。	1. はい	2. いいえ

問4 口腔・栄養について	
Q1. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい 2. いいえ
Q2. 身長 cm 体重 kg	
Q3. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい 2. いいえ
Q4. お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい 2. いいえ
Q5. 口の渇きが気になりますか。	1. はい 2. いいえ
Q6. 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。	1. はい 2. いいえ
Q7. 定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか。	1. はい 2. いいえ
Q8. 入れ歯を使用していますか。	1. はい 2. いいえ ⇒Q8-1、2へ ⇒Q9へ
Q8-1. （入れ歯のある方のみ）噛み合わせは良いですか。	1. はい 2. いいえ
Q8-2. （入れ歯のある方のみ）毎日入れ歯の手入れをしていますか。	1. はい 2. いいえ
Q9. 1日の食事の回数は何回ですか。	1. 朝昼晩の3食 2. 朝晩の2食 3. 朝昼の2食 4. 昼晩の2食 5. 1食 6. その他
Q10. 食事を抜くことがありますか。	1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. ほとんどない
Q11. 自分一人ではなく、どなたかと食事をともにする機会がありますか。	1. 毎日ある 2. 週に何度かある 3. 月に何度かある 4. 年に何度かある 5. ほとんどない ⇒Q11-1へ ⇒Q11-1へ ⇒Q11-1へ ⇒Q11-1へ ⇒問5へ
Q11-1. （どなたかと食事をともにする機会がある方のみ）食事をともにする人はどなたですか。（いくつでも）	1. 家族 2. 近所の人や友人 3. デイサービスの仲間 4. その他

問5 物忘れについて	
Q1. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか。	1. はい 2. いいえ
Q2. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	1. はい 2. いいえ
Q3. 今日が何月何日かわからない時がありますか。	1. はい 2. いいえ
Q4. 5分前のことが思い出せますか。	1. はい 2. いいえ
Q5. その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか。	1. 困難なくできる 2. いくらか困難であるが、できる 3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要 4. ほとんど判断できない

Q 6. 人に自分の考えをうまく伝えられますか。

1. 伝えられる 2. いくらか困難であるが、伝えられる 3. あまり伝えられない
4. ほとんど伝えられない

問 6 日常生活について

Q 1. バスや電車で一人で外出していますか。（自家用車でも可）

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q 2. 日用品の買物をしていますか。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⇒Q3 へ ⇒Q2-1 へ ⇒Q2-1 へ

Q 2-1. （日用品の買物をしていない、できない方のみ）日用品の買物をする人は主にどなたですか。

1. 同居の家族 2. 別居の家族 3. ヘルパー 4. 配達を依頼 5. その他

Q 3. 自分で食事の用意をしていますか。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⇒Q4 へ ⇒Q3-1 へ ⇒Q3-1 へ

Q 3-1. （自分で食事の用意をしていない、できない方のみ）食事の用意をする人は主にどなたですか。

1. 同居の家族 2. 別居の家族 3. ヘルパー 4. 配食サービス利用 5. その他

Q 4. 請求書の支払いをしていますか。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q 5. 預貯金の出し入れをしていますか。

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

Q 6. 食事は自分で食べられますか。

1. できる 2. 一部介助（おかずを切ってもらうなど）があればできる 3. できない

Q 7. 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか。

1. 受けない 2. 一部介助があればできる 3. 全面的な介助が必要

Q 8. 座っていることができますか。

1. できる 2. 支えが必要 3. できない

Q 9. 自分で洗面や歯磨きができますか。

1. できる 2. 一部介助があればできる 3. できない

Q 10. 自分でトイレができますか。

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q 11. 自分で入浴ができますか。

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q 12. 50m以上歩けますか。

1. できる 2. 一部介助（他人に支えてもらう）があればできる 3. できない

Q 13. 階段を昇り降りできますか。 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

Q 14. 自分で着替えができますか。 1. できる 2. 介助があればできる 3. できない

Q15. 大便の失敗がありますか。	1. ない	2. ときどきある	3. よくある
Q16. 尿もれや尿失禁がありますか。	1. ない	2. ときどきある	3. よくある
Q17. 家事全般ができていますか。	1. できている	2. できていない	

問7	社会参加について		
Q1. 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。	1. はい	2. いいえ	
Q2. 新聞を読んでいますか。	1. はい	2. いいえ	
Q3. 本や雑誌を読んでいますか。	1. はい	2. いいえ	
Q4. 健康についての記事や番組に関心がありますか。	1. はい	2. いいえ	
Q5. 友人の家を訪ねていますか。	1. はい	2. いいえ	
Q6. 家族や友人の相談にのっていますか。	1. はい	2. いいえ	
Q7. 病人を見舞うことができますか。	1. はい	2. いいえ	
Q8. 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい	2. いいえ	
Q9. 趣味はありますか。	1. はい	2. いいえ	
Q10. 生きがいがありますか。	1. はい	2. いいえ	
Q11. 以下のような会やグループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。			
(1) ボランティアのグループ			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(2) スポーツ関係のグループやクラブ			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(3) 趣味関係のグループ			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(4) 老人クラブ			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(5) 町内会・自治会			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(6) 学習・教養サークル			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			
(7) その他の団体や会			
1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1～3回 5. 年に数回 6. 参加していない			

Q 1 2. 以下のような活動（社会参加活動や仕事）をどのくらいの頻度でしていますか。 （１）見守りが必要な高齢者を支援する活動 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 参加していない
（２）介護が必要な高齢者を支援する活動 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 参加していない
（３）子どもを育てている親を支援する活動 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 参加していない
（４）地域の生活環境の改善（美化）活動 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 参加していない
（５）収入のある仕事 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 参加していない
Q 1 3. あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします。 あてはまるものすべてに○をしてください。あてはまる人がいない場合は「８. そのような人はいない」に○をつけてください。 （１）あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも） 1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない
（２）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも） 1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない
（３）あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも） 1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない
（４）反対に、看病や世話をしてあげる人（いくつでも） 1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人 7. その他（ ） 8. そのような人はいない
Q 1 4. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも） 1. 自治会・町内会・老人クラブ 2. 社会福祉協議会・民生委員 3. ケアマネジャー 4. 医師・歯科医師・看護師 5. 地域包括支援センター・市役所 6. その他 7. そのような人はいない
Q 1 5. 友人関係についておうかがいします。 （１）友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。 1. 週４回以上 2. 週２～３回 3. 週１回 4. 月１～３回 5. 年に数回 6. 会っていない
（２）この１ヶ月間、何人の友人・知人と会いましたか。 同じ人には何度会っても１人と数えることとします。 1. ０人（いない） 2. １～２人 3. ３～５人 4. ６～９人 5. １０人以上
（３）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも） 1. 近所・同じ地域の人 2. 幼なじみ 3. 学生時代の友人 4. 仕事での同僚・元同僚 5. 趣味や関心が同じ友人 6. ボランティア等の活動での友人 7. その他 8. いない

問8	健康について
Q1. 普段、ご自分で健康だと思いますか。	
1. とても健康 2. まあまあ健康 3. あまり健康でない 4. 健康でない	
Q2. 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)	
1. 高血圧 2. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等) 3. 心臓病 4. 糖尿病 5. 高脂血症(脂質異常) 6. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等) 7. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 8. 腎臓・前立腺の病気 9. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等) 10. 外傷(転倒・骨折等) 11. がん(新生物) 12. 血液・免疫の病気 13. うつ病 14. 認知症(アルツハイマー病等) 15. パーキンソン病 16. 目の病気 17. 耳の病気 18. その他() 19. ない	
Q3. 現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。	
1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類 4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない	
Q4. 現在、病院・医院(診療所、クリニック)に通院していますか。 1. はい 2. いいえ ⇒Q4-1、2へ ⇒Q5へ	
Q4-1. (通院している方のみ) その頻度は次のどれですか。	
1. 週1回以上 2. 月2~3回 3. 月1回程度 4. 2ヶ月に1回程度 5. 3ヶ月に1回程度	
Q4-2. (通院している方のみ) 通院に介助が必要ですか。 1. はい 2. いいえ	
Q5. 以下の在宅サービスを利用していますか。(いくつでも)	
1. 訪問診療(医師の訪問) 2. 訪問介護 3. 夜間対応型訪問介護 4. 訪問入浴介護 5. 訪問看護 6. 訪問リハビリテーション 7. 通所介護(デイサービス) 8. 認知症対応型通所介護 9. 通所リハビリテーション(デイケア) 10. 小規模多機能型居宅介護 11. 短期入所(ショートステイ) 12. 医師や薬剤師などによる療養上の指導(居宅療養管理指導) 13. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 14. 複合型サービス 15. その他()	
Q6. お酒は飲みますか。	
1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない	
Q7. タバコは吸っていますか。	
1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない	
Q8. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない。 1. はい 2. いいえ	
Q9. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった。 1. はい 2. いいえ	
Q10. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。 1. はい 2. いいえ	
Q11. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない。 1. はい 2. いいえ	
Q12. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする。 1. はい 2. いいえ	

問9 生駒市の高齢者福祉について

Q1. あなたは、高齢者支援、健康づくり、自治会、防災・防犯、環境美化、子育て支援などの地域活動・ボランティア活動を役員やスタッフとして関わっていますか。

1. 現在、継続的に関わっている（1週間に1回以上）
2. たまに、関わったことがある（半年に1回以上）
3. 以前関わったことがあるが、現在はほとんどしていない
4. 関わったことはない

Q2. あなたは、今後、Q1のような地域活動・ボランティア活動などに関わっていきたいと考えていますか。

1. 積極的に関わっていきたい ⇒Q2-1へ
2. できるだけ、関わっていきたい ⇒Q2-1へ
3. 機会があれば、関わってもよい ⇒Q2-1へ
4. 関わりたいが、できない

できない理由は何ですか（簡潔に：_____）

5. あまり関わりたくない

Q2-1.（Q2で1～3と答えた方のみ）あなたは、どのようなことがあれば、活動が活発になると思いますか。（いくつでも）

1. 活動情報の提供があること
2. 活動や団体を紹介してくれること
3. 友人などといっしょに参加できること
4. 時間や期間にあまりしばられないこと
5. 身近なところで活動できること
6. 適切な指導者やリーダーがいること
7. 身体的な負担が少ないこと
8. 金銭的な負担が少ないこと
9. 活動に対する一定の収入や助成があること
10. その他（具体的に：_____）
11. わからない

Q3. あなたがお住まいの地域には、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）はあると感じますか。

1. とても感じる
2. 少し感じる
3. あまり感じない
4. 感じない
5. わからない

Q4. あなたは暮らしの中で、地域のつながり（住民同士の助け合い・支え合いなど）は必要だと思いますか。

1. とても必要だと思う
2. どちらかといえば、必要だと思う
3. どちらかといえば、必要ないと思う
4. 必要ないと思う
5. わからない

Q5. あなたは、地域において高齢者が気軽に参加できる居場所（サロンや体操教室、囲碁、カラオケ、集会所の催しなど）があれば、どのくらいの頻度で参加したいですか。

1. 週1回以上
2. 2週間に1回程度
3. 1ヶ月に1回程度
4. 数ヶ月に1回程度
5. 1年に1回程度
6. 参加したくない
7. わからない

Q 6. 高齢者の権利や生活を守るための制度や相談窓口として次のようなものがありますが、あなたの知っているものはありますか。(いくつでも)

1. 地域福祉権利擁護事業……判断能力が不十分な人に対して、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理等を支援する仕組み
2. 成年後見制度……判断能力が不十分であるために、意思決定が困難である人の判断能力を後見人等が補っていくことによって、法的に保護する制度
3. ひとり暮らし高齢者調査……満65歳以上のひとり暮らし高齢者を民生委員が訪問し、緊急時対応の連絡先などの実態把握を目的に毎年実施
4. 消費生活センター……買物相談をはじめ、悪質商法の被害など、市民の消費生活に関するさまざまなトラブルや相談に対応
5. 地域包括支援センター……住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることができるよう、介護予防サービスをはじめ、さまざまなサービスを包括的に提供する総合的な相談窓口
6. 社会福祉協議会……地域の中で安心した生活を送ることができるよう、福祉関係者や地域住民が主体となり、社会福祉と保健衛生などの活動を展開

Q 7. あなたは、高齢者虐待に関する次の内容を知っていますか。(いくつでも)

1. 法律の目的は、高齢者の権利利益の擁護であり、虐待する者を罰することではないこと
2. 虐待の一つが身体的虐待であること(身体に外傷が生じるような暴力など)
3. 虐待の一つが放棄・放任であること(食事をとらせない、長時間の放置など)
4. 虐待の一つが心理的虐待であること(著しい暴言や脅し、侮辱、無視、嫌がらせなど)
5. 虐待の一つが性的虐待であること(高齢者にわいせつな行為をすることなど)
6. 虐待の一つが経済的虐待であること(高齢者の財産を不当に処分したり、本人の合意なしに金銭を使用したりすることなど)
7. 高齢者虐待が高齢者本人・養護者ともに自覚をしているか問わないこと
8. いずれも知らない

Q 8. あなたは、仮に身の回りのことを自分でできなくなったとき、どこで生活したいと思いますか。第1希望から第3希望について、下記の番号をご記入ください。

①第1希望 () ②第2希望 () ③第3希望 ()

1. 自宅……在宅介護サービスなどを利用
2. 高齢者専用賃貸住宅……入居者を高齢者に限定した高齢者向けの居室や設備の条件が定められている住宅
3. 小規模多機能施設……利用者の状態や必要に応じて、「通い」「泊まり」「訪問」のサービスを組み合わせて提供する在宅介護サービス
4. 介護付き有料老人ホーム……民間事業者によって運営される介護施設であり、施設内容や料金などによって選択が可能
5. 認知症対応型グループホーム……認知症の方が、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、食事や入浴などの日常生活上の支援や機能訓練などのサービスを受ける施設
6. 介護施設……要介護認定を受けた方が入所できる特別養護老人ホームや介護老人保健施設
7. その他(具体的に: _____)
8. わからない

Q 9. あなたは、在宅生活を続ける上で、現在もしくは今後利用したいと思う有償サービスや取り組みはどれですか。(いくつでも)

1. 外出支援(買い物や通院等) 2. 調理支援 3. 掃除支援 4. ごみ出しや電球の交換など
5. 配食サービス 6. 会食サービス 7. 見守りや声掛け 8. 話し相手
9. 体操・運動レッスン 10. 緊急時の通報システム 11. 金銭管理(成年後見制度等)
12. その他(具体的に: _____)

Q 10. 自宅で介護を行う家族のためにあると良いと思う支援は、次のうちどれですか。(いくつでも)

1. 家族介護者教室(介護の知識や技術の指導)
2. 紙おむつ等支給事業
3. 介護者相互の交流会や親睦会
4. 介護者の代わりに認知症の在宅高齢者の見守りや話し相手をするなどの支援員の派遣
5. 介護者がリフレッシュできる企画(_____)
6. その他(具体的に: _____)

Q 11. あなたは、生駒市の高齢者保健福祉施策として、特に力を入れるべきことは次のうちどれだと考えますか。(3つまで)

1. 趣味や生きがいづくり、社会参加への支援
2. 働く機会や場所づくり
3. ボランティアや地域活動の充実
4. 介護が必要にならないための健康づくりなどの支援
5. 自立生活のための家事(炊事・洗濯・掃除など)についての指導やサポート
6. 介護保険サービスの充実(ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ)
7. ひとり暮らしなどの高齢者見守りや支え合う地域づくりへの支援
8. 地域における高齢者の総合相談機能(地域包括支援センター)の充実
9. 移送サービスや公共交通などの交通機関の充実
10. 住まいの改修(リフォーム)に関する情報提供等の支援
11. 段差などがなく利用しやすい公共施設・交通機関の整備
12. 特別養護老人ホームやグループホームなどの入所施設の整備
13. 医療費の自己負担分や介護保険料を助成する事業
14. その他(具体的に: _____)
15. わからない

問10 健康づくり・介護予防・認知症について

Q1. あなたは、今後、健康を維持するためにどのようなことが必要だと思いますか。
(いくつでも)

1. 定期的な健康診断
2. がん検診
3. 歯の健康に関する相談
4. 食事や栄養バランス等に関する相談
5. 運動ができる場や機会等に関する情報提供
6. 禁煙に関する相談
7. 地域での自主的な健康づくり活動への支援
8. 健康づくりについて学ぶ場の提供
9. 使ってみたいサービスはない
10. わからない

Q2. 脱水症を予防するためには、一般的には1日に約1,500ml以上の水分摂取が必要といわれています。あなたは、コップ1杯200mlとして1日どの程度水分を摂取していますか。

1. コップ3杯以下
2. コップ4～5杯程度
3. コップ6～7杯程度
4. コップ8杯以上

Q3. 生駒市では、認知症予防や寝たきりを防止するためにさまざまな介護予防事業を実施しています。あなたは、次の事業を知っていますか。(いくつでも)

1. わくわく教室……閉じこもり防止のための健康体操やレクリエーションをみんなで行う教室
2. 高齢者体操教室(のびのび教室)……運動によって体の機能を維持・向上させる教室
3. 高齢者体操教室(地域型)……運動によって体の機能を維持・向上させる住民主体の教室
4. 脳の若返り教室……認知症予防のための脳を鍛える教室
5. 物忘れ相談……物忘れや認知症状の悩みや相談に対しての精神科医師による相談
6. 介護予防教室……地域包括支援センターによる介護予防の基本を学ぶ教室
7. パワーアップ教室……外出が困難な方の筋力や体力を向上させる教室
8. ひまわりの集い……レクリエーションや会食などで仲間づくりを行うサロン
9. 転倒予防教室……転倒予防のための体作りの運動教室
10. いずれも知らない

Q4. あなたは、介護予防のために普段どのような取り組みをしていますか。(いくつでも)

1. 散歩やジョギングをしている
2. ラジオ体操や健康体操などの運動をしている
3. バランスのとれた食生活をしている
4. 歯や口の中の衛生に気を配っている
5. 認知症予防に取り組んでいる(クロスワードパズル、囲碁、将棋、ゲームなど)
6. その他(具体的に: _____)
7. 特にない

Q5. あなたは、介護予防について知りたいことはありますか。(いくつでも)

1. 転倒・骨折予防の運動について
2. 望ましい食生活について
3. 認知症予防や認知症の症状について
4. うつ・閉じこもり予防について
5. 寝たきり予防について
6. 歯や口の健康について
7. その他(具体的に: _____)
8. 特にない

Q 6. あなたは、健康づくりや介護予防事業に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 身近な地域で行われること | 2. 料金が無料または安いこと |
| 3. 一緒に参加する仲間がいること | 4. 参加した効果が実感できること |
| 5. 送迎などのサービスがあること | 6. 事前に内容などがくわしくわかること |
| 7. その他(具体的に: _____) | |
| 8. どういう条件でも参加したいと思わない | 9. わからない |

Q 7. 認知症は、多くの人がかかる可能性のある病気で、認知症の方やご家族を支える地域づくりが重要な課題となっていますが、あなたは、認知症に関する次の内容を知っていますか。(いくつでも)

1. 脳の障害によって、記憶力・判断力・理解力が低下する病気であり、多くの人がかかる可能性があること
2. 原因や状態によっては、早期に発見し適切な治療を受けることによって、症状を軽くしたり、進行を遅らせることができること
3. 何もわからなくなってしまうわけではなく、感情やプライドは保たれるため、本人は多くの不安や混乱を抱えていること
4. 環境の変化への適応が難しくなるため、住み慣れた家庭や地域の暮らしの中で、生活することが大切であること
5. 徘徊などの行動には原因があり、無理に抑え込むのではなく、接し方を工夫したり、周りの環境を整えることが大切であること
6. いずれも知らない

Q 8. 高齢化の進展により、認知症を有する人も増えています。あなたは、安心して暮らせるために、生駒市ではどのような施策に優先的に取り組む必要があると思いますか。(3つまで)

1. 認知症に関する知識の習得
2. 情報交換を行う家族の会や介護教室の充実
3. 誰もが気軽に参加でき、集う場である認知症カフェの実施
4. 認知症の人と家族を支え見守るネットワークづくり
5. 若年性認知症の人が利用できるサービスや就労支援等の充実
6. 身近な地域での「認知症予防教室・認知症サポーター養成講座」の実施
7. デイサービス施設等での認知症の予防やケアの充実
8. 認知症の早期発見、早期対応に対する取り組み
9. その他(具体的に: _____)
10. わからない

Q 9. あなたは、介護保険料についてどのように感じられていますか。

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 日常生活の中で、負担ではない | 2. 日常生活の中で、あまり負担には感じない |
| 3. ある程度負担に思う | 4. 負担が重く、生活に影響がある |
| 5. その他(具体的に: _____) | |
| 6. わからない | |

問 1 1	その他
最後に、高齢者の保健・福祉について、ご記入された以外のご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。	

記入もれがないか、今一度お確かめください。

なお、本調査の結果によっては、介護予防などのサービスが必要であると思われる方には、あらためて、生駒市介護保険課もしくは、担当地域の地域包括支援センターよりご連絡させていただく場合があります。

—

第6期介護保険事業計画策定のための居宅介護支援事業所・
介護予防支援事業所向けアンケート
【調査票】

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に
入れて、5月21日（水）までに投函してください。

記入日	平成 年 月 日
サービス種類	
事業所名	〇〇法人 △△事業所 (記入された方の役職：_____)
電話番号	

生駒市介護保険課

は じ め に

事業所の皆様には、日頃から生駒市の介護福祉行政に、ご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

このほど、生駒市では介護保険事業及び高齢者保健福祉施策の充実を図るため、第6期生駒市介護保険事業計画並びに高齢者保健福祉計画を策定することといたしました。

つきましては、この策定をするにあたり、事業所の皆様の業務に関わる忌憚のないご意見を伺い、計画づくりに反映させたいと考えているところです。

恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、収集した情報につきましては、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。

平成26年5月

生駒市介護保険課

記 入 に 際 し て の お 願 い

1. この調査は、平成26年5月1日を基準日としてお答えください。
2. 同一法人様宛にアンケートが複数届く場合がありますが、サービス種類ごとに回答をお願いいたします。
3. 事業所所属のケアマネジャー個別の調査ではないため、事業所内でケアマネジャー皆様の意見を聞くなどし、意見を取りまとめていただき、事業所を代表して記入していただきますようお願いいたします。
4. 各質問のご回答については、該当する番号に○印をつけてください。その際、質問により1つのみ回答いただくものと、複数をご回答いただくものがありますので、ご注意ください。また、人数を入れていただく箇所については 人、(人) の空いているところにご記入ください。
5. ご回答いただく際に、「その他」を選択される場合には、その番号を○で囲み、() 内にその内容をできるだけ具体的にご記入ください。
6. すべての質問へのご記入が済みましたら、お手数ですが、3つ折にし同封の返信用封筒に入れて、5月21日（水）までに投函してください。
7. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

問合せ先 生駒市介護保険課
電話 74-1111
(内線 482～488)

問 1. 貴事業所（生駒市内に限る）に勤務しているケアプラン作成担当者の人数を、貴事業所での勤務年数ごとに、常勤と非常勤に分けてご記入ください。（他の職務を兼務している人も含みます）。

※ ケアプラン作成担当者とは介護支援専門員及び地域包括支援センター職員を言います。

	勤続年数		
	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上
常勤	人	人	人
非常勤	人	人	人

問 2. 貴事業所では、ケアプラン作成担当者人数は足りていますか。（○は1 つだけ）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 非常に不足している | 2. 不足している |
| 3. 足りている | 4. わからない |

→ 問 2-1. 不足している原因は何だと思えますか。（○は1 つだけ）

- 雇用したいが募集しても応募がないため
- 利用者が少ないため、雇用できないため
- その他（具体的に：_____）

問 3. 貴事業所のケアプラン担当件数は1 年前と比較して増減しましたか。（○は1 つだけ）

- | | |
|------------|----------|
| 1. 増加した | 2. 減少した |
| 3. ほぼ変わらない | 4. わからない |

→ 問 3-1. 過不足している原因は何だと思えますか。（○は1 つだけ）

- 利用者の増減のため
- 作成担当ケアマネの増減のため
- その他（具体的に：_____）

問 4. 貴事業所の利用者数（相談件数など）は、1 年前と比べてどのような状況ですか。（○は1 つだけ）

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 増加（2 割以上）している | 2. やや増加（1 割程度）している |
| 3. ほぼ同じである | 4. やや減少（1 割程度）している |
| 5. 減少（2 割以上）している | 6. わからない |

→ 問 4-1. 減少している理由は何だと思えますか。

理由（簡潔に：_____）

問 5. 貴事業所の居宅介護支援事業の収支はどのようになっていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 黒字である | 2. ほぼ均衡している |
| 3. やや赤字である | 4. かなり赤字である |
| 5. わからない | |

→ 問 5-1. 赤字の理由は何だと思えますか。(○は1つだけ)

1. 利用者が少ないため
2. その他(具体的に: _____)

問 6. 貴事業所がサービスを提供するうえで課題ととらえられていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 契約やサービスについての説明が十分できていないこと
2. ケアプランに利用者や家族の意向を十分反映できていないこと
3. 利用者1人に十分な時間をかけられないこと
4. 利用者への訪問・連絡が不十分なこと
5. 利用者や家族とのコミュニケーションが難しいこと
6. 困難事例への対応が難しいこと
7. 高齢者福祉全体に渡るマネジメントが難しいこと
8. 担当者会議を十分開けないこと
9. サービス提供事業者との連携が難しいこと
10. その他の福祉関係者との連携が難しいこと
11. 医師や医療機関との連携が難しいこと
12. 地域との連携が難しいこと
13. その他(具体的に: _____)
14. 特に課題となっていることはない

問 7. 貴事業所では、これまでに利用者や家族から、次のような相談や苦情を受けたことがありますか。(あてはまるものの番号すべてをお書きください)

(1) 相談 (_____) (2) 苦情 (_____)

1. 説明や契約内容がわかりにくい
2. 契約やサービスの内容が考えていたのと違う
3. サービスを希望通り受けられない
4. ケアマネジャーの対応に不満がある
5. ケアマネジャーの連絡や訪問が少ない
6. 経済的負担が大きい
7. ヘルパーやサービス内容に不満がある
8. その他(具体的に: _____)
9. 相談や苦情を受けることはない

問 8. 貴事業所では、最近 1 年間にケアプラン作成担当者が研修を受ける機会がありましたか。それぞれについて受けた人数をお書きください。

- ① 職場内・外両方の研修を受けた (____人)
- ② 職場内研修のみを受けた (____人)
- ③ 職場外研修のみを受けた (____人)
- ④ 研修を受ける機会がなかった (____人)

問 9-1. 貴事業所として、生駒市で不足していると感じる介護保険サービスはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

サービスの種類		生駒市で不足している と感じている介護保険 サービス
在宅系	1. 居宅介護支援	
	2. 訪問介護	
	3. 訪問入浴介護	
	4. 訪問看護	
	5. 訪問リハビリテーション	
	6. 居宅療養管理指導	
	7. 通所介護	
	8. 通所リハビリテーション	
	9. 短期入所生活介護	
	10. 短期入所療養介護	
	11. 特定施設入居者生活介護	
	12. 福祉用具貸与	
	13. 特定福祉用具販売	
施設系	1. 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	
	2. 介護老人保健施設	
	3. 介護療養型医療施設（療養型病床等）	
地域密着型	1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	
	2. 夜間対応型訪問介護	
	3. 認知症対応型通所介護（認知症デイ）	
	4. 小規模多機能型居宅介護	
	5. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	
	6. 地域密着型特定施設入居者生活介護（小規模特定施設）	
	7. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模特養）	
	8. 複合型サービス	

問 9-2. 次の地域密着型サービスについて、お聞きます。（それぞれについてあてはまるものすべてに○）

(1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護の内容

1. サービス内容は十分に理解している
2. サービス内容を具体的に良く知らない
3. 利用者から利用希望を受けたことがある
4. 利用者から利用希望を受けたことはない
5. その他（具体的に：_____）

(2) 小規模多機能型居宅介護

1. サービス内容は十分に理解している
2. サービス内容を具体的に良く知らない
3. 利用者から利用希望を受けたことがある
4. 利用者から利用希望を受けたことはない
5. その他（具体的に：_____）

(3) 複合型サービス

1. サービス内容は十分に理解している
2. サービス内容を具体的に良く知らない
3. 利用者から利用希望を受けたことがある
4. 利用者から利用希望を受けたことはない
5. その他（具体的に：_____）

問 10. ケアマネジメント業務を行う際に、次のようなことはありますか。（それぞれについて1つに○）

(1) 利用者と家族で介護に対する意向が異なること

1. よくある
2. たまにある
3. ない

(2) 複数の事例に追われることが多いこと（業務量が多いこと）

1. よくある
2. たまにある
3. ない

(3) 職員の知識や理解が不足していると感じること

1. よくある
2. たまにある
3. ない

(4) サービスの調整が難しいこと

1. よくある
2. たまにある
3. ない

(5) その他、特徴的なことがあれば

その他（具体的に：_____）

問 11. 次のようなサービスについて、生駒市での過不足の状況をどのようにとらえていますか。（それぞれについて1つに○）

(1) 外出や買物、通院などの移動手段

1. 充足している 2. 不足している 3. わからない

(2) 地域での見守り

1. 充足している 2. 不足している 3. わからない

(3) ボランティアによる訪問など

1. 充足している 2. 不足している 3. わからない

(4) その他、不足していると思われるサービスをお書きください。

その他（具体的に： _____）

ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、今一度お確かめください。

記入した調査票を切り離さずに送付されたものすべて（表紙も含みます）を3つ折りにして同封した返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

—

第6期介護保険事業計画策定のための事業者向けアンケート 【調査票】

調査票記入後は、3つ折りにし同封の返信用封筒に
入れて、5月21日（水）までに投函してください。

記入日	平成 年 月 日
サービス種類	
事業所名	○△□事業所 (記入された方の役職：_____)
電話番号	

生駒市介護保険課

はじめに

事業所の皆様には、日頃から生駒市の介護福祉行政に、ご理解、ご協力いただきまして誠にありがとうございます。

このほど、生駒市では介護保険事業及び高齢者保健福祉施策の充実を図るため、第6期生駒市介護保険事業計画並びに高齢者保健福祉計画を策定することといたしました。

つきましては、この策定をするにあたり、事業所の皆様の業務に関わる忌憚のないご意見を伺い、計画づくりに反映させたいと考えているところです。

恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、収集した情報につきましては、計画策定のための資料としてのみ活用され、その他の目的で使用されることは一切ありません。

平成26年5月

生駒市介護保険課

記入に際してのお願い

1. この調査は、平成26年5月1日を基準日としてお答えください。
2. 同一法人様宛にアンケートが複数届く場合がありますが、サービス種類ごとに回答をお願いいたします。
3. 各質問のご回答については、該当する番号に○印をつけてください。その際、質問により1つのみ回答いただくものと、複数をご回答いただくものがありますので、ご注意ください。
4. ご回答いただく際に、「その他」を選択される場合には、その番号を○で囲み、()内にその内容をできるだけ具体的にご記入ください。
5. すべての質問へのご記入が済みましたら、お手数ですが、3つ折にし同封の返信用封筒に入れて、5月21日(水)までに投函してください。
6. この調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

問合せ先 生駒市介護保険課
電話 74-1111
(内線 482~488)

問 1. 貴事業所の運営主体は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）

- | | | | |
|--------------|---------|-----------|---------|
| 1. 社会福祉法人 | 2. 医療法人 | 3. 株式会社 | 4. 有限会社 |
| 5. 財団法人・社団法人 | 6. 協同組合 | 7. NPO 法人 | 8. その他 |

問 2. 生駒市の認定者数は年々増加傾向にあります。貴事業所の利用者数は、以前の見込みと比べてどのように感じますか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------------|---------------|----------------|
| 1. 多い（2割以上） | 2. やや多い（1割程度） | 3. ほぼ見込みどおり |
| 4. やや少ない（1割程度） | 5. 少ない（2割以上） | 6. 大変少ない（3割以上） |
| 7. わからない | | |

問 3. 現在の貴事業所の経営状況について、どのように認識していますか。（○は1つだけ）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 常時黒字経営である | 2. 赤字の月もあるが概ね黒字経営である |
| 3. 収支は均衡している | |
| 4. 黒字の月もあるが概ね赤字経営である | 5. 常時赤字経営である |

問 3-1. 赤字経営の理由は何であるとお考えですか。簡潔にご記入ください。

理由（簡潔に： _____

 _____）

問 4. 貴事業所は、利用者から苦情や相談を受けたとき、これまでどのような対応をしてきましたか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|---------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 選任相談員による対応 | 2. 行政への相談 | 3. 研修会の実施 |
| 4. 対応マニュアルを作成 | 5. 利用者や家族との話し合い | 6. 事業所の顧問弁護士に相談 |
| 7. その他（具体的に： _____） | | |

問 5. 貴事業所が、サービスの質の向上に向けて行っている具体的な取り組みは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 内部の研修や講習会の開催 | 2. 外部の研修や講習会への職員の派遣 |
| 3. 第三者評価機関の評価を実施 | 4. 利用者アンケートの実施 |
| 5. サービス提供マニュアルを作成 | 6. 苦情や相談の受付体制の整備 |
| 7. その他（具体的に： _____） | |
| 8. 特に取り組みをしていない | |

問 6. 貴事業所が事業を運営するうえで問題となっていることは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1. 職員の採用が難しいこと | 2. 離職する職員が多いこと |
| 3. 職員の能力向上が難しいこと | 4. 収益が少ないこと |
| 5. 運営費がかさむこと | 6. 利用者が少ないこと |
| 7. 利用者のニーズがつかめないこと | 8. 苦情やトラブルが多いこと |
| 9. 必要な情報の入手が難しいこと | 10. 地域との連携が不十分なこと |
| 11. 同業者との連携・情報交換が不足していること | |
| 12. その他(具体的に: _____) | |
| 13. 特に問題はない | |

問 7. 貴事業所で、必要な連携が不足していると考えている関係機関・関係者はどこですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------------|---------------|-----------|
| 1. ケアマネジャー | 2. 他の事業者 | 3. 医療機関 |
| 4. 社会福祉協議会 | 5. 地域包括支援センター | 6. 市の担当者 |
| 7. 自治会 | 8. 民生・児童委員 | 9. 利用者の家族 |
| 10. その他(具体的に: _____) | | |
| 11. 連携は十分できている | | |

問 8. 貴事業所では、今後、介護保険制度など福祉施策を充実していくためには、どのようなことが必要だとお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 介護保険制度を周知すること | 2. 事業者への情報提供を充実すること |
| 3. 事業者間の交流促進を支援すること | 4. 事業者向け研修会の実施すること |
| 5. 事業者と地域の交流促進を支援すること | 6. 市独自サービスを充実すること |
| 7. 介護報酬の見直しを働きかけること | 8. 低所得者対策を充実すること |
| 9. 認知症対策を強化すること | 10. 人材確保の方策を充実すること |
| 11. その他(具体的に: _____) | |
| 12. 特にない、わからない | |

問 9. 現在提供している介護サービスの今後の事業展開(サービスの提供量)について、貴事業所はどのように考えておられますか。わかる範囲でお答えください。

(○は1つだけ)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. 拡大したい | 2. 現状維持 |
| 3. 縮小したい | 4. 廃止を考えている |

問 9-1. 問 9 の理由を簡潔にお書きください。

理由(簡潔に: _____)

問 10. 貴事業所で、今後生駒市民に対して新規に事業展開したいサービスはありますか。
もっとも近い考え方に○をつけてください。（サービス種類ごとに○をつけてください）

サービスの種類		現在、提供している	具体的に取り組む計画がある	取り組みたいが、今のところ具体的計画はない	取り組む意向はない（やめたい）
在宅系	1. 居宅介護支援				
	2. 訪問介護				
	3. 訪問入浴介護				
	4. 訪問看護				
	5. 訪問リハビリテーション				
	6. 居宅療養管理指導				
	7. 通所介護				
	8. 通所リハビリテーション				
	9. 短期入所生活介護				
	10. 短期入所療養介護				
	11. 特定施設入居者生活介護				
	12. 福祉用具貸与				
	13. 特定福祉用具販売				
施設系	1. 指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）				
	2. 介護老人保健施設				
	3. 介護療養型医療施設（療養型病床等）				
地域密着型	1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護				
	2. 夜間対応型訪問介護				
	3. 認知症対応型通所介護（認知症デイ）				
	4. 小規模多機能型居宅介護				
	5. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）				
	6. 地域密着型特定施設入居者生活介護（小規模特定施設）				
	7. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（小規模特養）				
	8. 複合型サービス				

問 11. 問 10 でそれぞれのサービスについて「1. 計画がある」「2. 取り組みたいが計画はない」とご回答された貴事業所にお聞きします。

計画があるサービスのうち、主なもの5つについて、わかる範囲でお答えください。
(日常生活圏域は別紙をご覧ください。)

(1) 計画があるサービスの問 10 の番号・名称 ()

① 日常生活圏域の番号 (あてはまるものすべてに○)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 未定

② 開設時期 (あてはまるものすべてに○)

1. 平成 26 年度 2. 平成 27 年度 3. 平成 28 年度
4. 平成 29 年度 5. 平成 30 年度以降 6. 時期未定

③ 規模 (年間の利用者定員・入所者定員、時間帯 など)

簡潔に ()

(2) 計画があるサービスの問 10 の番号・名称 ()

① 日常生活圏域 (あてはまるものすべてに○)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 未定

② 開設時期 (あてはまるものすべてに○)

1. 平成 26 年度 2. 平成 27 年度 3. 平成 28 年度
4. 平成 29 年度 5. 平成 30 年度以降 6. 時期未定

③ 規模 (年間の利用者定員・入所者定員、時間帯 など)

簡潔に ()

(3) 計画があるサービスの問 10 の番号・名称 ()

① 日常生活圏域 (あてはまるものすべてに○)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 未定

② 開設時期 (あてはまるものすべてに○)

1. 平成 26 年度 2. 平成 27 年度 3. 平成 28 年度
4. 平成 29 年度 5. 平成 30 年度以降 6. 時期未定

③ 規模 (年間の利用者定員・入所者定員、時間帯 など)

簡潔に ()

(4) 計画があるサービスの問 10 の番号・名称 ()

① 日常生活圏域 (あてはまるものすべてに○)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 未定

② 開設時期 (あてはまるものすべてに○)

1. 平成 26 年度 2. 平成 27 年度 3. 平成 28 年度
4. 平成 29 年度 5. 平成 30 年度以降 6. 時期未定

③ 規模 (年間の利用者定員・入所者定員、時間帯 など)

簡潔に ()

(5) 計画があるサービスの問10の番号・名称 ()

① 日常生活圏域 (あてはまるものすべてに○)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 未定

② 開設時期 (あてはまるものすべてに○)

1. 平成26年度 2. 平成27年度 3. 平成28年度
4. 平成29年度 5. 平成30年度以降 6. 時期未定

③ 規模 (年間の利用者定員・入所者定員、時間帯 など)

簡潔に ()

問12. 最後に、市役所や関係機関(社会福祉協議会、地域包括支援センターなど)への意見や要望があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、今一度お確かめください。

記入した調査票を切り離さずに送付されたものすべて(表紙も含みます)を3つ折りにして同封した返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。

平成 26 年 9 月

発 行 ／ 生駒市

(介護保険課、高齢福祉課)

〒630-0288 奈良県生駒市東新町 8 番 38 号

TEL 0743-74-1111 (代)